2020 年度

情報公開

•大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
•実務経験のある教員等による授業科目
•客観的な指標の算出方法
•卒業の認定に関する方針
•シラバス
•学則
•自己評価結果
•学校関係者評価

様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	255 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	285 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ＨＰ　www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html　にて公表

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

HP　www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
新門　正広 （非常勤）	新門歯科医院　院長	R2.2.1～ R3.7.14	民間の視点からの適正な学校運営の指導・助言
林　　康樹 （非常勤）	社会福祉法人長命荘 事務長	同　上	同　上
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・教員による科目 旧年度シラバスからの直接入力によって新年度シラバスの加筆・訂正等記入の確認を行う。 ・外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・学内にて最終確認を行う。 ・新年度開始時期に、印刷したシラバスを学生に配布する。	
授業計画書の公表方法	・学校事務室と学校 HP にて閲覧可能 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学習成果の評価及び単位の認定は次の学則第 23 条に基づき、筆記試験、実技試験、レポートを主軸に置き科目ごとに客観的な基準を設け判定している。 1. 授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。 2. 授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。 3. 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。 4. 出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。 5. 臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。 6. 臨床実習の履修の認定は、実習終了後に行う。 7. 評価は 100 点を満点とし 60 点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価の方法は学則細則第３条 ２項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」、60 点未満を「不可」と判定している。

さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にＧＰＡ（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のＧＰ（Grade Point）を付与し、次のとおり平均点（ＧＰＡ）を算出している。

１．ＧＰＡ成績評価について

標語	ＧＰ	素点	
秀	4.0	100 点～90 点以上	合　格
優	3.0	90 点未満～80 点以上	
良	2.0	80 点未満～70 点以上	
可	1.0	70 点未満～60 点以上	
不可	0.0	60 点未満	不合格

２．ＧＰＡの算出方法

$$\frac{\text{〔秀〕修得単位数}\times 4 + \text{〔優〕修得単位数}\times 3 + \text{〔良〕修得単位数}\times 2 + \text{〔可〕修得単位数}\times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※単位認定は算出の対象としない。

※少数点第３位を四捨五入し、小数点第２位までの数字で成績表に記載する。

【単位の計算方法】学則第 21 条による

１単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

１単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）
45 時間（臨床実習）

客観的な指標の算出方法の公表方法	学校 HP　www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html　にて公開

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

・理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

【学則　第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。

②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。

③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。

④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格
作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則　教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）

第 13 条　　次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1）理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2）作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 ／ 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による

1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、
45 時間（臨床実習）

卒業の認定に関する方針の公表方法	・学校 HP　www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	阪奈中央リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html　にて公表

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

※2019 年以前入学者

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3120 単位時間	1485 単位時間	765 単位時間	870 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	45 人	2 人	6 人	65 人	71 人

※2020 年以降入学者

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3175 単位時間	1635 単位時間/単位	880 単位時間/単位	660 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
2019 年以前入学者と同じ	36 人	0 人	2019 年以前入学者と同じ		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆･訂正等記入の確認を行う。

・外来講師科目
　郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。
・学内にて最終確認を行う。
・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。
・学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表

成績評価の基準・方法

（概要）
成績評価の方法は学則細則第 3 条 2 項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。
各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にＧＰＡ（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のＧＰ（Grade Point）を付与し、平均点（ＧＰＡ）を算出している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

学修支援等

（概要）
留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後 4 年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
22 人（100%）	0 人（　　%）	21 人（95%）	1 人（5%）

（主な就職、業界等）
医療施設（病院等）

（就職指導内容）
ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削
教員による就職活動指導

（主な学修成果（資格・検定等））
理学療法士国家試験受験資格、文章検定４級・３級

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83 人	16 人	19.2%

（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更、経済的理由など
（中退防止・中退者支援のための取組） ・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている ・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など

①学科等の情報

※2019 年以前入学者

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	作業療法学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3105 単位時間	1665 単位時間	405 単位時間	1035 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	36 人	0 人	6 人	65 人	71 人

※2020 年以降入学者

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	作業療法学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3160 単位時間	1740 単位時間/単位	390 単位時間/単位	1030 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
2019 年以前入学者と同じ	25 人	0 人	2019 年以前入学者と同じ		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・教員による科目 旧年度シラバスの回覧または直接入力によって新年度シラバスの加筆･訂正等記入の確認を行う。 ・外来講師科目 郵送またはメール等によって新年度シラバスの確認を行う。 ・学内にて最終確認を行う。 ・新年度開始時期に、印刷したシラバスをオリエンテーションで学生に配布する。 ・学校 HP www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html にて公表。
成績評価の基準・方法

（概要）
　成績評価の方法は学則細則第３条 ２項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」と判定している。
各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にＧＰＡ（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のＧＰ（Grade Point）を付与し、平均点（ＧＰＡ）を算出している。

卒業・進級の認定基準

（概要）
　理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

学修支援等

（概要）
留年となり特別学費支援制度規定条件を満たした学生については、入学後４年目の年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31 人 （100%）	0 人 （　　%）	23 人 （74%）	8 人 （26%）

（主な就職、業界等）
　医療施設（病院等）

（就職指導内容）
　ビジネスマナー研修の実施、希望者への模擬面接、履歴書の添削
　教員による就職活動指導

（主な学修成果（資格・検定等））
　作業療法士国家試験受験資格、文章検定４級・３級

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80 人	9 人	11.2%

（中途退学の主な理由）
　学業不振、進路変更、病気、経済的理由など

（中退防止・中退者支援のための取組）
・脱落者を出さないようにするため、カリキュラム外で少人数指導を行っている
・教員による本人との面談、保護者への電話連絡、保護者との面談など

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法学科 作業療法学科	300,000 円	750,000 円	450,000 円	※ 2018 年以前入学者
理学療法学科 作業療法学科	300,000 円	760,000 円	540,000 円	※ 2018 年以降入学者
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 〇主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど 〇評価委員の定数：5 名以上 〇評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など 〇評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会　阪奈中央病院 院長　川口正一郎	令和２年１月１日～ 令和３年１２月３１日	企業関係者
奈良県専修学校各種学校連合会 会長　大原　敏敬	同　　上	教育関連有識者
学校法人興国学園　興国高等学校 副校長　宮野　博	同　　上	高校関係者
医療法人和幸会パークヒルズ田原苑 看護部長　前原　園代	同　　上	地域住民
医療法人和幸会阪奈中央病院ﾘﾊﾋﾞﾘ部 部長　川原　勲	同　　上	企業関係者
医療法人和幸会阪奈サナトリウム 師長　酒井　真紀	同　　上	卒業生
医療法人和幸会阪奈中央病院 谷川　優香	同　　上	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html
第三者による学校評価（任意記載事項）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページにて公開 www.hanna-reha.ac.jp/johokokai.html

［別表１－１］

理学療法学科　教育課程

２０１９年度以前入学者対象

科目			実務教員科目	実施時間 講義	実施時間 演習実習	単位 講義	単位 演習実習	1年次 前期 時間	1年次 前期 単位	1年次 後期 時間	1年次 後期 単位	2年次 前期 時間	2年次 前期 単位	2年次 後期 時間	2年次 後期 単位	3年次 前期 時間	3年次 前期 単位	3年次 後期 時間	3年次 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 (14 単位)	教育学		15		1		15	1											14 単位
		心理学		30		2		30	2											
		物理学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		統計学		15		1		15	1											
		人間工学		30		2		30	2											
		医学英語		30		2		30	2											
		保健体育			30		1	30	1											
		公衆衛生学		15		1		15	1											
		コミュニケーション学		30		2		30	2											
	小計			195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 (12 単位)	解剖学Ⅰ		45		1		45	1											28 単位
		解剖学Ⅱ		45		1				45	1									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1		30	1											
		生理学Ⅲ		30		1				30	1									
		生理学Ⅳ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ		45		1		45	1											
		基礎運動学Ⅱ		60		2				60	2									
		人間発達学		30		1						30	1							
	小計			405	0	12	0	180	5	195	6	30	1	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 (12 単位)	病理学		30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		神経内科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		外科学	○	15		1								15	1					
		脳神経外科学	○	15		1								15	1					
		整形外科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		精神医学	○	30		1						30	1							
		小児科学	○	15		1						15	1							
		臨床心理学		15		1						15	1							
	小計			300	0	12	0	0	0	30	1	150	6	120	5	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 (4 単位)	リハビリテーションⅠ	○	30		1		30	1											
		リハビリテーションⅡ	○	15		1				15	1									
		リハビリテーションⅢ	○	15		1						15	1							
		社会福祉概論		15		1				15	1									
	小計			75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎理学療法学 (10 単位)	理学療法概論	○	30		1		30	1											61 単位
		臨床運動学Ⅰ	○		30		1					30	1							
		臨床運動学Ⅱ	○		30		1					30	1							
		動作分析学	○		30		1							30	1					
		理学療法障害学	○	30		1				30	1									
		理学療法研究概論	○	15		1										15	1			
		実習演習	○		60		2									30	1	30	1	
		基礎理学療法学	○		90		2									45	1	45	1	
	小計			75	240	3	7	30	1	30	1	60	2	30	1	90	3	75	2	
	理学療法評価学 (9 単位)	理学療法評価学Ⅰ	○	30	45	1	1	75	2											
		理学療法評価学Ⅱ	○	30	45	1	1			75	2									
		理学療法評価学Ⅲ	○	30	45	1	1					75	2							
		理学療法評価演習Ⅰ	○		30		1			30	1									
		理学療法評価演習ⅡA	○		45		1					45	1							
		理学療法評価演習ⅡB	○		45		1							45	1					
	小計			90	255	3	6	75	2	105	3	120	3	45	1	0	0	0	0	
	理学療法治療学 (20 単位)	運動療法学	○	15	30	1	1			45	2									
		物理療法学Ⅰ	○	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	○	30	30	1	1			60	2									
		義肢装具学Ⅰ	○	45		2						45	2							
		義肢装具学Ⅱ	○	15		1								15	1					
		日常生活動作学Ⅰ	○	30		1				30	1									
		日常生活動作学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		理学療法治療各論ⅠA	○	30		1						30	1							
		理学療法治療各論ⅠB	○		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅱ	○	15	30	1	1							45	2					
		理学療法治療各論Ⅲ	○		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅳ	○		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅴ	○		30		1					30	1							
		理学療法治療各論ⅥA	○		30		1							30	1					
		理学療法治療各論ⅥB	○	30		1								30	1					
		理学療法治療各論Ⅶ	○	15		1								15	1					
	小計			285	240	12	8	30	1	135	5	105	4	255	10	0	0	0	0	
	地域理学療法学 (4 単位)	生活環境論	○	15		1								15	1					
		リハビリテーション機器	○	15		1										15	1			
		地域理学療法学	○	15		1										15	1			
		地域サービス技術論		15		1										15	1			
	小計			60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	15	1	45	3	0	0	
	臨床実習 (18 単位)	観察実習	○		45		1			45	1									
		検査測定実習	○		45		1					45	1							
		評価実習	○		180		4							180	4					
		治療実習Ⅰ	○		300		6									300	6			
		治療実習Ⅱ	○		300		6											300	6	
	小計			0	870	0	18	0	0	45	1	45	1	180	4	300	6	300	6	
合計			計 73 単位	1485	1635	63	40	570	24	570	19	525	18	645	22	435	12	375	8	103 単位

［別表１－２］

理学療法学科　教育課程

２０２０年度以降入学者対象

科目			実務教員科目〇	実施時間 講義	実施時間 演習実習	単位 講義	単位 演習実習	1年次 前期 時間	1年次 前期 単位	1年次 後期 時間	1年次 後期 単位	2年次 前期 時間	2年次 前期 単位	2年次 後期 時間	2年次 後期 単位	3年次 前期 時間	3年次 前期 単位	3年次 後期 時間	3年次 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解 （14 単位）	教育学		15		1		15	1											14単位
		心理学		30		2		30	2											
		物理学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		統計学		15		1				15	1									
		人間工学		30		2		30	2											
		外国語Ⅰ(医学英語)※選択必修		30		2		30	2											
		外国語Ⅱ(医学日本語)※選択必修		30		2		30	2											
		保健体育			30		1	30	1											
		公衆衛生学		15		1		15	1											
		コミュニケーション学		30		2		30	2											
		小　計		195	30	13	1	210	13	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 （15 単位）	解剖学Ⅰ		45		2		45	2											33単位
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1		30	1											
		生理学Ⅲ		30		1				30	1									
		生理学Ⅳ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ		15		1		15	1											
		基礎運動学Ⅱ		30		1		30	1											
		基礎運動学Ⅲ		30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅳ		30		1				30	1									
		人間発達学		30		1						30	1							
		小　計		405	0	15	0	180	7	195	7	30	1	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 （14 単位）	病理学		30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	〇	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	〇	30		1								30	1					
		臨床神経学Ⅰ	〇	30		1						30	1							
		臨床神経学Ⅱ	〇	30		1								30	1					
		整形外科学Ⅰ	〇	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	〇	30		1								30	1					
		外科・救急医学	〇	15		1								15	1					
		精神医学	〇	15		1										15	1			
		小児科学	〇	15		1						15	1							
		臨床薬学	〇	15		1										15	1			
		臨床栄養学		15		1												15	1	
		画像診断学		15		1										15	1			
		臨床心理学		15		1										15	1			
		小　計		315	0	14	0	0	0	30	1	105	4	105	4	60	4	15	1	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 （4 単位）	リハビリテーションⅠ	〇	30		1		30	1											
		リハビリテーションⅡ	〇	30		1				30	1									
		リハビリテーションⅢ	〇	15		1						15	1							
		社会福祉概論		15		1				15	1									
		小　計		90	0	4	0	30	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎理学療法学 （9 単位）	理学療法概論Ⅰ	〇	15		1		15	1											72単位
		理学療法概論Ⅱ	〇	15		1				15	1									
		臨床運動学Ⅰ	〇	30		1						30	1							
		臨床運動学Ⅱ	〇	30		1						30	1							
		動作分析学	〇	30		1								30	1					
		理学療法障害学	〇	30		1				30	1									
		理学療法研究概論	〇	15		1										15	1			
		基礎理学療法学Ⅰ	〇	30		1										30	1			
		基礎理学療法学Ⅱ	〇	30		1												30	1	
		小　計		225	0	9	0	15	1	45	2	60	2	30	1	45	2	30	1	
	理学療法評価学 （12 単位）	理学療法評価学Ⅰ	〇	30	45	1	1	75	2											
		理学療法評価学Ⅱ	〇	30	45	1	1			75	2									
		理学療法評価学Ⅲ	〇	30	45	1	1					75	2							
		理学療法評価演習Ⅰ	〇		45		2			45	2									
		理学療法評価演習ⅡA	〇		45		2					45	2							
		理学療法評価演習ⅡB	〇		45		2							45	2					
		小　計		90	270	3	9	75	2	120	4	120	4	45	2	0	0	0	0	
	理学療法管理学 （2 単位）	理学療法管理学　Ⅰ	〇	15		1										15	1			
		理学療法管理学　Ⅱ	〇	15		1												15	1	
		小　計		30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	
	理学療法治療学 （24 単位）	運動療法学	〇	15	30	1	1			45	2									
		物理療法学Ⅰ	〇	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	〇	30		1				30	1									
		義肢装具学Ⅰ	〇	30		1						30	1							
		義肢装具学Ⅱ	〇	15		1								15	1					
		日常生活動作学Ⅰ	〇		30		1	30	1											
		日常生活動作学Ⅱ	〇		30		1							30	1					
		神経理学療法学	〇	15	30	1	1					45	2							
		小児理学療法学	〇		30		1							30	1					
		脊髄損傷理学療法学	〇		30		1							30	1					
		運動器理学療法学	〇	15	30	1	1							45	2					
		神経筋難病理学療法学	〇		30		1					30	1							
		呼吸理学療法	〇		30		1					30	1							
		心血管理学療法学	〇	15		1								15	1					
		糖尿病理学療法学	〇	15		1								15	1					
		スポーツ理学療法学	〇		30		1							30	1					
		がんリハビリテーション	〇	15		1										15	1			
		理学療法治療演習Ⅰ	〇		30		1									30	1			
		理学療法治療演習Ⅱ	〇		30		1											30	1	
		動物介在療法学Ⅰ※選択		⑮		①				⑮	①									
		動物介在療法学Ⅱ※選択必修		15		1								15	1					
		パーソナルトレーニング論※選択必修		15		1								15	1					
		総合理学療法学	〇	30		1												30	1	
		小　計（選択科目除く）		240	360	12	12	60	2	75	3	135	5	225	10	45	2	60	2	
	地域理学療法学 （3 単位）	生活環境論	〇	15		1								15	1					
		予防理学療法	〇	15		1												15	1	
		地域理学療法学	〇	15		1										15	1			
		小　計		45	0	3	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	15	1	
	臨床実習 （22 単位）	観察実習(医療)	〇		40		1			40	1									
		観察実習(訪問・通所)	〇		40		1			40	1									
		検査測定実習	〇		80		2					80	2							
		評価実習	〇		160		4							160	4					
		治療実習Ⅰ	〇		280		7									280	7			
		治療実習Ⅱ	〇		280		7											280	7	
		小　計		0	880	0	22	0	0	80	2	80	2	160	4	280	7	280	7	
合　計			計 84 単位	1635	1540	75	44	570	26	605	22	545	19	580	22	460	17	415	13	119単位

［別表２－１］

作業療法学科　教育課程

２０１９年度以前入学者対象

授業科目			実務教員科目に○	授業時間数 講義	授業時間数 演習実習	単位数 講義	単位数 演習実習	1年 前期 時間	1年 前期 単位	1年 後期 時間	1年 後期 単位	2年 前期 時間	2年 前期 単位	2年 後期 時間	2年 後期 単位	3年 前期 時間	3年 前期 単位	3年 後期 時間	3年 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 （14 単位）	物理学		15		1		15	1											14 単位
		統計学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		保健体育			30		1	30	1											
		英語		30		2		30	2											
		教育学		15		1		15	1											
		心理学		30		2		30	2											
		文学		30		2		30	2											
		公衆衛生学		15		1		15	1											
		人間工学		30		2		30	2											
	小　計			195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能と心身の発達 （17 単位）	解剖学Ⅰ		45		2		45	2											33 単位
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1				30	1									
		生理学Ⅲ		30		1		30	1											
		生理学Ⅳ		30		1				30	1									
		運動学Ⅰ（上肢）		30		1		30	1											
		運動学Ⅱ（上肢）		30		1				30	1									
		運動学Ⅲ（体幹・下肢）		30		1		30	1											
		運動学Ⅳ（体幹・下肢）		30		1				30	1									
		運動学実習			60		2					60	2							
		人間発達学		30		1				30	1									
	小　計			420	60	15	2	195	7	225	8	60	2	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 （12 単位）	病理学		30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	○	30		1				30	1									
		神経内科学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		精神医学Ⅰ	○	30		1				30	1									
		精神医学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		臨床心理学		30		1				30	1									
		リハビリテーション医学		30		1						30	1							
		整形外科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		小児科学	○	15		1						15	1							
	小　計			345	0	12	0	0	0	120	4	165	6	60	2	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 （4 単位）	リハビリテーション概論	○	30		1		30	1											
		社会福祉学		15		1				15	1									
		理学療法概論	○	15		1				15	1									
		言語聴覚療法概論	○	15		1						15	1							
	小　計			75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎作業療法学 （7 単位）	作業療法概論	○	30		1		30	1											61 単位
		作業療法管理運営	○	15		1										15	1			
		作業分析学Ⅰ	○	15		1				15	1									
		作業分析学Ⅱ	○	15		1						15	1							
		基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1											
		基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1									
		作業療法研究法	○	15		1										15	1			
	小　計			90	60	5	2	60	2	45	2	15	1	0	0	30	2	0	0	
	作業療法評価学 （7 単位）	作業療法評価法総論	○	15		1		15	1											
		作業療法評価法総論演習	○		30		1							30	1					
		作業療法評価技法Ⅰ	○		30		1	30	1											
		作業療法評価技法Ⅱ	○		30		1			30	1									
		作業療法評価技法Ⅲ	○		60		2					60	2							
		作業療法評価技法Ⅳ	○		30		1							30	1					
	小　計			15	180	1	6	45	2	30	1	60	2	60	2	0	0	0	0	
	作業治療学 （20 単位）	身体障害作業療法総論	○	30		1				30	1									
		精神障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		老年障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		日常生活活動学	○	30		1						30	1							
		義肢学	○		30		1					30	1							
		装具学	○		45		1							45	1					
		福祉用具支援論Ⅰ	○	30		1						30	1							
		福祉用具支援論Ⅱ	○	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	○	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	○	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	○	45		2						45	2							
		疾患別作業療法Ⅵ（整形疾患）	○	45		2								45	2					
		疾患別作業療法Ⅶ（難病）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	○	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅸ（脊椎損傷）	○	30		1								30	1					
	小　計			465	75	18	2	0	0	30	1	255	9	255	10	0	0	0	0	
	地域作業療法学 （4 単位）	地域作業療法学Ⅰ	○	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅱ	○	15		1										15	1			
		居住環境整備論	○	15		1										15	1			
		社会生活適応論	○	15		1										15	1			
	小　計			60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	
	臨床実習 （23 単位）	臨床実習Ⅰ	○		45		1					45	1							
		臨床実習Ⅱ	○		45		1					45	1							
		臨床実習Ⅲ	○		135		3							135	3					
		総合臨床実習Ⅰ	○		405		9									405	9			
		総合臨床実習Ⅱ	○		405		9											405	9	
	小　計			0	1035	0	23	0	0	0	0	90	2	135	3	405	9	405	9	
合　計			計 73 単位	1665	1440	72	36	555	26	480	18	660	23	510	17	495	15	405	9	108 単位

［別表２－２］

作業療法学科　教育課程

２０２０年度以降入学者対象

授業科目			実務教員科目に○	授業時間数 講義	授業時間数 演習実習	単位数 講義	単位数 演習実習	1年 前期 時間	1年 前期 単位	1年 後期 時間	1年 後期 単位	2年 前期 時間	2年 前期 単位	2年 後期 時間	2年 後期 単位	3年 前期 時間	3年 前期 単位	3年 後期 時間	3年 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 （14 単位）	物理学		15		1		15	1											14 単位
		統計学		15		1		15	1											
		情報処理学		15		1		15	1											
		保健体育			30		1	30	1											
		外国語Ⅰ（医学英語）※選択必須		30		2		30	2											
		外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必須		30		2		30	2											
		教育学		15		1		15	1											
		コミュニケーション学		30		2		30	2											
		心理学		30		2		30	2											
		公衆衛生学		15		1		15	1											
		人間工学		30		2		30	2											
	小　計			195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能と心身の発達 （18 単位）	専門基礎概論		30		1		30	1											36 単位
		解剖学Ⅰ		45		2		45	2											
		解剖学Ⅱ		45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ		30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ		30		1				30	1									
		生理学Ⅰ		30		1		30	1											
		生理学Ⅱ		30		1				30	1									
		生理学Ⅲ		30		1		30	1											
		運動学Ⅰ（上肢）		30		1		30	1											
		運動学Ⅱ（上肢）		30		1				30	1									
		運動学Ⅲ（下肢・体幹）		30		1		30	1											
		運動学Ⅳ（下肢・体幹）		30		1				30	1									
		運動学実習			60		2							60	2					
		人間発達学Ⅰ（運動）		15		1				15	1									
		人間発達学Ⅱ（心理）		15		1				15	1									
	小　計			420	60	16	2	225	8	195	8	0	0	60	2	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 （14 単位）	病理学		30		1				30	1									
		栄養・薬理学		15		1						15	1							
		臨床検査学		15		1								15	1					
		救急医療概論（喀痰吸引を含む）		15		1								15	1					
		内科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	○	30		1				30	1									
		神経内科学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		精神医学Ⅰ	○	30		1				30	1									
		精神医学Ⅱ	○	30		1						30	1							
		臨床心理学		30		1				30	1									
		整形外科学Ⅰ	○	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	○	30		1								30	1					
		小児科学	○	15		1						15	1							
	小　計			360	0	14	0	0	0	120	4	150	6	90	4	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 （4 単位）	リハビリテーション概論	○	15		1		15	1											
		社会福祉学		15		1				15	1									
		多職種連携学		30		1				30	1									
		リハビリテーション制度論		15		1						15	1							
	小　計			75	0	4	0	15	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎作業療法学 （5 単位）	作業療法概論	○	30		1		30	1											70 単位
		作業療法研究法	○	15		1										15	1			
		作業分析学	○	15		1				15	1									
		基礎作業実習Ⅰ	○		30		1	30	1											
		基礎作業実習Ⅱ	○		30		1			30	1									
	小　計			60	60	3	2	60	2	45	2	0	0	0	0	15	1	0	0	
	作業療法管理学 （2 単位）	作業療法管理学Ⅰ	○	15		1										15	1			
		作業療法管理学Ⅱ	○	15		1										15	1			
	小　計			30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	0	0	
	作業療法評価学 （9 単位）	作業療法評価法総論	○	15		1		15	1											
		生活行為向上マネージメント			15	1								15	1					
		作業療法評価法演習	○		45	2								45	2					
		作業療法評価技法Ⅰ	○		30		1	30	1											
		作業療法評価技法Ⅱ	○		30		1			30	1									
		作業療法評価技法Ⅲ	○		60		2					60	2							
		作業療法評価技法Ⅳ	○		30		1							30	1					
	小　計			15	210	4	5	45	2	30	1	60	2	90	4	0	0	0	0	
	作業療法治療学 （23 単位）	身体障害作業療法総論	○	30		1				30	1									
		精神障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		老年期障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		発達障害作業療法総論	○	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	○	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	○	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	○	45		2						45	2							
		疾患別作業療法Ⅵ（整形疾患）	○	45		2								45	2					
		疾患別作業療法Ⅶ（難病）	○	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	○	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅸ（脊髄損傷）	○	30		1								30	1					
		動物介在療法Ⅰ	○	15		1				15	1									
		動物介在療法Ⅱ	○	15		1								15	1					
		日常生活活動学	○	30		1						30	1							
		義肢学	○	15		1								15	1					
		装具学	○		45		1					45	1							
		福祉用具支援技術論	○	45		2						45	2							
		福祉用具支援技術論演習	○		15		1					15	1							
	小　計			495	60	21	2	0	0	45	2	300	11	210	10	0	0	0	0	
	地域作業療法学 （4 単位）	地域作業療法学Ⅰ	○	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅱ	○	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅲ	○	15		1										15	1			
		居住環境整備論	○	15		1										15	1			
	小　計			60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	
	臨床実習 （25 単位）	臨床見学実習Ⅰ	○		40		1					40	1							
		臨床見学実習Ⅱ	○		40		1					40	1							
		地域臨床見学実習	○		80		2			80	2									
		臨床評価実習	○		120		3							120	3					
		総合臨床実習Ⅰ	○		360		9									360	9			
		総合臨床実習Ⅱ	○		360		9											360	9	
	小　計			○	1000	0	25	0	0	80	2	80	2	120	3	360	9	360	9	
	総合実習 （2 単位）	作業療法総合学習Ⅰ	○	15		1												15	1	
		作業療法総合学習Ⅱ	○	15		1												15	1	
	小　計			30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	
合　計			計 79 単位	1740	1420	83	37	570	27	560	21	605	22	570	23	465	16	390	11	120 単位

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA（Grade Point Average）制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用する。

成績評価の方法は学則細則第３条 ２項に基づき、90 点以上を「秀」、80 点以上 90 点未満を「優」、70 点以上 80 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」、60 点未満を「不可」と判定している。
さらに公平性と透明性を確保し統一した基準で、かつ国際的に通用する基準であり、各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的にＧＰＡ（Grade Point Average）制度を採用している。この制度では、各評価に対し、秀=4.0、優=3.0、良=2.0、可=1.0、不可=0.0 のＧＰ（Grade Point）を付与し、次のとおり平均点（ＧＰＡ）を算出している。

１．ＧＰＡ成績評価について

標語	ＧＰ	素点	
秀	4.0	100 点～90 点以上	合　格
優	3.0	90 点未満～80 点以上	
良	2.0	80 点未満～70 点以上	
可	1.0	70 未満～60 点以上	
不可	0.0	60 点未満	不合格

２．ＧＰＡの算出方法

$$\frac{〔秀〕修得単位数\times4+〔優〕修得単位数\times3+〔良〕修得単位数\times2+〔可〕修得単位数\times1}{総履修単位数}$$

※単位認定は算出の対象としない。
※少数点第３位を四捨五入し、小数点第２位までの数字で成績表に記載する。

以上

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校

卒業の認定に関する方針について

理学療法士法及び作業療法士法ならびに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、以下の教育課程における単位を取得した者に対して卒業を認定する。

卒業の認定について

【学則　第五章 第 25 条】医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。
①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。
③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。
④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。
理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格
作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

【細則　教育課程の履修、評価および卒業の要件】（卒業の要件）
第 13 条　　次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1）理学療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	28	33
専門分野	61	72
合計	103	119

2）作業療法学科

分野	旧単位	新単位
基礎分野	14	14
専門基礎分野	33	36
専門分野	61	70
合計	108	120

※旧単位…2019 年以前入学者 ／ 新単位…2020 年以降入学者

【単位の計算方法】学則第 21 条による
1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。1 単位：15～30 時間（講義・演習）、30～45 時間（実験・実習・実技）、45 時間（臨床実習）

以上

講 義 概 要

２０２０年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

【１年次：２０２０年度以降入学者対象】

《基礎分野》　＝科学的思考の基盤・人間と生活＝

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	曽我部 和馬	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	教育学とは、「教育」：他社と関わることについて、「学」：考え直す学問である。本講義では、この教育学の知見に、さまざまな具体的事象を関連させつつ触れることを通じて、医療従事者が、いわゆる社会的「弱者」と関わるなかで求められるべき「批判的思考」を身につけることを目指す。		
授業計画 Course Content	１　はじめに ２　アマラとカマラ：教育学へのいざない ３　〈子ども〉の誕生：近代学校史を通じて ４　特別支援教育：障害へのまなざし ５　映画「しわ」を観る ６　道徳的発達とケアの倫理 ７　ジェンダーとセクシュアリティ ８　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末試験 60% 平常点 40%（出席、ミニレポート、授業への意欲・態度）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	本講義では、各自の思考を深めるべく、授業終了時にミニレポートを課し、また適宜グループディスカッションの機会を設ける予定である。		

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野　隆章	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床の２極であるストレスとリラックスについて理解を深め、臨床心理学につなげる。		
授業計画 Course Content	１　YG 性格検査 ２　YG 解説と性格心理学 ３　心理学序論（人間学)、ストレス論 ４　ストレッサー、１次・２次ストレス ５　発症因と症状論 ６　ストレス・トラランス ７　ストレス感染論 ８　症状と性格 ９　リラックス論 １０　心理カウンセリング論 １１　心理カウンセリングの種類と実際 １２　リラックス法 １３　防衛機制など １４　治癒と性格など １５　人生プロセス		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（論述式、持込不可）により理解力、表現力、総合力を評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	随時レジュメを使用する。テキストは用いない。口述、板書の記録が大切になる。		

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又　巧也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、２つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	１　物理量とその表し方 ２　いろいろな運動と力 ３　力のつり合いと運動の法則 ４　物体の重心と回転運動 ５　運動、仕事のエネルギー ６　温度と熱 ７　波の運動 ８　電流と抵抗		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト　３０％ 期末試験　７０％		
教科書 Textbooks	「ＰＴ・ＯＴ ゼロからの物理学」　羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	浅居　孝彦	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power　Point を用いた資料の作成は、授業の進行具合に応じて、実施の可否を判断します)。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1　Word の基本操作（1）：基本的な文書作成 2　Word の基本操作（2）：文書の編集 3　Excel の基本操作（1）：データの入力・編集 4　Excel の基本操作（2）：表の作成 5　Excel の基本操作（3）：数式・関数の利用 6　Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7　Excel の応用操作：データベースとしての利用 8　単位認定試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 ※「単位認定試験」は課題レポートに変更することがあります。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（今年度 後期実施予定／担当者未定）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法の分野では EBM として科学的根拠に基づく理学療法が求められる。そのためには文献、論文、研究雑誌を理解できる能力が必要である。3 年生で行われる理学療法研究概論に先立ち、統計学を理解しながら理学療法のエビデンスに触れる機会とする。		
授業計画 Course Content	1　尺度・代表値 2　度数分布表、グラフ 3　正規分布、母集団と標本、標本抽出法 4　仮説検定の考え方、2 群の平均値に関する検定 5　3 群の平均値に関する検定 6　相関、相関係数に関する検定 7　データの処理と統計の実践 8　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「すぐできる！リハビリテーション統計」　南江堂		
備 考 Other Comments	講義、グループ学習等を通して内容の理解を深める。例題、練習問題を利用する。 Excel、統計ソフトを使用し統計処理方法を理解する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	岡田　明	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。 たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。 講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。		
授業計画 Course Content	毎回１つのテーマを取り上げていく。全体は２部構成となっており、第１部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第２部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第１部：人の心身機能とその特性〕 １　イントロダクション　－人間工学とは何か，どう役立つのか ２　人間工学に基づくイスの設計　－バイオメカニクスの視点 ３　モノづくりは人の寸法を知ることから始まる　－人体寸法とデザイン ４　悪い姿勢が体を壊す　－運動機能と身体負担 ５　感覚は五感だけではない　－感覚の種類と視覚機能 ６　人はどのように見ているのか　－視覚の生理学 ７　人は見たモノをどのように感じているのか　－視覚の心理学 ８　ストレスは悪者ではない　－疲労・ストレスと快適性デザイン 加齢に伴う機能変化　－超高齢社会への配慮 〔第２部：介護・リハビリのための応用人間工学〕 ９　エイジングと高齢者の居住環境　－高齢社会に対応したモノづくり １０　誰もが目的を達成できるモノのデザイン　－ユニバーサルデザインと人間工学 １１　姿勢と動作，介護現場の事例 １２　ボディメカニクス，福祉機器の設計 １３　リハビリの安全と生理 １４　演習：病院のユニバーサルデザイン １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績．試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学英語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	人見　麻紀	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションに関する英語の運用能力の養成を目指す。教科書やプリントを使用して、日常生活動作、運動・動作表現、診断・機能評価の表現、治療上の体位の表現や訓練・リハビリテーションの表現などについて学習する。		
授業計画 Course Content	＊「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」教科書の項目に沿って進める １　オリエンテーション（会話テストペア決め）＆Lesson１ ２　Lesson２＆Lesson３ ３　Lesson４＆Lesson５ ４　Lesson６＆Lesson７ ５　会話テスト① ６　Lesson８＆Lesson９ ７　Lesson１０＆Lesson１１ ８　Lesson１２＆Lesson１３ ９　会話テスト② １０　Lesson１４＆Lesson１５ １１　Lesson１６＆Lesson１７ １２　Lesson１８＆Lesson１９ １３　Lesson２０＆Lesson２１ １４　会話テスト③ １５　Lesson２２＆復習 期末テスト		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点　10%　（平常点 10 点） 会話テスト　30%　（10 点×3 回＝30 点） 単位認定試験　60%　（期末テスト 100 点×0.6＝60 点）		
教科書 Textbooks	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員　理学療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験１級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および１年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文字/語彙①＆文法① 2.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文字/語彙②＆文法② 3.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文法③＆読解① 4.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文法④＆読解② 5.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　読解③＆聴解① 6.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　読解④＆聴解② 7.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　模擬試験 8.　解剖学用語　総論 9.　解剖学用語　骨 10.　解剖学用語　関節 11.　解剖学用語　靭帯 12.　生理学用語　総論 13.　生理学用語　細胞の構造と機能　神経系 14.　生理学用語　循環器系 15.　生理学用語　呼吸器系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口　典孝・森山　琢磨	期間及び単位 Term/Credits	１年次　通年／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、ドッチボール ２　ラケット競技（バドミントン・ショートテニス・卓球） ３　バドミントン ４　卓球 ５　バレーボール ６　バレーボール ７　ショートテニス ８　バスケットボール ９　バドミントン １０　バスケットボール １１　卓球 １２　フットサル １３　ショートテニス １４　フットサル １５　バレーボール		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三宅　眞理	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどういう集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）：①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②公衆衛生のしくみについて理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③身のまわりの環境と健康（環境保全、食品の安全、環境行政）について理解し実践できる。 ④感染症とその予防対策について理解し実践できる。 ⑤母子保健、学校保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。 ⑥成人保健、高齢者保健、歯科保健について理解し健康増進を実践する力を養成する。 ⑦精神保健、国際保健おける保健活動について理解し実践する力を養成する。 ⑧職場と健康や健康危機管理を理解し、保健医療の専門職としての公衆衛生活動を実践できる。		
授業計画 Course Content	第１回　公衆衛生とは，公衆衛生学の活動対象：1 章，2 章 第２回　公衆衛生学のしくみ，疫学・保健統計：3，4 章 第３回　環境と健康：5 章 第４回　感染症とその予防対策，国際保健：6 章　7 章 第５回　地域における公衆衛生の実践　母子保健，学校と健康：8 章 B，9 章 第６回　地域における公衆衛生の実践　成人保健，高齢者保健，歯科保健：8 章 C，8 章 D，8 章 F 第７回　地域における公衆衛生の実践　精神保健，障碍者保健・難病：8 章 E，8 章 G 第８回　職場と健康，　健康危機管理，まとめ：10 章，11 章		
成績評価等	**【成績評価の方法・基準・評価　Grading Policies　Evaluation Criteria 】** 筆記試験		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生」 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	１年次　通年／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。 それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どの様なコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。		
授業計画 Course Content	１　PT の学校に入ってからの自身の現状を理解する ２　医療者に必要な身なり、態度を理解する ３　コミュニケーションとは。臨床実習で必要とされるコミュニケーションとは ４　自分を理解する（エゴグラム等） ５　自己肯定感の必要性。持つ方法 ６　自身の態度を知る。ポーターの態度類型 ７　PTS に求められる態度を考える ８　クラスでの取り組み方について考える（学ぶ空間） ９　言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション １０　観察する力と傾聴する力について考える。身につける。 １１　伝える力を身につける １２　OSCE を使用したコミュニケーションの実践練習 １３　社会人のマナーとしてのコミュニケーション １４　臨床で役立つコミュニケーションスキル １５　実際の患者を想定したコミュニケーションの実践		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第２版」　医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	解剖学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	伊藤　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靭帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。		
授業計画 Course Content	１　骨学総論　骨格の分類　骨の形態　形態による分類 ２　骨学総論　骨の構造（肉眼的構造、骨組織の構造）　骨発生　骨の新生 ３　骨学各論　頭蓋骨：　顔面頭蓋、神経頭蓋 ４　頭蓋骨：　内頭蓋底、外頭蓋底 ５　脊柱：脊柱の弯曲、各部位の特徴 ６　胸郭：構成する骨（胸椎、胸骨、肋骨） ７　上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨） ８　上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨） ９　下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤） １０　下肢骨：大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨 １１　骨実習 １２　骨実習 １３　関節・靭帯総論　関節の種類と基本構造、滑膜性関節の形態による分類と軸 １４　関節・靭帯各論　頭蓋の連結：縫合、顎関節 １５　脊柱：椎体間の連結、靭帯　椎弓間の連結、脊柱と頭蓋の連結・靭帯 １６　胸郭：肋椎関節、胸肋関節、軟骨間関節、肋骨肋軟骨連結、胸郭の運動 １７　上肢：上肢帯の連結、自由上肢の連結（肩関節と靭帯） １８　上肢：肘関節と靭帯 １９　上肢：下橈尺関節、手関節と靭帯、指骨間関節と靭帯 ２０　関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節、肩関節、肩鎖関節、肘関節） ２１　下肢：下肢帯（寛骨、仙腸関節）自由下肢の連結（股関節） ２２　下肢：自由下肢の連結（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節） ２３　関節実習（仙腸関節、股関節、膝関節、足関節、足根骨の関節）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習の評価点、小テスト、授業態度、試験の成績を合わせて行う		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第４版」　医学書院 「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」　南江堂		
備 考 Other Comments	２時間ごとにまとめの小問題を配布し、自力で回答することを重視している		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	伊藤　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。 神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。		
授業計画 Course Content	１　筋学総論　骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位 ２　筋学各論　上肢の筋（上肢帯、上腕の筋） ３　上肢の筋（前腕、手の筋） ４　下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋） ５　下肢の筋（足の筋） ６　体幹の筋（頭頸部の筋） ７　体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋） ８　筋学実習　（骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて） ９　神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成） １０　神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生） １１　神経学各論　中枢神経系（脊髄） １２　中枢神経系（脳幹、小脳） １３　中枢神経系（間脳、終脳） １４　中枢神経系（終脳） １５　末梢神経系（脊髄神経） １６　末梢神経系（脊髄神経） １７　末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） １８　末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） １９　末梢神経系（自律神経） ２０　伝導路（下行性：錐体路と錐体外路） ２１　伝導路（上行性：感覚の伝導路） ２２　伝導路（上行性：感覚の伝導路） ２３　復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習の評価点、小テスト、授業態度、試験の成績を合わせて行う		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第４版」　医学書院 「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」　南江堂		
備 考 Other Comments	２時間ごとにまとめの小問題を配布し、自力で回答することを重視している		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	１　DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する ２　細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 ３　細胞分裂、組織：上肢組織 ４　組織：支持組織、筋組織、神経組織 ５　血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 ６　刺激伝導系、体循環系動脈（総頚動脈、外頚動脈） ７　動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 ８　静脈：脳、上肢、奇静脈系 ９　静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 １０　リンパ系：リンパ本幹、リンパ節　胸腺、脾臓 １１　消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 １２　消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 １３　消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 １４　消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 １５　腹膜、間膜		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂 20 版」　南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	１　呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 ２　呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 ３　泌尿器系：腎小体、尿細管 ４　泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 ５　男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 ６　男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 ７　女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 ８　女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 ９　女性生殖器：胎児の成長、胎盤 １０　内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 １１　内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン １２　皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 １３　眼：眼球の構造 １４　眼：眼の付属器官　耳：外耳、鼓膜 １５　耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂 20 版」　南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。 生命現象発現の基本単位は細胞である。細胞が集合して組織を形成し、数種の組織が集合して器官となり、さらに多くの器官が集合して個体となる。ミクロからマクロに視点を移すにつれ、複雑な機能が発現する。細胞に存在する声明の諸反応の基本から器官レベルまでを知る。またそれらが、結合され保たれていることを一貫して理解する。		
授業計画 Course Content	１　生理学の基礎①　細胞の機能的構造 ２　生理学の基礎②　物質の移動 ３　神経の基本的機能①　神経細胞の構造と働き　活動電位 ４　神経の基本的機能②　興奮の伝導 ５　神経の基本的機能③　興奮の伝導 ６　筋肉の基本的構造①　骨格筋の構造と作用 ７　筋肉の基本的構造②　筋収縮の仕組み ８　筋肉の基本的構造③　筋収縮のエネルギー代謝 ９　筋肉の基本的構造④　平滑筋と心筋 １０　神経系の構成①　反射の基礎　神経系の構成 １１　神経系の構成②　脊髄と脊髄神経 １２　神経系の構成③　脳幹と脳神経 １３　自律神経系と内臓機能①　交感神経系と副交感神経系 １４　自律神経系と内臓機能②　化学伝達物質と受容体 １５　自律神経系と内臓機能③　内臓反射		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 １００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第７版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学は、生体の機能、働きとそのメカニズム・仕組みを学ぶ。 様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。 本科目では、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝について学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　循環系の機能①　心臓の構造と心筋の働き ２　循環系の機能②　心電図　心臓のポンプ機能 ３　循環系の機能③　血管の構造と働き　リンパ管系 ４　循環系の機能④　血圧とその調節 ５　循環系の機能⑤　局所の循環 ６　呼吸の生理学①　呼吸器系の構造　換気の仕組み ７　呼吸の生理学②　肺機能ガス交換 ８　呼吸の生理学③　ガス交換とガス分圧 ９　呼吸の生理学④　呼吸の調節　呼吸の異常 １０　消化と吸収①　消化管の基本的構造　口腔内と胃内の消化 １１　消化と吸収②　肝胆膵の働き １２　消化と吸収③　小腸内の消化と吸収 １３　消化と吸収④　大腸の働きと排便　肝臓の機能 １４　栄養と代謝①　基礎代謝と栄養所要量 １５　栄養と代謝②　三大栄養素の中間代謝		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 １００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第７版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　多章	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学は理学療法士にとって必ずマスターしておかなければならない学問である。障害された「日常生活に必要な基本動作」の回復を促すには、ヒトの解剖学的知識に加え生理学的知識、特に中枢神経系が如何に身体からの情報を受け取り、処理し、そして身体を制御しているのかという生理学的知識が不可欠である。 本講義では、生理学の中でも、中枢神経系を中心とした神経生理学、感覚生理学、および運動生理学を学ぶものである。これらの学習を通して、脳が身体を制御する仕組みを理解するとともに、理学療法における「運動」や「マッサージ」、「物理刺激」の生理学的機序を理解するための基本的知識を修得することを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　神経細胞とシナプスに関する復習、中枢神経系の構造・機能の網羅的学習 ２　脳室と脳脊髄液・血液脳関門のはたらき、必須アミノ酸と脳内ホルモンの関係 ３　生命維持装置としての脳のしくみ：脳幹、間脳（視床と視床下部）の構造・機能 ４　運動（動作）制御のしくみ：大脳基底核の構造・機能、小脳の構造・機能 ５　金と骨の動き：骨格筋・心筋・平滑筋・骨の構造・機能、骨の成長・老化 ６　高次脳機能・情動の発現のしくみ：大脳皮質の構造・機能、間脳による情動発現 ７　記憶のしくみ：辺縁系の構造・機能、理学療法・作業療法と記憶の関連 ８　一般感覚：体性感覚の構造・機能、痛覚のしくみ ９　一般感覚：内臓感覚の構造・機能、内臓痛と関連痛のしくみ １０　特殊感覚：視覚のしくみ １１　特殊感覚：聴覚のしくみ、平衡感覚のしくみ １２　特殊感覚：味覚のしくみ、嗅覚のしくみ １３　筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源 １４　運動に伴う全身の変化 １５　トレーニング効果と加齢変化（老化）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	期末試験の成績、出席状況、授業中の態度に基づいて総合評価する。		
教科書 Textbooks	「ギャノング生理学　原書 25 版」丸善出版		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　多章	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	人体の機能について、自律神経、血液、心臓、呼吸、消化と吸収、内分泌などについて教える。考えて理解する事の重要性について教えていきたい。		
授業計画 Course Content	（３０時間で行う） １　自律神経 ２　血液、循環系 ３　呼吸 ４　栄養 ５　消化と吸収 ６　排泄 ７　内分泌		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験結果、出席状況、授業中の態度に基づいて総合評価する。		
教科書 Textbooks	「ギャノング生理学　原書 25 版」丸善出版		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法の内容を確認し、なぜ基礎運動学が必要なのかを学ぶ。 我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学Ⅰにおいては、神経細胞、筋細胞、神経筋接合部、筋収縮のメカニズムなど神経筋機能の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　運動学とその領域　運動学の歴史　運動学の現状と展望 ２　身体運動と力学　身体運動の面と軸　筋力と重力　モーメント ３　運動法則　仕事とエネルギー　身体とてこ　骨と関節の運動 ４　細胞 ・細胞の構造　・細胞内での化学反応・細胞膜の興奮 ・神経線椎の興奮伝導　・神経線椎の種類 ５　運動器の構造と機能 ・骨の構造と機能　・関節の構造と機能　・腱および靭帯の構造と機能 ６　運動器の構造と機能 ・骨格筋の構造　・骨格筋の血管　・骨格筋の微細構造と筋収縮機序 ・筋線維の種類 ７　運動器の構造と機能 ・神経筋接合部と神経筋伝達　・運動単位　・筋収縮の基礎的性質 ・筋収縮の様態　・筋の働き　・筋肥大と筋萎縮 ８　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	前期単位認定試験を実施し、評価を行う。 （中間試験と最終試験２回実施し、評価を行う。50 点／50 点とする。）		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第６版」　医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第３版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	資料配布（確認の為の小テストと解説資料）		
実務経験内容	春見泰亮 理学療法士：理学療法士として臨床経験７年の経験を有する。 額賀翔太 理学療法士：理学療法士として臨床経験４年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	１年次 前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	我々が対象とする人間の基本的な動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能、生体力学的変化についての基礎知識を習得することを目的とする。基礎運動学Ⅱにおいては、中枢神経、末梢神経、感覚器および上肢帯と上肢の関節、靭帯、筋機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1. 神経系 2. 神経系　感覚器の構造と機能 3. 運動の中枢神経機構 4. 神経系まとめ 5. 上肢帯と上肢の運動　上肢帯と肩関節の運動　関節と靭帯　上肢帯と肩関節の動き 6. 上肢帯と上肢の運動　上肢帯と肩関節の運動　上肢帯の筋 7. 上肢帯と上肢の運動　上肢帯と肩関節の運動　肩関節の筋 8. 上肢帯と上肢の運動　肘関節と前腕の運動　関節と靭帯　肘関節の動き 9. 上肢帯と上肢の運動　肘関節の筋 10. 上肢帯と上肢の運動 11. 上肢帯と上肢の運動　手、手関節、前腕 12. 上肢帯と上肢の運動　手、手関節、前腕 13. 上肢帯と上肢の運動　手、手関節、前腕 14. 総復習　国家試験問題 15. 総復習　国家試験問題		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する．		
教科書 Textbooks	「基礎運動学」医歯薬出版　／　「筋骨格系のキネシオロジー」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	額賀翔太 理学療法士：理学療法士として臨床経験４年の経験を有する。 中島由紀香 理学療法士：理学療法士として臨床経験１９年の経験を有する。 佐竹勇人 理学療法士：理学療法士として臨床経験１２年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（後期授業予定／講師未定）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	股関節、膝関節、足関節の関節構造と機能を学習する。運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。したがって運動学的知識は先の評価・治療の学習を見据え、骨模型や生体を通じ動的なイメージも身につけること、各関節の構造と機能を説明できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	1. 骨盤と股関節の構造 2. 股関節の運動 3. 股関節屈筋　起始・停止、作用、支配神経 4. 股関節伸筋　起始・停止、作用、支配神経 5. 股関節外転筋　起始・停止、作用、支配神経 6. 股関節内転筋　起始・停止、作用、支配神経 7. 股関節内・外線筋　起始・停止、作用、支配神経 8. 膝関節の構造(関節、靭帯、半月) 9. 膝関節の運動　転がり滑り、Screw-home movement、locking mechanism 10. 膝関節伸筋　起始・停止、作用、支配神経 11. 膝関節屈筋　起始・停止、作用、支配神経 12. 足関節の構造(関節、靭帯) 13. 足関節の構造(アーチ構造) 14. 足関節背屈筋　起始・停止、作用、支配神経 15. 足関節底屈筋　起始・停止、作用、支配神経		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する．		
教科書 Textbooks	「基礎運動学」医歯薬出版　／　「筋骨格系のキネシオロジー」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（後期授業予定／講師未定）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	運動学的は理学療法評価治療の理論背景となる知見である。体幹の関節構造と機能の学習が胸腰部の疾患や障害の評価・治療の学習に繋がるよう基盤の形成を目指す。 基本的動作能力の回復が理学療法の目的であり、立位や歩行は基本動作の中でも重要視される姿勢と動作である。これらの運動学的知見は姿勢動作観察分析に必要不可欠であるため、本講義で網羅的に姿勢歩行の運動学的知識の修得を目指す。		
授業計画 Course Content	1.　脊柱の構造 2.　脊柱の運動 3.　体幹筋の構造と機能(体幹伸筋、屈筋、深層筋、バルサルバ効果) 4.　姿勢　力学の基礎（重心、重心線、支持基底面） 5.　姿勢　力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） 6.　安静時立位姿勢と筋活動　立位姿勢制御 7.　歩行　基礎知識　歩行周期 8.　歩行時の各関節角度 9.　歩行時の各関節モーメント(股関節) 10.　歩行時の各関節モーメント(膝関節) 11.　行時の各関節モーメント(足関節) 12.　プレゼンテーション　股関節の関節運動学、歩行の運動学 13.　プレゼンテーション　膝関節の関節運動学、歩行の運動学 14.　プレゼンテーション　足関節の関節運動学、歩行の運動学 15.　総復習　国家試験問題		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況，筆記試験などを総合して決定する．		
教科書 Textbooks	「基礎運動学」医歯薬出版　／　「筋骨格系のキネシオロジー」　医歯薬出版 「観察による歩行分析」　医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験を有する。		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森本　純司	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	１　病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構 ２　細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 ３　循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 ４　炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 ５　免疫機構の異常：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 ６　遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 ７　腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 ８　代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 ９　循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 １０　呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、循環障害、炎症、腫瘍など １１　消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 １２　内分泌系：脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、髄質、膵臓ランゲルハンス島の病気 １３　造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 １４　泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、繊毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 １５　運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 脳神経系：脳の循環障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、腫瘍など		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて評価する。		
教科書 Textbooks	「シンプル病理学　改訂第７版」南江堂		
備 考 Other Comments	理解度を高めるためにプリントも配布する。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅠ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・リハビリテーションとは何かを理解して理学療法士の役割を知ること ・障害についての概要を理解すること ・リハビリテーションに関連する社会保障について理解すること A　医療保険：保険診療とは何か。施設基準、疾患別リハビリテーション料、算定日数など臨床現場で必要となる知識を理解する。 B　介護保険：介護保険制度の目的。施行から現在までの動向。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、退院（退所）前訪問、介護保険で利用できる福祉用具の説明など、臨床現場で必要となる知識を理解する。		
授業計画 Course Content	１　リハビリテーションの語源 ２　リハビリテーションの目指すもの ３　障害の理解（ICIDH、ICF） ４　リハビリテーションにおける基本的アプローチ ５　リハビリテーションにおける基本的アプローチ ６　障害体験（実地授業） ７　障害体験（実地授業） ８　障害の受容 ９　トータルリハビリテーション １０　リハビリテーション医学 １１　リハビリテーション職種と役割 １２　廃用症候群 １３　代表的な疾患と障害 １４　医療と介護保険 １５　社会保障制度		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習のレポート提出（20 点）及び筆記試験（80 点）		
教科書 Textbooks	「目で見るリハビリテーション医学　第２版」　東京大学出版会		
備 考 Other Comments	障害体験実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（ＯＴ・ＳＴ）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士・言語聴覚士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（作業療法）　作業療法とは何をするのか、何ができるのか、チームとして理解を深める。 （言語聴覚療法）　実務経験療法における概論を学ぶことで、将来チームで協業することについて身近なものと感じてもらいたい。また、実務経験療法で、できることを学んでいただこうと思います。		
授業計画 Course Content	（作業療法） 1　作業療法とは、リハビリテーション職としての協業 2　歴史 3　ケースを通した関わり 4　回復段階における役割 （言語聴覚療法） 5　コミュニケーション障害総論 6　失語症各論、②構音障害 7　摂食・嚥下障害総論、②摂食・嚥下障害　演習 8　発達期の実務経験障害、聴覚系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（作業療法）筆記試験 （言語聴覚療法）筆記試験		
教科書 Textbooks	「絵でわかる実務経験障害－言葉のメカニズムから対応まで　第２版」　学研メディカル秀潤社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２３年の経験を有する。 植村博也 作業療法士：作業療法士として臨床経験１６年及び専任教員１６年の経験を有する。 言語聴覚士については関連医療法人より講師派遣依頼予定		

科目名 Course title	社会福祉概論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤　登美子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	１．現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは ２．福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 ３．わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 ４．低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について ５．自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 ６．児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について ７．高齢者の福祉 介護保険制度について ８．利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	理学療法概論Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	厚地　歩美	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　理学療法の概念と歴史 ２　理学療法士の法律：「理学療法士及び作業療法士法」 ３　理学療法の意義と役割 ４　理学療法の対象 ５　理学療法の方法 ６　理学療法士の組織 ７　理学療法士教育 ８　医療・保険分野の理学療法		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論　第４版」　神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法概論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	厚地　歩美	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び、職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1　地域リハビリテーションと理学療法 2　医療事故とリスクマネジメント 3　ハラスメントについて 4　個人情報の管理と対象者の権利 5　理学療法士を目指す学生に求められるもの 6　理学療法士研究について 7　臨床で求められる学生とは 8　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験形式（100 点満点）で評定		
教科書 Textbooks	「理学療法概論　第４版」　神陵文庫		
備 考 Other Comments	社会人基礎力、医療における倫理観		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法障害学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（担当者未定）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	障害の科学的研究により、どのような障害がどの程度起こるのか、どの程度改善するのか、リハビリテーションの主軸は何かを学ぶ。1 年生の観察実習、2 年生の演習授業に先立ち、大まかな病態を把握し障がいを予想できるレベルを目指す。		
授業計画 Course Content	機能障害の病態生理と回復過程、各種合併症の病態生理、リハビリテーション治療学の基礎 １　「障害」とはなにか、障害学の概要 ２　骨折・関節症について、病態の理解、回復過程 ３　骨折・関節症の治癒過程（頚部骨折） ４　骨折・関節症に対するリハビリテーション治療の概要、予後 ５　末梢神経障害について、病態の理解、回復過程 ６　末梢神経障害の治癒過程 ７　末梢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後 ８　中枢神経障害について、病態の理解、（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷） ９　中枢神経障害の回復過程 １０　中枢神経障害の治癒過程（脳卒中、パーキンソン、脊髄損傷 １１　中枢神経障害に対するリハビリテーション治療の概要、予後 １２　靭帯・筋損傷について、病態の理解、回復過程 １３　靭帯・筋損傷の治癒過程 １４　靭帯・筋損傷に対するリハビリテーション治療の概要、予後 １５　まとめ 上記内容を解剖学・生理学の復習を含めアクティブラーニングとして実施し、勉強の仕方や調べ方を経験し、能動的な学習が可能になることを目指す。また廃用症候群の理解について他講義の理解度を確認し必要であれば１５のまとめで解説する。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準リハビリテーション医学　第３版」　医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容			

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	田中　貴広 ・ 梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	７５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【講義概要】 理学療法における評価と検査を伝え、評価の重要性について解説する。 バイタルサインチェック（血圧、脈拍、呼吸、血中酸素）、形態測定（四肢長、四肢周径）、関節可動域測定の意義、目的を明確にした上で検査方法の習得を促す．また関節の解剖学的構造を踏まえた運動方向の理解を図りつつ同時に実施時の患者への配慮を学ぶ. 【到達目標】 理学療法プロセスにおけるバイタルサインチェック、形態測定、関節可動域測定の意義や必要性、臨床においての重要性を理解できる．また、正確に実施することができる.		
授業計画 Course Content	１　理学療法評価　総論 ２　バイタルサインチェック①　バイタルサインとは、脈拍の測定方法の解説と実施 ３　バイタルサインチェック②　血圧について、血圧の測定方法の解説と実施 ４　バイタルサインチェック②　呼吸について、呼吸の評価方法の解説と実施 ５　形態測定①　形態測定とは、胸囲、腹囲、四肢長と四肢周径の計測意義 ６　形態測定②　上肢長（上肢長、上腕長、前腕長）測定方法の解説と実施 ７　形態測定③　下肢長（棘果長、転子果長、大腿長、下腿長）測定方法の解説と実施 ８　形態測定④　上肢周径（上腕周径、前腕周径）測定方法の解説と実施 ９　形態測定⑤　下肢周径（大腿周径、下腿周径）測定方法の解説と実施 １０　形態測定⑥　形態測定の検査結果の解釈について １１　関節可動域測定の意義、目的 １２　他動運動と自動運動について １３　ゴニオメーターの操作練習 １４　関節可動域測定①　肩甲帯（屈曲、伸展） １５　関節可動域測定②　肩甲帯（挙上、下制） １６　関節可動域測定③　肩関節（屈曲、伸展） １７　関節可動域測定④　肩関節（内転、外転） １８　関節可動域測定⑤　肩関節（内旋、外旋） １９　関節可動域測定⑥　肘関節（屈曲、伸展） ２０　関節可動域測定⑦　前腕（回内、回外） ２１　関節可動域測定⑧　手関節（掌屈、背屈） ２２　関節可動域測定⑨　手関節（尺屈、橈屈） ２３　関節可動域測定⑩　頸部（屈曲、伸展） ２４　関節可動域測定⑪　頸部（回旋、側屈） ２５　関節可動域測定⑫　体幹（屈曲、伸展） ２６　関節可動域測定⑬　体幹（回旋、側屈） ２７　関節可動域測定⑭　股関節（屈曲、伸展） ２８　関節可動域測定⑮　股関節（内転、外転） ２９　関節可動域測定⑯　股関節（内旋、外旋） ３０　関節可動域測定⑰　膝関節（屈曲、伸展） ３１　関節可動域測定⑱　足関節（背屈、底屈） ３２　関節可動域測定⑲　足部（内がえし、外がえし） ３３　関節可動域測定⑳　手指 ３４　関節可動域測定㉑　足趾 ３５　関節可動域測定㉒　各関節可動域測定別法① ３６　関節可動域測定㉓　各関節可動域測定別法② ３７　理学療法評価プロセス①　ボトムアップ思考について ３８　理学療法評価プロセス②　トップダウン思考について		
成績評価の方法・ 基準・評価	【成績評価の方法・基準・評価　Grading PoliciesEvaluation Criteria】 筆記試験（中間試験、終講試験）・実技試験　　の３つの成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術　下肢・体幹　第２版」　メジカルビュー社 「PT・ＯＴのための測定評価　ＲＯＭ測定　第２版」三輪書店 「理学療法評価テキスト　改訂第２版」南江堂		
備 考	なし		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１２年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田崇史・田中貴広・梅田達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	７５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	筋力測定の意義を理解する MMT の原理・原則を理解する。 各測定項目の計測の基本と注意点を習得し、健常者を対象に適切な方法かつ妥当な時間で検査を実践できる。		
授業計画 Course Content	１　概論　筋力とは　MMT の原理、原則、注意点 ２　頭部伸展、頚部伸展、頚部複合伸展の MMT ３　頭部屈曲、頚部屈曲、頭頚部複合屈曲の MMT ４　頚部回旋の MMT、頭頚部 MMT のまとめ ５　体幹伸展、骨盤挙上、体幹側面の MMT ６　体幹屈曲、体幹回旋の MMT ７　安静な吸気　体幹 MMT のまとめ ８　肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)の MMT ９　肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) １０　肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群)、肩甲骨下制(広背筋、大円筋、三角筋後部) １１　肩関節屈曲、肩関節屈曲(前方挙上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋) １２　肩関節伸展(後方挙上)(三角筋後部)、肩関節外転(側方挙上)(三角筋中部および棘上筋) １３　肩関節水平外転(三角筋後部)、肩関節水平内転(大胸筋) １４　肩関節外旋(棘下筋、小円筋)、肩関節内旋(肩甲下筋) １５　まとめ　肩甲骨、肩関節の MMT １６　肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋)、肘関節伸展(上腕三頭筋) １７　前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) １８　手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋) １９　まとめ　肘、前腕の MMT ２０　指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋) 、PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋) ２１　指 MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)、指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋) ２２　母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP、IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) ２３　母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、対立運動(母指対立筋、少子対立筋) ２４　手指 MMT のまとめ ２５　股関節屈曲(大腰筋、腸骨筋)、股関節屈曲、外転、外旋(縫工筋) ２６　股関節伸展(大殿筋、ハムストリングス) ２７　股関節外転(中殿筋、小殿筋)、股関節屈曲位からの外転(大腿筋膜張筋) ２８　股関節内転(大内転筋、短内転筋、長内転筋、恥骨筋、薄筋) ２９　股関節外旋(内外閉鎖筋、上下双子筋、梨状筋、大腿方形筋)、股関節内旋(中小殿筋、大腿筋膜張筋) ３０　まとめ　股関節 MMT ３１　膝関節屈曲(ハムストリングス)、膝関節伸展(大腿四頭筋) ３２　足関節底屈(腓腹筋、ヒラメ筋)、足関節背屈内がえし(前脛骨筋) ３３　足の内がえし(後脛骨筋)、足の底屈を伴う外がえし(長短腓骨筋) ３４　まとめ　膝関節、足関節、足の MMT ３５　母指と足ゆびの MP 関節屈曲(虫様筋、短母指屈筋)、DIP、PIP 関節屈曲(張氏屈筋、短指屈筋、長母指屈筋) ３６　母指と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展(長趾伸筋、短指伸筋、長母指伸筋) 脳神経支配筋のテスト ３７　徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法) ３８　総まとめ		
[成績評価の方法・基準・評価　Grading Policies Evaluation Criteria]　筆記試験及び実技試験で評定			
教科書 Textbooks	「運動療法のための 機能解剖学的触診技術　下肢・体幹　第２版」　メジカルビュー社 「PT・ＯＴのための測定評価　ＲＯＭ測定　第２版」三輪書店 「理学療法評価テキスト　改訂第２版」南江堂		
[備 考　Other Comments]　なし			
実務経験内容	前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１２年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	厚地 歩美	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	変形性股関節症について調べ・説明できる。		
授業計画 Course Content	１　股関節の解剖 ２　頚体角・前捻角について説明できる ３　滑膜、関節包、靭帯の機能について説明できる ４　股関節筋の起始、停止、作用について説明できる ５　変形性股関節症の病態生理 ６　疼痛の原因、症状、疾患の進行過程、筋力低下、治療の概要のそれぞれを調べ、説明できる ７　生活動作（実技含む）正常、基本を知り、病態から考えられるリスク対処法を学ぶ ８　歩行、靴下の着脱、しゃがみ動作等で必要な股関節可動域を把握する ９　変形性股関節症に伴う関節可動域制限の特徴を把握する（脱臼肢位） １０　形態測定 １１　ROM １２　MMT １３　実践（動画撮影） １４　実践（3年生と合同）形態測定 １５　実践（3年生と合同）ＲＯＭ・ＭＭＴ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	個人提出物、発表、筆記試験、OSCE チェックリスト		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	運動療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・運動療法の歴史と位置づけ、適応の理解 ・関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動、協調性トレーニングの適応と方法の理解 ・基本的運動療法の実践及び習得 ・運動療法機器の理解		
授業計画 Course Content	１　運動療法の歴史と位置付け、運動療法の範囲と適応 ２　運動の種類 ３　関節可動域運動の総論 ４　関節可動域運動の実践（肩・肘） ５　関節可動域運動の実践（股） ６　関節可動域運動の実践（膝） ７　関節可動域運動の実践（足） ８　ストレッチ ９　筋力維持増強運動の総論 １０　筋力について（筋収縮にかかわる神経生理、負荷量） １１　筋力維持増強運動の実践（下肢・体幹） １２　筋力維持増強運動の実践（上肢・インナーマッスル） １３　筋持久力について（エネルギー代謝） １４　１３の続き １５　心肺持久力について（循環） １６　１５の続き、呼気ガス分析 １７　運動療法機器の紹介 １８　協調性について（バランス能力） １９　協調性改善に関する運動療法 ２０　運動療法に関するリスク管理（血圧と心拍数） ２１　運動療法に関するリスク管理（転倒予防、急変時の対応） ２２　触診の技術向上 ２３　その他		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験、終講試験にて評定する。		
教科書 Textbooks	「運動療法Ｉ理学療法学テキスト　第２版」　神陵文庫 「臨床技能と OSCE」金原出版		
備 考 Other Comments	解剖学、生理学、基礎運動学の復習を交えながら理学療法治療理論を深める。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	講義概要 温熱・寒冷療法を学習する。温熱・寒冷療法がもたらす効果の機序について生理学的知見を交えて学習する。ホットパック・パラフィン・超音波・極超短波・アイスマッサージ・アイスパック・コールドパック・コールドスプレー・持続的冷却装置の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。 到達目標 温熱療法、寒冷療法に伴う生理的変化を説明できる。 物理療法の種類とそれぞれの適応と禁忌について説明できる。 物理療法の使用方法を理解し、実際に使用する		
授業計画 Course Content	１　物理療法の目的、理学療法のなかでの位置づけ、物理療法各機器の概説 ２　物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) ３　物理療法の対象と病理(筋トーヌス異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) ４　温熱が全身、局所に与える影響① ５　温熱が全身、局所に与える影響② ６　ホットパック・パラフィン療法 ７　ホットパック・パラフィンの演習 ８　超音波療法① ９　超音波療法② １０　極超短波療法 １１　極超短波療法・超音波療法の演習 １２　寒冷療法　生理学的作用について １３　寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について １４　アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、持続的冷却装置の使用方法、注意点などについて １５　アイスパック　コールドパックの演習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト　改訂第２版」　南江堂		
備 考 Other Comments	ホットパック・パラフィン、極超短波療法・超音波療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	物理療法学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ｉと同様にこれらの治療がもたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。		
授業計画 Course Content	第１回　水治療法　静水圧　浮力が身体に及ぼす影響 第２回　水治療法　水の抵抗　水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌 第３回　渦流浴　各温度と効果　禁忌、上肢用　下肢用 渦流浴の体験 第４回　圧迫（浮腫除去）療法　浮腫のメカニズム　疾患と浮腫 第５回　弾性包帯の巻き方　実技 第６回　オリエンテーションと電気療法の基礎 第７回　神経筋電気刺激/治療的電気刺激 第８回　経皮的電気刺激/機能的電気刺激 第９回　光線療法の特徴と皮膚整理機能 第１０回　紫外線療法/赤外線療法 第１１回　レーザー療法/持続的他動運動（CPM 療法） 第１２回　牽引療法 第１３回　牽引療法　実技、総復習 第１４回　国家試験問題解説 第１５回　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト学テキスト　改訂第２版」　南江堂		
備 考 Other Comments	水治療法、圧迫療法、牽引療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・ADL の概念と、その範囲と評価について学び「できる ADL」「している ADL」の違いを理解し ADL 評価を実践する事が出来る。 ・車いす、歩行補助具、トランスファー介助、一側下肢障害の ADL、福祉機器等についての理解と実践。 ・ADL 指導の実践。		
授業計画 Course Content	１　ADL の概念とその範囲 ２　ADL の概念とその範囲 ３　ADL の評価の概要 ４　ADL の評価の実践（FIM） ５　ADL の支援システム ６　福祉用具、福祉機器：リフター、トランスファーボード、ターンテーブル ７　車椅子、杖などの名称・使用方法 ８　基本的な杖歩行と介助 ① ９　基本的な杖歩行と介助 ② １０　杖による階段昇降 １１　一側下肢障害の ADL 指導と介助法 １２　歩行器：歩行パターン、方向転換、小回り、介助方法 １３　移乗の介助方法：１人介助、２人介助、全介助 １４　車椅子移乗の動作方法と介助方法 １５　一側下肢障害の ADL：THA 術後の ADL 指導		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験 15 点、筆記試験 85 点　計 100 点		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺　指導と介助の実際　第３版」　医学書院 「新イラストによる安全な動作介助のてびき　第３版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法学Ⅰ　※選択	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋　舟	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近しい存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１．動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 ２．馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 ３．馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 ４．人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ ５．馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 ６．馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 ７．馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 ８．馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		
実務経験内容			

＝臨床実習＝

科目名 Course title	観察実習（医療）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	病院や施設等の全体的な業務と機能を知る。 理学療法プロセスに触れ、理学療法士の業務内容を理解する。 リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任及び協調必要性を自覚する。 対象者の持つ障害像を分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知る。 医療を司る者としての自覚を深め、可能であれば、対象者との人間関係を築く。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	観察実習（訪問・通所）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・リハビリテーション医療における訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの意義を理解する。 ・利用者の生活リハビリテーション(Handicap、Disability との繋がり、Quality of life、個人因子、環境因子)について考える。 ・臨床におけるチームの連携を知ると同時にリハビリテーション職以外の役割や責任を知る。 ・臨床現場での学び方、問題解決能力の向上を目指す。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

【２年次：２０１９年度以前入学者対象】

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	人間発達学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高島　正治	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	胎児期から独歩獲得に至るまでの運動の変化（発達）から人間の発達（変化）を考えていく。		
授業計画 Course Content	１　人間発達概論①　「動く」ということとは ２　人間発達概論②　資料 DVD 視聴 ３　中枢神経系の発達・成熟　胎児期の運動 ４　運動発達概論　姿勢及び運動の発達・成熟 ５　グループワーク①（各運動発達段階） ６　グループワーク②（各運動発達段階） ７　グループワーク③（各運動発達段階） ８　グループワーク④（各運動発達段階） ９　グループワーク⑤（各運動発達段階） １０　発表（グループ） １１　姿勢・運動発達各論　講義・実技① １２　姿勢・運動発達各論　講義・実技② １３　姿勢・運動発達各論　講義・実技③ １４　姿勢・.運動発達各論　講義・実技④ １５　育児　愛着行動　講義まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 発表（グループ）		
教科書 Textbooks	「イラストでわかる人間発達学」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	内科学Ⅰ	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　内科学総論；内科学とは、主な疾患 ２　診療の基本；カルテと問診 ３　診察法（１）；バイタルサインの見方・考え方 ４　診察法（２）；身体所見の取り方と疾患 ５　内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 ６　循環器疾患（１）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック ７　循環器疾患（２）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） ８　循環器疾患（３）；虚血性心疾患（②）、心不全 ９　循環器疾患（４）；不整脈 １０　循環器疾患（５）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） １１　循環器疾患（６）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 １２　呼吸器疾患（１）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 １３　呼吸器疾患（２）；病原微生物と呼吸器感染症 １４　呼吸器疾患（３）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 １５　呼吸器疾患（４）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」　南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３０年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む)、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　消化管疾患（１）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 ２　消化管疾患（２）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 ３　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（１）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか ４　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（２）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など ５　代謝性疾患（１）；糖尿病 ６　代謝性疾患（２）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など ７　内分泌疾患　；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 ８　血液疾患（１）；血液解剖生理の復習、貧血 ９　血液疾患（２）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 １０　アレルギー・膠原病疾患（１）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 １１　アレルギー・膠原病疾患（２）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 １２　腎・泌尿器科疾患（１）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 １３　腎・泌尿器科疾患（２）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 １４　感染症（１）；感染症総論（感染経路、感染予防対対策、治療法など） １５　感染症（２）；感染症各論（代表的な感染症）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」　南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３０年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	拾尾　和彦	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	神経疾患とは何かを知る。　神経解剖学・神経生理学を通し、神経症状を理解する。神経疾患特有の症候・検査を知る。		
授業計画 Course Content	１　神経内科とは、解剖 ２　神経学的所見の取り方① ３　神経学的所見の取り方②、意識障害・脳死・植物状態① ４　意識障害・脳死・植物状態②、頭痛、めまい、失神 ５　運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮 ６　錐体外路徴候、不随意運動 ７　運動失調 ８　感覚障害 ９　神経学的検査法 １０　失語症、失認、失行 １１　記憶障害、注意障害、実行機能障害 １２　構音障害、嚥下障害 １３　復習、まとめ １４　脳神経外科領域 １５　復習、まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　選択式（用語訂正・内容正誤）・記述式（空欄うめ・文章記述）		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」　メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３８年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	拾尾　和彦	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	各神経疾患につき病態を理解し、治療法を知る。		
授業計画 Course Content	１　脳血管障害① ２　脳血管障害② ３　認知症 ４　変性疾患 ５　脱髄疾患 ６　末梢神経障害 ７　筋疾患 ８　てんかん ９　感染症 １０　脳腫瘍 １１　外傷性脳損傷、脊髄損傷 １２　中毒、栄養障害 １３　小児神経疾患 １４　廃用症候群 １５　復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（選択式・記述式）		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」　メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３８年の経験を有する。		

科目名 Course title	外科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中江　晟	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士として必要な外科学の知識を取得する。		
授業計画 Course Content	１　外科の歴史 ２　外科学総論 ３　外科学総論、損傷、創傷 ４　外科学総論、熱傷 ５　ショック・感染症 ６　救急 ７　手術供覧 ８　器具供覧		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	考査による		
教科書 Textbooks	「ＳＴＥＰ　外科　①外科総論・脳神経外科　第２版」海馬書房		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験４３年の経験を有する。		

科目名 Course title	脳神経外科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川口 正一郎	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。なお神経科学は、神経内科学および脳神経外科学により構成される。 ① 一般的な脳血管疾患について説明できる ② 一般的な脳神経外科疾患について説明できる		
授業計画 Course Content	1　神経系の構造と機能① 2　神経系の機能と構造②、症候と検査 3　脳血管障害　虚血性① 4　脳血管障害　虚血性② 5　脳血管障害　出血性 6　頭蓋内圧亢進　水頭症 7　脳腫瘍 8　頭部外傷		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」　メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３９年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　整形外科的基礎知識 ２　整形外科治療法 ３　整形外科疾患総論 ４　炎症性疾患 ５　代謝・退行性疾患 ６　先天性疾患① ７　先天性疾患② ８　循環障害と壊死疾患① ９　循環障害と壊死疾患② １０　骨・軟部腫瘍① １１　骨・軟部腫瘍② １２　神経・筋疾患① １３　神経・筋疾患② １４　脊椎の疾患① １５　脊椎の疾患②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学　第 14 版」　医学書院 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第４版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験２５年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊椎疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	１　骨折① ２　骨折② ３　脊髄損傷① ４　脊髄損傷② ５　脊髄損傷問題 ６　捻挫・脱臼 ７　神経障害① ８　神経障害② ９　末梢神経損傷 １０　腱・靭帯損傷 １１　スポーツ障害① １２　スポーツ障害② １３　タナ障害 １４　熱傷 １５　切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学　第 14 版」　医学書院 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第４版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験２５年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	上川　比呂勝	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	１　現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 ２　精神と脳の関係を考える。 ３　疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content	１　講師の自己紹介　この授業全体の概要　精神医学について　認知症症例 ２　アルツハイマー型認知症　症例および解説 ニューロンとシナプス　心とは何か ３　脳血管性認知症　症例および解説 ４　統合失調症　破瓜型　症例および解説　統合失調症概説 ５　統合失調症　緊張型　症例および解説　統合失調症の発病　精神科病棟について ６　統合失調症　妄想型　症例および解説　統合失調症の経過　慢性期 ７　気分障害　症例と解説　気分障害概説 ８　気分障害　バーンアウト　症例と解説　気分障害経過　治療など ９　薬物依存　症例アルコール依存症１　薬物依存概説 １０　薬物依存　症例アルコール依存症２　アルコール依存症者の生活史　治療 １１　神経症　概説　症例 PTSD １２　神経症　パニック障害　強迫神経症 １３　神経症　ヒステリー　治療など １４　てんかん １５　精神遅滞		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待　改訂３版」　南山堂		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します		
実務経験内容	医師として臨床経験１７年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	塚田　周平 ・中島　充	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（塚田講師）　教科書に基づいたスライドによる学習を通じて、小児科学についての理解を深めて頂きたい。 （寺嶋講師） 基本的にはテキストを中心に、小児の特徴・疾患について講義します。医師・看護師のカルテ内容を把握して、治療を協力して行える力をつけるようにスライド等資料を活用しながら、短時間の講義時間内でも、小児の特殊性を理解してもらいます。		
授業計画 Course Content	（塚田講師） １　小児の成長と発育に関して様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。 ２　感染症の数々の症例（写真を中心とした）を通して小児への感染症、消化器疾患を理解して頂く。 ３　血液疾患を通じて、免疫や膠原病についても触れて理解を深めて頂きたい。 ４　腎疾患を通して腎の生理、免疫、アレルギー、膠原病についても随時触れてゆきたい。 （中島講師） ５　新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 ６　神経・筋・骨系疾患 ７　循環器疾患、呼吸器疾患 ８　習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学　第５版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	塚田医師：医師として臨床経験４０年の経験を有する。 中島医師：医師として臨床経験３７年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小野　隆章	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	４期の人生プロセスにそって代表的ストレス症状の原因と治療を理解する。自他ともに役立つ内容とする。		
授業計画 Course Content	１　子どものストレス症状①　夜尿 ２　子どものストレス症状②　チック・喘息 ３　思春期のストレス症状①　登校拒否 ４　思春期のストレス症状②　拒食症 ５　中年期のストレス症状　うつ　その① ６　中年期のストレス症状　うつ　その② ７　老年期のストレス症状　認知症、死の心理学 ８　まとめ（国試概説）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	論述式の筆記試験（持込不可）により全体的な理解力と表現力を評価します。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	テキストは使用せず、毎回レジュメを配布します。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（今年度 後期実施予定／担当者未定）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	平均生存率（平成 29 年）が男性 81 歳女性 87 歳とますます高齢化社会が進む現在の日本のおけるリハビリテーション医療の重要性を理解し、リハビリテーション医療が取り組む高齢者に多い主要な疾患とその障害についての基本的な病態を講義する。その上で個々の疾患からくる機能障害だけでなく、その障害を持って生きてゆく人たちが対面する社会的障害に対する対応もリハビリテーション医学の領域であり障害の有無に関わらず全ての人が平等に生きられる社会にすることがリハビリテーション医療の使命であることを理解できるように講義を行いたい。		
授業計画 Course Content	（１５時間で行う） 1　リハビリテーション医学・医療の基本概念 2　リハビリテーション医学とチーム医療 3　リハビリテーション医学における障害受容の心理 4　高齢者のリハビリテーション ロコモチーブシンドローム、フレイル、転倒、骨折、廃用症候群 5　脳血管障害のリハビリテーション 認知症と高次脳機能障害 6　神経難病のリハビリテーション（パーキンソン病他）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	限られた講義時間のなかでリハビリテーション医学の基本概念と高齢者の身体機能を含めてより多く発症する病態を中心に講義を行う。		
実務経験内容	医師としての経験を有する。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	臨床運動学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中條　雄太	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	解剖学，基礎運動学で学習した知識を基に学習を進める． 静的姿勢の中でも背臥位・座位のメカニズムを理解し，実際に姿勢観察と分析を行う．分析した結果を検証するために簡単な検査測定を実施する． また，寝返り・起き上がり・立ち上がりについてもメカニズムを理解し，動作観察と分析を行う．分析した結果を検証するために簡単な検査測定を実施する．		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション ２　背臥位① ３　背臥位② ４　寝返り① ５　寝返り② ６　起き上がり① ７　起き上がり② ８　起き上がり③ ９　ここまでのまとめと復習 １０　座位①第１１回　　座位② １２　立ち上がり① １３　立ち上がり② １４　立ち上がり③ １５　ここまでのまとめと復習と総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験７年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床運動学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	間野　直人	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	症例の異常動作の解釈に必要な知識・技術を習得する。臨床運動学Ⅱでは異常立位姿勢・異常歩行の分析に必要な手順、知識を習得する。動作を解釈するための力学の基礎ならびに正常立位姿勢、正常歩行の運動学を復習する。動作観察・分析のポイントを教示した上で、実際の症例の静止画、動画を使用し動作観察・分析を経験する。		
授業計画 Course Content	１　姿勢歩行観察の分析総論 ２　動作観察分析のポイント ３　動作分析で用いる力学 ４　正常の立位姿勢に関する運動学的知識　健常者の立位姿勢観察 ５　健常者の立位姿勢観察内容の発表 ６　健常者の立位姿勢分析 ７　症例の立位姿勢観察・分析 ８　症例の立位分析解説　歩行の運動学　復習 ９　股関節の関節可動域制限と異常歩行 １０　膝関節、足関節の関節可動域制限と異常歩行 １１　股関節周囲の筋力低下と異常歩行 １２　膝関節周囲、足関節周囲の筋力低下と異常歩行 １３　症例の歩行観察 １４　症例の歩行分析 １５　症例の歩行分析および検査測定結果の統合と解釈		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年の経験を有する。		

科目名 Course title	動作分析学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中本　隆幸	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	動作観察・分析について学習する。 動作分析（観察）は、理学療法士において必要不可欠な評価方法であるが、評価尺度が決まっていないため、評価方法の中でも難しい分野である。基礎を再確認し、具体的な症例を提示することにより、理解を深めることがねらいである。		
授業計画 Course Content	１　理学療法・理学療法評価法を再確認する ２　理学療法士における動作分析学の必要性を整理する ３　基礎運動学・臨床運動学における動作分析に関する整理 ４　立位姿勢についての動作観察・動作分析 ５　歩行についての動作観察・動作分析 ６　それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅰ　①寝返り　②起き上がり ７　それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅱ　③座位姿勢　④床からの立ち上がり ８　それ以外の動作についての動作観察･動作分析Ⅲ　⑤立ち上がり　⑥片脚立位　⑦その他 ９　正常と臨床動作の観察・分析の整理とまとめ １０　VTR 症例による動作観察・動作分析① １１　VTR 症例による動作観察・動作分析② １２　VTR 症例による動作観察・動作分析③ １３　VTR 症例による動作観察・動作分析④ １４　VTR 症例による動作観察・動作分析⑤ １５　VTR 症例による動作観察・動作分析⑥		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験		
教科書 Textbooks	「動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験３０年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	理学療法評価学Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	７５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 CourseDescription・ Course objectives	神経学的検査と評価について学習する。また、整形外科的検査法について学習する。 整形外科的検査法の理解と実践。 ・意識障害を理解し評価を実施する ・実務経験障害：構音障害と失語症の違いを理解する ・高次脳機能障害を理解し評価を実施する ・運動麻痺の検査を実施する		
授業計画 Course Content	1～１2、30～37；反射の診かた・運動機能の診かた・小脳、バランス機能の診かた 13～21；疼痛の診かた、整形の診かた 22～29；感覚の診かた、脳神経の診かた １　＜神経学的検査総論＞　評価学とは、神経学的検査とは ２　筋緊張、姿勢筋緊張とは、姿勢反射について ３　筋緊張異常から生じる異常動作と異常歩行 ４　筋緊張の評価方法 ５　深部腱反射の検査意義について ６　深部腱反射のメカニズム ７　深部腱反射の検査方法の解説①　（上肢） ８　深部腱反射の検査方法の解説②　（下肢） ９　錐体路と錐体路障害の解説 １０　病的反射の評価意義と検査方法の解説、運動機能検査の解説 １１　ＢＲＳＴ、ＳＩＡＳ １２　運動麻痺と検査 １３　＜整形外科的検査全般＞　各関節についての代表的な整形外科的検査法について学習 ・足関節、膝関節、股関節、肩関節、肘関節、手関節、手指、頸部、体幹 ・その他の特殊な検査法 １４　＜整形外科的テスト・疼痛評価　全８コマ＞　足関節　① １５　膝関節　② １６　股関節　③ １７　肩関節　④ １８　疼痛評価 1-1　⑤ １９　疼痛評価 1-2（組織別疼痛評価）⑥ ２０　疼痛評価 1-3 ケーススタディ　人工股関節全置換術（前方アプローチ）⑦ ２１　疼痛評価 1-4　疼痛鑑別方法　⑧ ２２　感覚検査について（概論） ２３　神経生理（感覚神経） ２４　感覚検査の実践（表在感覚） ２５　感覚検査の実践（深部感覚） ２６　感覚検査の実践（温痛覚、２点識別、立体など） ２７　感覚検査の実践（患者を想定した実践：CVA、脊髄損傷、糖尿病、末梢神経障害） ２８　脳神経検査について（概論） ２９　脳神経検査の紹介と実践（実技は視神経） ３０　〈小脳機能検査〉小脳の働きについて ３１　協調性、失調について ３２　失調の検査方法の解説①　（上肢） ３３　失調の検査方法の解説②　（下肢） ３４　バランス評価 ３５　ＦＲＴ、ＢＢＳ ３６　不随運動について ３７　不随運動の分類 ３８　まとめ		
[成績評価の方法・基準・評価　Grading Policies Evaluation Criteria] 中間試験、定期試験、実技試験にて評定する。神経学的検査法と合わせて筆記試験で評定する。			
教科書 Textbooks	「ベッドサイドの神経の診かた　改訂１８版」　南山堂　／　臨床技能と OSCE　金原出版株式会社 「絵で見る脳と神経　しくみと障害のメカニズム　第４版」　医学書院		
[備 考 Other Comments]　スポーツ障害・外傷についての理解			
実務経験内容	梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡA	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	田中 貴広・厚地 歩美	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・実技	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法評価プロセスは対象者の社会レベル、能力レベル、機能レベルの問題を抽出し、その問題解決策をプランニングする過程である。問題の抽出、治療プランの立案は解剖学、生理学、運動学等の基礎医学的知識、整形外科学、脳神経外科学、内科学などは臨床医学的知識、さらには理学療法評価学や理学療法治療学的知識を統合しなければ成し遂げることはできない。つまり評価演習は総合教育・実践教育に位置付けられる。また理学療法は人間を対象とするため、知識、技術だけでなくコミュニケーションやマナー、配慮も必要不可欠であり、評価演習ではこれらの対人スキル含め能力向上を図る。下記①-⑤の向上を目標に授業を展開する。 【目標】　臨床現場（実習）を想定したシミュレーションを通じ対人スキルの向上 問題解決能力の向上 実践の中での学習方法の確立　自己教育(育成)力の向上 理学療法評価プロセスの経験 統合と解釈の理解と実践 IDH から ICF への展開		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション・症例提示（THA） ２　検査測定の実践① ３　検査測定の実践② ４　グループディスカッション（対人ｽｷﾙ・リスク管理） ５　実技練習① ６　実技練習② ７　実技練習③ ８　実技試験 ９　実技試験（中間試験） １０　グループディスカッション・グループフィードバック １１　評価プロセス説明・Case2　症例提示（TKA） １２　グループディスカッション・グループフィードバック（疾患・手術から Imp 予測） １３　既往・合併症から Imp 予測、糖尿病に関する症状・治療について １４　社会的背景から能力障害を予測 １５　併存症についてのリスク管理 １６　検査測定方法と計画 １７　実技練習 １８　検査結果の提示　統合と解釈（経過要約・H と D・リスク管理） １９　個別フィードバック ２０　統合と解釈（D と I の関係性） ２１　個別フィードバック ２２　統合と解釈（I の原因追究） ２３　まとめ　個別フィードバック		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	1）筆記試験 50 点に演習内容（評価表）50 点の合計点、2）実技試験 100 点の両者で評定する。 1)、2)ともに 6 割を超えた場合に単位が与えられる。 2）出席に関しては、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。 欠席日数が 1/3 を超えた場合、試験の受験資格失効。 実習前評価として位置づけとし、前期中に演習ⅡA の単位取得可否が決定。		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション リスク管理ハンドブック　第３版」　メジカルビュー社 「リハビリテーション基礎医学 第２版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法評価演習ⅡB	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	厚地 歩美 ・ 田中 貴広	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法評価はボトムアップリーズニングとトップダウンリーズニング双方の利点を活かし、はじめて障害の全容を明らかにできる。評価演習ⅡBでは脳血管障害を題材にトップダウンリーズニングによる理学療法評価プロセスを学ぶ構成としている。脳血管障害は多彩な障害像を呈する。多くの場合、関節可動域障害、筋力低下だけでなく、筋緊張異常や感覚障害が動作障害に関与するため、統合と解釈では高い情報処理能力が求められる。また神経系の検査・測定は状況や目的に応じ方法を工夫しなければ意味のある結果を残せない。トップダウンリーズニングによる脳血管障害の評価の難易度は高いが、一連の取り組みにより習得できるものも多いと考える。 さらに評価演習ⅡBは実際の患者様に協力いただいている。極めて現場に近い環境で実践的な対人スキル、リスク管理能力、技術、学力を高めるとともに、医療者、治療者としてのあり方や倫理観を深めて欲しい。下記①-⑤を到達目標として授業を展開する。 【目標】　症例との関わりを通した対人スキルの向上 症例の生活上の問題、症例の要望に即した評価の実践 動作観察、分析能力の向上 神経系の理学療法評価技術の向上 トップダウンリーズニングによる統合と解釈の理解と実践		
授業計画 Course Content	１　症例情報からリスクの確認と管理方法の検討 ２　医療面接の目的と情報収集項目、基本動作能力確認の意義 ３　医療面接の実践 １ ４　医療面接の実践 ２ ５　動作観察項目および動作観察条件の検討 １ ６　動作観察項目および動作観察条件の検討 ２ ７　リスク管理方法の検討、動作観察の計画・準備 ８　動作観察事前練習 ９　動作観察の実践 １０　動作観察の記録 １１　動作分析　姿勢動作障害の仮説立案１ １２　動作分析　姿勢動作障害の仮説立案２ １３　中枢神経障害に対する評価 １４　検査実施計画１（リスク管理方法を含む)。 １５　検査実施計画２ １６　検査実技練習 １７　検査の実践 １ １８　検査の実践 ２ １９　検査の解釈 ２０　統合と解釈　ＨとＤとの関係 ２１　統合と解釈　ＤとＩとの関係 ２２　統合と解釈　Ｉの原因追及 ２３　統合と解釈　予後予測		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 50 点に演習内容（評価表）50 点の合計点。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	デイリーノート　レポート・レジュメの作成		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	義肢装具学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	橋本　寛	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	義肢装具士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	１．理学療法士としての技術・知識の習得とコミュニケーション能力の向上 理学療法士として必要な義肢装具の技術・知識を習得します。 技術・知識を習得すると同時に、それを正しく表現でき、正しく伝えることも重要なので、セミナーなど、発表の機会をできるだけ多くして、エビデンスに基づいて説明する練習を行う。 ２．医療従事者としての資質向上 知識と技術の習得のみならず、医療従事者としての資質について		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション／義肢とは何か（義肢総論、切断原因と治療） ２　切断者の状態（切断部位と切断術、切断者の評価） ３　下腿義足①（足継手） ４　下腿義足②（下腿ソケット） ５　大腿義足①（膝継手） ６　大腿義足②（大腿ソケット） ７　その他の義足（股義足、膝義足、サイム義足、足部義足） ８　義足はどう使うのか（義足歩行、アライメント、義肢の処方、スポーツ義足） ９　義手とはなにか（義手） １０　義手リハビリテーション、適合の実際、臨床例／義肢のまとめ １１　中間試験 １２　装具の基礎（装具総論、装具を理解するための運動学） １３　下肢装具①（短下肢装具） １４　下肢装具②（長下肢装具、靴型装具） １５　下肢装具③（下肢装具のチェックアウト） １６　その他の装具①（上肢装具、上肢装具のチェックアウト） １７　その他の装具②（頚部体幹装具、頚部体幹装具のチェックアウト） １８　疾患別の装具①（脳卒中片麻痺に対する装具） １９　疾患別の装具②（脊髄損傷患者に対する装具） ２０　疾患別の装具③（小児疾患患者に対する装具、整形外科疾患患者に対する装具） ２１　疾患別の装具④／装具のまとめ（スポーツ外傷に対する装具、これまでの項目） ２２　まとめ① ２３　まとめ②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	中間試験（40%）、最終試験（40%）、平常点（20%、提出物及び平常点）の合計 60%以上を合格とします。平常点は、授業への積極的な参加（発表・討議・質問）とします。		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ　義肢装具学テキスト　改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	義肢装具の概観を学び、基本原理を身につけることを目的とします。見本や臨床例などを交えて授業を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
実務経験内容	義肢装具士として臨床経験２１年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢装具学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	切断患者に対する理学療法士の役割を理解する 断端管理を理解し、弾性包帯を断端に巻くことが出来るようになる 義足装着前後の理学療法を理解する		
授業計画 Course Content	１　下肢切断　概論 ２　切断術後の機能障害 ３　切断術後の断端管理 ４　義肢について ５　義肢アライメントについて ６　下肢切断患者の評価 ７　下肢切断患者の理学療法（訓練） ８　模擬義足でのアライメント修正・訓練		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。		

科目名 Course title	日常生活動作学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	疾患別の日常生活動作指導および介助方法を詳しく学ぶ。 机上だけではなく、臨床に出てすぐ実践できるように実技も詳細に実施する。 急性期、回復期、慢性期、また進行性疾患におけるその時期においての日常生活訓練や指導について理解する。		
授業計画 Course Content	１　脳血管疾患（脳卒中）の起居動作の指導・介助方法 ２　脳血管疾患（脳卒中）の立ち上がり・移乗動作の指導・介助方法 ３　脳血管疾患（脳卒中）の床からの立ち上がりの指導・介助方法 ４　脳血管疾患（脳卒中）の更衣等その他の ADL 指導方法 ５　脊髄損傷部位と残存機能の復習、起居動作の指導方法 ６　脊髄損傷プッシュアップの指導方法、各種日常生活動作の代償方法とその指導方法 ７　脳性麻痺の日常生活動作指導のポイント ８　デュシェンヌ型筋ジストロフィーとは　機能障害　基本動作能力障害の特徴 ９　デュシェンヌ型筋ジストロフィーの日常生活動作障害の特徴とその指導 １０　関節リウマチの日常生活動作指導のポイント １１　脊髄小脳変性症の日常生活動作指導のポイント １２　筋委縮性側作硬化症の日常生活動作指導のポイント １３　進行性疾患の日常生活動作指導のまとめ １４　大腿切断の基本動作、日常生活動作指導のポイント １５　老年期（認知症)、高次脳機能障害の日常生活動作指導		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	ADL とその周辺　評価・指導・介護の実際　第２版（医学書院） 新イラストによる安全な動作介助のてびき　第２版（医歯薬出版） PT・OT のための OSCE　臨床力が身に付く実践テキスト（金原出版）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論ＩＡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	脳卒中片麻痺の障害像と理学療法評価について、講義資料・書籍を使用し、なるべく理解しやすいようにすすめる。VTR を用いて、視覚的な理解を深めるとともに、実技も多く取り入れ、障害像の理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 ２　脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 ３　片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 ４　片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 ５　片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 ６　片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 ７　片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 ８　片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 ９　片麻痺の評価（１）　症例を通じて評価の意義を理解する １０　片麻痺の評価（１）　症例を通じて評価の意義を理解する １１　片麻痺の評価（２） 評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について １２　片麻痺の評価（２） 評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について １３　片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 １４　片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 １５　片麻痺の評価（４）　前回のつづき、講義全体のまとめ		
成績評価の方法・基準・評価	【 成績評価の方法・基準・評価 Grading　Policies Evaluation　Criteria 】 筆記試験		
教科書 Textbooks	「脳卒中理学療法の理論と技術　改訂第３版」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	ＰＣ、プロジェクター、ＤＶＤ、実技室等も用いる		
実務経験内容	濵本 学理学療法士 ：理学療法士として臨床経験３２年の経験を有する。 餅越竜也理学療法士：理学療法士として臨床経験１５年の経験を有する。 筒井洋輔理学療法士：理学療法士として臨床経験　７年の経験を有する。 山本義隆理学療法士：理学療法士として臨床経験　１３年の経験を有する。 松川隼也理学療法士：理学療法士として臨床経験４年の経験を有する。 日高京介理学療法士：理学療法士として臨床経験　２年の経験を有する。 伊達 嵩理学療法士：理学療法士として臨床経験　６年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論ＩＢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	脳の構造やシステムを理解し、正常なヒトの動きを学習する。 脳卒中になるとこのシステムのどこに異常をきたし、どのような症状が出現するのかを理解し、治療を考える。また脳卒中の原因とリスクを学び、発症直後から安全に離床を行えるようにリスク管理の重要性を理解する。 患者 DVD を見て、脳卒中のイメージをつけ評価・治療プランを考えるとともに、実技を通じて促通手技を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　CVA 症例 VTR でグループ発表 ２　ヒトの神経の可塑性について ３　中枢神経の復習　下行路　運動麻痺とは ４　中枢神経の復習　上行路　感覚麻痺とは ５　中枢神経の復習　脊髄・脳幹　CVA の残存能力を考える ６　中枢神経の復習　基底核・小脳ではどのような障害が出るのか？ ７　中枢神経の復習　大脳運動野、感覚野の働きで随意、意識を考える ８　中枢神経の復習　大脳連合野の働きで身体図式、環境適応 ９　CVA の原因とリスク １０　筋緊張・感覚の評価と治療 １１　歩行の評価と治療 １２　症例検討評価 １３　症例検討評価と治療プログラム １４　症例検討評価と在宅目指しての治療プログラム １５　実技（臥位や立位への促通など）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	記述テスト		
教科書 Textbooks	「脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション」　市村出版		
備 考 Other Comments	座学と実技を行う予定。座学ではパソコン・プロジェクターを使用。 実技のできる服装の用意		
実務経験内容	松村彩子理学療法士：理学療法士として臨床経験１７年の経験を有する。 辻内名央理学療法士：理学療法士として臨床経験１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	土井　鋭二郎	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	脳性小児麻痺の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。		
授業計画 Course Content	１　脳性麻痺の概念 ２　正常姿勢筋緊張① ３　正常姿勢筋緊張② ４　正常姿勢筋緊張③ ５　正常運動発達　０～３ヶ月 ６　正常運動発達　４～６ヶ月 ７　正常運動発達　７～９ヶ月 ８　正常運動発達　１０～１２ヶ月 ９　運動発達と治療概念① １０　運動発達と治療概念② １１　運動発達と治療概念③ １２　運動発達と治療概念④ １３　運動発達と治療概念⑤ １４　運動発達と治療概念⑥ １５　脳性麻痺の姿勢運動評価① １６　脳性麻痺の姿勢運動評価② １７　タイプ別：痙直型① １８　タイプ別：痙直型② １９　タイプ別：アテトーゼ型③ ２０　タイプ別：アテトーゼ型④ ２１　タイプ別：失調型⑤ ２２　運動分析① ２３　運動分析②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション医学全書１５　第２版 脳性麻痺」医歯薬出版 「PT・OT のための神経生理学プログラム演習　第２巻　運動発達と反射-反射検査の手技と評価-」医歯薬出版 「正常発達　脳性まひ治療のアイディア 第２版　(改題)」　三輪書店		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験３４年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論Ⅲ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	島袋 尚紀 ・ 宮下 創	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	脊髄損傷の病態と理学療法について講義と実技をとおして学習する。		
授業計画 Course Content	１　脊髄損傷の総論 ２　脊髄損傷の疫学 ３　脊髄損傷の予後 ４　脊髄損傷のの評価（完全損傷） ５　脊髄損傷の評価（不完全損傷） ６　脊髄損傷の運動療法（完全損傷） ７　脊髄損傷の運動療法（不完全損傷） ８　脊髄損傷の動作分析（実技） ９　脊髄損傷の運動療法（実技） １０　脊髄損傷の介助誘導方法 １１　回復期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 １２　急性期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 １３　脊髄損傷の合併症 １４　脊髄損傷の車いす操作方法 １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「脊髄損傷理学療法マニュアル　第２版」　文光堂		
備 考 Other Comments	実技を行うため、ジャージ着用のこと。		
実務経験内容	島袋尚紀理学療法士：理学療法士として臨床経験１１年の経験を有する。 宮下 創理学療法士　：理学療法士として臨床経験９年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	○股関節障害の代表的変形性股関節および大腿骨頚部骨折の理学療法について概説する。 ・変形性股関節症　　病態生理・評価の画像評価が説明できる。 ・大腿骨近位部骨折　　病態生理・評価の説明ができる。 ○臨床でよく遭遇する腰椎関連疾患を中心に、病態とその評価・治療方法について実技指導も踏まえて講義する。 ○膝関節疾患(OA・RA・TKA)の機能解剖ならびに、病態解釈からみたリハビリテーションについて、実技を含めた講義を実施する。 ○臨床現場でよく遭遇する足関節疾患を中心に急性期～機能回復期の理学療法プロセスについて評価・治療方法（実技指導）を踏まえて講義する。 ○臨床現場で診療することが多い肩関節疾患を中心に、病態や解釈の仕方・病態に応じた評価及び治療について講義する。また評価・治療に関しては、実技での演習も行いながら、実際に体験していただきながら講義を行う。		
授業計画 Course Content 成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	１　股関節の解剖、生理学・運動学が説明できる 変形性股関節症の病態生理が説明できる 変形性股関節症の評価と治療が説明できる ２　大腿頚部骨折の病態生理が説明できる 大腿頚部骨折の評価と治療が説明できる ３　股関節疾患の評価実技を行う （評価：小テスト 10%、定期テスト 60%、レポート 30%） １　体幹の機能解剖 ２　腰椎椎間板ヘルニアの病態解釈と理学療法 ３　腰部脊柱管狭窄症の病態解釈と理学療法 ４　脊椎圧迫骨折の病態解釈と理学療法 ５　胸腰椎に関する実技指導 （評価：筆記試験の点数） ６　足関節・足部の機能解剖 ７　足関節疾患（主に足関節果部骨折、アキレス腱断裂など）の病態解釈と理学療法 ８　足関節可動域制限の評価方法と治療介入 ９　足関節疾患の歩行と理学療法 １０　足関節背屈制限の治療介入（実技指導）、歩行への治療介入（テーピング療法など） （評価：筆記試験の点数） １１　膝 OA・RA の病態や違いについて １２　上記１．のリハビリテーションについて １３　TKA の手術について １４　TKA 術後のリハビリテーション １５　TKA 術後のリハビリテーションについての実技 （評価：筆記試験の点数） ・肩関節の機能解剖 ・肩関節周囲炎に対する病態解釈と理学療法 ・凍結肩に対する病態解釈と理学療法 ・腱板断裂に対する病態解釈と理学療法 ・上腕骨近位部骨折の病態解釈と理学療法 （評価：筆記試験の点数）		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法　運動器障害理学療法学テキスト 改訂第２版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	千葉一雄理学療法士：理学療法士として臨床経験２１年及び教員１９年の経験を有する。 森 英人理学療法士 ：理学療法士として臨床経験３１年の経験を有する。 森川 修理学療法士 ：理学療法士として臨床経験１１年の経験を有する。 小坂健二理学療法士：理学療法士として臨床経験１１年の経験を有する。 松野諒平理学療法士：理学療法士として臨床経験６年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論Ⅴ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	向井　公一	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法の対象患者の中に、神経難病と言われる疾患を抱える方々が多い。中でも、神経筋疾患は重篤な機能障害や活動制限を有することがあり、理学療法の重要性が言われる。 この神経筋疾患の疾患概要と理学療法の繋がりについて学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　ガイダンス／多発性硬化症について ２　多発性硬化症の理学療法について ３　錐体外路系疾患について① ４　錐体外路系疾患について② ５　脊髄小脳変性症について① ６　脊髄小脳変性症について② ７　筋委縮性側索硬化症について① ８　筋委縮性側索硬化症について② ９　筋委縮性側索硬化症について③ １０　ギランバレー症候群について① １１　ギランバレー症候群について① １２　筋疾患について（DMD、PN、MG）① １３　筋疾患について（DMD、PN、MG）② １４　筋疾患について（DMD、PN、MG）③ １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験と日々の出席を総合的に勘案して評価を行います。 実技を含むため、できる限り出席すること。		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ　神経筋障害理学療法学テキスト 第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	実技も含めて行うので、実習のできる格好で臨むこと（実習は事前に通知）		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１５年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論VIA	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 呼吸管理に必要な解剖・生理学の復習と血液ガスの解釈、肺機能とその検査法について 呼吸器疾患に対する評価・治療の流れと、リハビリテーションに必要な知識について 到達目標 座学の知識から臨床思考へ移行する１歩目にし、興味を持つきっかけにすると共に呼吸に関する評価項目の列挙が、疾患別また症状別にできる。 また血液ガスの解釈、肺機能とその検査法から必要な情報を読み取りリスク管理・病態把握に繋げ、解剖・生理学の知識から呼吸器疾患のより深い理解や理学療法の対象を明確化できる。		
授業計画 Course Content	１　はじめに呼吸療法総論 ２　呼吸管理に必要な解剖・生理 ３　血液ガスの解釈 ４　呼吸リハビリテーションの評価。ADL・QOL の評価 ５　呼吸不全の概念と病態 ６　各疾患別の病態と理学療法（COPD） ７　各疾患別の病態と理学療法（拘束性肺疾患） ８　各疾患別の病態と理学療法（ARDS の呼吸管理と理学療法） ９　各疾患別の病態と理学療法（睡眠時無呼吸症候群、肺がん） １０　各疾患別の病態と理学療法（肺炎） １１　開胸術後の理学療法 １２　人工呼吸器とその適応・離脱 １３　在宅での呼吸リハビリテーション、在宅人工呼吸療法 １４　新生児・乳幼児の呼吸管理 １５　排痰法、気管吸引		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ　内部障害　理学療法テキスト改訂第２版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論VIB（代謝）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章 ・ 梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（代謝） まず糖尿病の内科的知識から理解を深める。その上で運動療法が糖尿病に与える効果や運動処方の根拠を基礎医学的な知見を踏まえ学習する。 （循環） 循環器疾患に関する理解を深め、リハビリテーションを行う目的を学ぶ。 循環器疾患に対するリハビリ（心臓リハビリテーション）を行う上での評価、方法、リスク管理を理解する。		
授業計画 Course Content	１　糖尿病とは ２　糖尿病の急性合併症 ３　糖尿病の慢性合併症（網膜症） ４　糖尿病の慢性合併症（神経障害　腎症） ５　運動療法が糖尿病に与える効果 ６　運動療法処方の実際とその理論的背景１ ７　運動療法処方の実際とその理論的背景２ ８　循環器系の基礎（解剖・生理） ９　運動が循環器系に及ぼす影響について １０　身近な循環器疾患について １１　循環器疾患に対する理学療法（心臓リハビリテーション）の目的について １２　心筋梗塞（虚血性心疾患）に対するリハビリテーション １３　心不全 １４　心電図の基礎 １５　フィジカルアセスメント		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験。　代謝・循環ともに６割以上		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	原田靖章：理学療法士として臨床経験１２年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	理学療法治療各論Ⅶ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	藤髙　紘平	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講義では、スポーツ選手やスポーツ現場でよく発生する疾患を理解（病態や発生メカニズム）し、そのスポーツ傷害に対する理学療法評価やリハビリテーションプログラム立案までの流れを理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　ガイダンス、スポーツ傷害概論 ２　テーピングの概論 ３　下肢のスポーツ傷害（膝前十字靭帯損傷、半月板損傷について） ４　膝スポーツ傷害に対するテーピング（実技含む） ５　下肢のスポーツ傷害（足関節捻挫）について ６　足関節捻挫に対するテーピング（実技含む） ７　野球肩、筋膜性腰椎症に対するテーピング（実技含む） ８　全体のまとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	授業態度と定期テストの総合評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	プリント配布予定		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１７年の経験を有する。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	生活環境論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法士が臨床で行う家屋評価・整備について理解する。 福祉住環境整備の必要性、評価の重要性、対象者や家族への説明の重要性、整備の技術や手順、関連職種との連携などについて理解する。また、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、新バリアフリー法について理解する。 家屋平面図の記載方法を理解する。 事例を挙げ、家屋整備をグループで検討し、発表する。		
授業計画 Course Content	1　実際の患者の疾患、Impairment、Disability レベルから施設内 ADL を考える 2　上記患者の在宅復帰の際に必要な ADL、住宅改修について考える 3　介護保険、障害保険についての講義、理解。在宅復帰に必要なチーム医療について 4　平面図の記入方法、住宅改修に必要な用語の理解 5　住宅改修の様々な方法の理解（理学療法士として専門的な事の理解含め） 6　住宅改修の様々な方法の理解。レンタルできるものについて。 実際の和室の平面図を作成。 7　事例を挙げ、自身の家屋平面図からその事例患者の住宅改修の平面図を作成（グループワーク） 8　７で作成した平面図について発表		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	家屋平面図提出（10 点）、筆記試験（90 点）の合計 100 点満点。		
教科書 Textbooks	「福祉住環境コーディネーター検定試験　２級テキスト 改訂５版」東京商工会議所		
備 考 Other Comments	住宅改修のグループワーク実施後、グループ発表を実施する。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	検査測定実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	オリエンテーション技術の向上を図る。 学内で学習した知識、技術の理解を深める。 可能な範囲で情報収集、面接、動作観察、検査測定等を経験し、知識、技術を向上させる。 【到達目標】 ①オリエンテーション技術の向上 ②学内で学習した知識・技術の理解を深める ③可能な範囲情報収集、面接、動作観察（できれば分析）、検査測定を経験し、知識・技術を向上させる ④評価実習の前段階として検査測定から評価における専門知識と専門技術を整理すること ⑤臨床実習における報告の意義を理解し実践すること ⑥医療を司る者として自覚を深め、可能な範囲で、患者との信頼関係を築くこと ⑦各医療スタッフと協調性を築く事		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	評価実習	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／４単位
授業方法 Teaching Methods	１８０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	面接課程、評価過程に必要な知識や技術の向上 評価プロセスを臨床場面で実践する。 【到達目標】 ①面接家庭・評価過程に必要な知識・技術の整理をすること ②評価過程、即ち情報収集、面接、検査、測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラム作成等を臨床場面で実施すること ③臨床実習における報告の意義を理解し実践すること ④治療実習の前段階として評価から治療の専門知識と専門技術を整理すること		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文、レジュメ		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

【３年次：２０１９年度以前入学者対象】

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	実習演習（前期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文・前田 崇史	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。 主軸は評価とし基本的検査技術の確認や、意義目的といった項目も再確認する。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、ペーパーペイシェントの紹介（TKA） ２　評価項目の想起、評価項目の意義・目的 ３　評価項目の優先順位の決定と根拠づけ ４　評価の結果に対する解釈、評価の実施 ５　整形疾患の手術（TKA、THA、BHA、ガンマーネイル） ６　整形疾患の手術（TKA、THA、BHA、ガンマーネイル）、まとめ ７　中枢神経疾患の基礎知識（錐体路・錐体外路） ８　中枢神経障害の考え方（運動麻痺について、その治療・評価のとらえ方） ９　ペーパーペイシェントの紹介（CVA）、評価項目の列挙と優先順位について １０　評価項目の実践 １１　結果の解釈、障害象こ構築 １２　運動療法の基礎知識（筋力増強）、実技 １３　運動療法の基礎知識（ROM） １４　リスク管理について（転倒、移乗時など） １５　臨床思考図		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	・筆記試験による評価 ・実技能力の把握は実習前評価で把握する。		
教科書 Textbooks	なし（１．２年の際に購入済みの教科書で分野ごとに用意し実施）		
備 考 Other Comments	主軸は評価能力の向上		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。		

科目名 Course title	実習演習（後期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文・前田 崇史	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。 前期に引き続き評価能力の向上を中心とするが、リスク管理も考慮した症例提示で実施する。		
授業計画 Course Content	１　触診：上肢・下肢・体幹（骨・筋） ２　１の続き ３　動作観察：CVA 症例、基礎運動学の復習（歩行を中心に） ４　３の続き ５　動作観察から評価項目の列挙と優先順位について ６　評価項目の実践と解釈、治療の立案 ７　動作観察：整形疾患 ８　７の続き ９　動作観察から評価項目の列挙と優先順位について １０　評価項目の実践と解釈、治療の立案 １１　介助方法の実践（軽度介助～重度介助まで） １２　１１の続き、ポジショニング １３　臨床思考図 １４　臨床思考図 １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	・筆記試験による評価。 ・実技能力の把握は実習前評価で把握する。		
教科書 Textbooks	なし（１．２年の際に購入済みの教科書で分野ごとに用意し実施）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学（前期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小路　実春	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要等	基礎科目の確立。 まずは、国家試験に触れて慣れる。 国家試験の構成を理解し、どのような問題がどのような形で出題されるのか、またどの様に解答するべきかを理解する。 重要な問題、よく出題される問題の理解を高める。 自身でまずは学習しまとめる。それを元にグループディスカッションにて学習を確率、さらに理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　評価学のグループディスカッション ２　評価学のグループディスカッション ３　評価学のグループディスカッション、講義、小テスト ４　整形外科のグループディスカッション ５　整形外科のグループディスカッション ６　整形外科のグループディスカッション、講義、小テスト ７　脳血管障害のグループディスカッション ８　脳血管障害のグループディスカッション ９　脳血管障害のグループディスカッション、講義、小テスト １０　運動療法のグループディスカッション １１　運動療法のグループディスカッション、講義、小テスト １２　神経・筋疾患のグループディスカッション １３　神経・筋疾患のグループディスカッション １４　神経・筋疾患のグループディスカッション、講義、小テスト １５　補装具のグループディスカッション １６　補装具のグループディスカッション １７　補装具のグループディスカッション、講義、小テスト １８　脊髄損傷のグループディスカッション １９　脊髄損傷のグループディスカッション、講義、小テスト ２０　小児のグループディスカッション ２１　小児のグループディスカッション、講義、小テスト ２２　呼吸・循環・代謝のグループディスカッション ２３　呼吸・循環・代謝のグループディスカッション、講義、小テスト		
成績評価等	小テスト 20 点、中間試験 30 点、終講試験 50 点		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク　2020　理学療法士　専門問題」メディックメディア		
備 考 Other Comments	実習前評価にも中間試験が反映される		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎理学療法学（後期）	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	厚地　歩美	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	実習前後の知識レベルの確認 国家試験、特に実地問題を解答するのに必要な知識を整理する		
授業計画 Course Content	１．理学療法評価学 ２．確認試験（評価学） ３．整形外科学 ４．画像の見方（整形） ５．確認試験（整形） ６．呼吸・循環 ７．画像の見方（内部障害） ８．代謝 ９．心電図の見方 １０．確認テスト【内部障害】 １１．脳血管 １２．画像の見方（脳、ＭＲＩ、ＭＲＡ） １３．確認テスト（脳血管） １４．補装具・脊損 １５．確認テスト（補装具・脊損） １６．神経筋 １７．物療 １８．確認テスト（神経筋・物療） １９．実地問題の解き方 ２０．X2 問題の実施 ２１．基礎三科目問題 ２２．実地問題５０問ディスカッション ２３．まとめ（模試１００問）		
成績評価の方法・基準・評価　Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	「クエスチョン・バンク　2020　理学療法士　専門問題」メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	リハビリテーション機器	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【授業概要・到達目標】 リハビリテーションにおける治療技術の一つに、福祉用具を用いた支援技術がある。本講座では、生活環境の中で用いられる福祉用具の選定を行うための最低限の知識を身に付けることを目的する。		
授業計画 Course Content	※数字は講義回数とは異なります １．福祉用具とは ２．福祉機器の背景 ３．福祉用具の分類 ４．介護保険制度と福祉用具 ５．機器導入の流れ ６．福祉機器の情報 ７．車椅子 ８．移乗機器 ９．ベッド 10．排泄機器 11．入浴機器 12．手すり・スロープ 13．コミュニケーション機器		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後に行う単位認定試験により評価する		
教科書 Textbooks	「福祉用具ハンドブック　これで安心！！買う前に読む　福祉用具の選び方」　大井企画		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２３年の経験を有する。 2001 年 6 年～大阪府作業療法士会機器対策委員		

科目名 Course title	地域理学療法学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	地域地学両方の現場をイメージできるようになることを狙いとする。 講義では、現場で求められる知識や技術が概説される。講義は、講師の現場経験が反映された内容となっている。 ・地域で働く理学療法士にとって大切なこと、求められる能力についての理解を深めながら、現場のイメージができるようになることをねらいとする。 ・摂食嚥下については、授業にて体験・考える事で PT も摂食・嚥下にアプローチできることを感じ取って頂く。 ・ニーズ抽出の難しさと抽出に必要とされる理学療法士としての事項の理解。		
授業計画 Course Content	（２コマ各　担当講師変更） １　地域理学療法学概論 ２　連携（急性期病院勤務の視点から） ３　患者援助に必要な面接技法①　基本原則、コミュニケーション技術（傾聴） ４　患者援助に必要な面接技法②　指導言、治療者の役割、エンカレッジメント 摂食嚥下 ５　食事する意味合いとは、腔ケアの必要性 ６　呼吸・食物形態・姿位・食器等の関連について（実技） ニーズとは ７　地域で働く理学療法士に求められる能力、業務連携 ８　ニーズの定義について、症例検討、事例紹介		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	各講師：レポート課題提出（詳細は講義の際に連絡）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	渡辺 泰理学療法士　：理学療法士として臨床経験３５年の経験を有する。 中島敏貴理学療法士　：理学療法士として臨床経験３５年の経験を有する。 村上将典理学療法士　：理学療法士として臨床経験２２年の経験を有する。 井上健太郎理学療法士：理学療法士として臨床経験２０年の経験を有する。		

科目名 Course title	地域サービス技術論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安永 龍子 ・ 島村 知歩	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（栄養学） 目的：近年、リハビリテーションの効果と栄養をはじめとした身体状況との関連が注目をあびている。特に入院治療者には、低栄養状態も多いと報告され、栄養改善なしには治療効果は見込めない。今後、栄養状態の回復のためのチーム医療の一員として、また退院後の治療効果向上のための栄養学の知識を習得する。 概要：①１日のエネルギー量の算出方法と摂取する食品群の量、主食・主菜・副食のバランスから「健康な食事」について知る。②「まれに・ときどき」見られる栄養素欠乏と身体的臨床所見を知る。③特にビタミン・ミネラルの体内作用と欠乏症を知る。④病態に応じた栄養管理の基礎を学ぶ。 （保健学） 保健学は、健康の探求とその維持増進を目的とする諸科学を統合した人の生命、健康に関わる学問です。健康を維持増進させるための様々な保健活動を理解し、疾病予防や医療人としての自分自身の健康管理について考えることができることをねらいとします。 「国民衛生の動向」を参考にし、どのような保健活動が行われているのかを学習します。		
授業計画 Course Content	（栄養学） １　必要エネルギー量（健常時・疾病時）と「健康な食事」 ２　栄養素欠乏時の臨床所見 ３　ビタミン・ミネラルの体内作用 ４　病態に応じた栄養管理と食事指導 （保健学） ５　保健学とは ６　生活習慣病対策について ７　健康増進対策について ８　老人保健について		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（栄養学） テスト、出席回数（2／3 以上必要）によって評価する。 （保健学） 筆記試験 80％ 、授業態度 20％		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	（保健学：参考）厚生の指標　増刊　「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	治療実習Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／６単位
授業方法 Teaching Methods	３００時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	各疾患の評価過程が実践できる。 問題点や目標に対応した治療プログラムが設定できる。 治療の目的に対して最低限の治療が実践でき、理論的裏付けができる。 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができる。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	治療実習Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／６単位
授業方法 Teaching Methods	３００時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	治療実習Ⅰに同じ。 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができる。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習評価表及び学内判定		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	田中教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員１１年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員１３年の経験を有する。 厚地教員：理学療法士として臨床経験７年及び専任教員５年の経験を有する。 小路教員：理学療法士として臨床経験９年及び専任教員４年の経験を有する。 前田教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験４年及び専任教員２年の経験を有する。		

講 義 概 要

２０２０年度

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》　＝科学的思考の基盤・人間と生活＝

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又　巧也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、２つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	１　物理量とその表し方 ２　いろいろな運動と力 ３　力のつり合いと運動の法則 ４　物体の重心と回転運動 ５　運動、仕事のエネルギー ６　温度と熱 ７　波の運動 ８　電流と抵抗		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト　３０％ 期末試験　７０％		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「物理学」に相当する。		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居　孝彦	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	「統計学」では、（１）統計学の基本的な考え方を身につけることと、（２）パソコンを用いて様々な情報・データを活用・分析することを目的としています。 講義は、テキストを用いた講義・演習と、パソコンを用いた実習を組み合わせて行います。講義・演習で、データの整理・分析の方法を学習した上で、Excel を利用した実習を行います。授業ごとに習う基礎的な概念やデータ分析の目的、分析結果の読み方を理解するように努めてください。		
授業計画 Course Content	１　データの整理（１）：度数分布表とヒストグラム ２　データの整理（２）：代表値 ３　確率分布（１）：分布の形状 ４　確率分布（２）：正規分布 ５　推測統計学（１）：標本平均の分布 ６　推測統計学（２）：正規分布による区間推定 ７　推測統計学（３）：t 分布による区間推定 ８　単位認定試験		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」＝20 点、「単位認定試験」＝80 点で評価します（「単位認定試験」の合格の目安として、講義で配布するプリントの「練習問題」を十分に理解していることを求めます）		
教科書 Textbooks	「新・涙なしの統計学」新世社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「統計学」に相当する。		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居　孝彦	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power　Point を用いた資料の作成は、授業の進行具合に応じて、実施の可否を判断します)。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	1　Word の基本操作（1）：基本的な文書作成 2　Word の基本操作（2）：文書の編集 3　Excel の基本操作（1）：データの入力・編集 4　Excel の基本操作（2）：表の作成 5　Excel の基本操作（3）：数式・関数の利用 6　Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7　Excel の応用操作：データベースとしての利用 8　単位認定試験		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」40 点、「単位認定試験」60 点で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 ※「単位認定試験」は課題レポートに変更することがあります。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	授業ごとに課題プリントを配付。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「情報処理学」に相当する。		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、ドッチボール ２　ラケット競技（バドミントン・ショートテニス・卓球） ３　バドミントン ４　卓球 ５　バレーボール ６　バレーボール ７　ショートテニス ８　バスケットボール ９　バドミントン １０　バスケットボール １１　卓球 １２　フットサル １３　ショートテニス １４　フットサル １５　バレーボール		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席重視		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「保健体育」に相当する。		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学英語）※選択必須	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	人見 麻紀	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションに関する英語の運用能力の養成を目指す。教科書やプリントを使用して、日常生活動作、運動・動作表現、診断・機能評価の表現、治療上の体位の表現や訓練・リハビリテーションの表現などについて学習する。		
授業計画 Course Content	＊「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」教科書の項目に沿って進める １　オリエンテーション（会話テストペア決め）＆Lesson１ ２　Lesson２＆Lesson３ ３　Lesson４＆Lesson５ ４　Lesson６＆Lesson７ ５　会話テスト① ６　Lesson８＆Lesson９ ７　Lesson１０＆Lesson１１ ８　Lesson１２＆Lesson１３ ９　会話テスト② １０　Lesson１４＆Lesson１５ １１　Lesson１６＆Lesson１７ １２　Lesson１８＆Lesson１９ １３　Lesson２０＆Lesson２１ １４　会話テスト③ １５　Lesson２２＆復習 期末テスト		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点　10%　（平常点 10 点） 会話テスト　30%　（10 点×3 回＝30 点） 単位認定試験　60%　（期末テスト 100 点×0.6＝60 点）		
教科書 Textbooks	「PT・OT が書いたリハビリテーション英会話」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「英語」に相当する。		

科目名 Course title	外国語Ⅰ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員　作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験１級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および１年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文字/語彙①＆文法① 2.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文字/語彙②＆文法② 3.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文法③＆読解① 4.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　言語知識_文法④＆読解② 5.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　読解③＆聴解① 6.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　読解④＆聴解② 7.　日本語能力試験Ｎ１対策講座　模擬試験 8.　解剖学用語　総論 9.　解剖学用語　骨 10.　解剖学用語　関節 11.　解剖学用語　靭帯 12.　生理学用語　総論 13.　生理学用語　細胞の構造と機能　神経系 14.　生理学用語　循環器系 15.　生理学用語　呼吸器系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	曽我部 和馬	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	教育学とは、「教育」：他社と関わることについて、「学」：考え直す学問である。本講義では、この教育学の知見に、さまざまな具体的事象を関連させつつ触れることを通じて、医療従事者が、いわゆる社会的「弱者」と関わるなかで求められるべき「批判的思考」を身につけることを目指す。		
授業計画 Course Content	1　はじめに 2　アマラとカマラ：教育学へのいざない 3　〈子ども〉の誕生：近代学校史を通じて 4　特別支援教育：障害へのまなざし 5　映画「しわ」を観る 6　道徳的発達とケアの倫理 7　ジェンダーとセクシュアリティ 8　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末試験 60% 平常点 40%（出席、ミニレポート、授業への意欲・態度）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	本講義では、各自の思考を深めるべく、授業終了時にミニレポートを課し、また適宜グループディスカッションの機会を設ける予定である。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「教育学」に相当する。		

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	赤松 眞吾	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	医療・保険・福祉に携わるリハビリテーション従事者にとって、人とのコミュニケーションは必須である。そして、それはただ経験的に積み重ねていくだけでは不十分であり、様々な方法、技術を学び身に付けていかなければ、多様なニーズを持つ対象者の対応ができないとも言える。この講義では、コミュニケーションに必要な技術と知識を学び、身に付けるだけでなく、リハビリテーションの専門職としてコミュニケーションの重要性を学ぶことを目的とする。		
授業計画 Course Content	１．コースガイダンス(科目の目的・目標・評価方法) -人間関係の中の自己と他者　-人間関係とは -自己とは -他者とは ２．対人関係と役割 -対人関係の成立 -対人関係の維持と崩壊 -対人葛藤と対処 -社会的役割 ３．他者に対する態度と行動 -態度と態度変化 -説得的コミュニケーション -攻撃 -援助 ４．大きな単位の人間関係:集団 -集団の特性 -集団での課題遂行・問題解決・意思決定 -リーダーシップ ５．自分理解 -自分を理解するということ -エゴグラム ６．患者を支える人間関係 -死に向かう患者を支える人間関係 -事例ー末期がん ７．家族を含めた人間関係 -保護を必要とする高齢者と家族 -事例認知症 ８．人間関係をつくる理論と技法① コミュニケーション -コミュニケーションとは -対人コミュニケーション　-看護理論にみる患者ー看護師関係 ９．言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション -言語的コミュニケーション -非言語的コミュニケーション １０．聴く:「積極的傾聴」と「共感」 -傾聴と共感 １１．　話す:「質問する」と「伝える」 -聞かれた質問と閉ざされた質問 １２．　人間関係をつくる理論と技法②:アサーティブーコミュニケーション -アサーションの理論とスキル １３．　人間関係をつくる理論と技法③:コーチング　-コーチングの理論とスキル １４．　保健医療における人間関係:患者・看護師間の相互作用の評価 -ロールプレイ -プロセスレコード -リフレクション １５．　晶度なコミュニケーション:臨床実習で遭遇する事例をもとに -コミュニケーションの困難な状況 -コミュニケーションの強化が必要な状況		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験 60% 提出物 40%		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第３版」(医学書院)		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　心理学の歴史 ２　知覚１ ３　知覚２ ４　記憶１ ５　記憶２ ６　知能 ７　感情 ８　学習１ ９　学習２ １０　適応１ １１　適応２ １２　性格 １３　発達 １４　思考 １５　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	３分の２以上の出席とレポートと筆記試験の成績		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「心理学」に相当する。		

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三宅　眞理	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどういう集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）：①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②公衆衛生のしくみについて理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③身のまわりの環境と健康（環境保全、食品の安全、環境行政）について理解し実践できる。 ④感染症とその予防対策について理解し実践できる。 ⑤母子保健、学校保健における保健活動について理解し実践する力を養成する。 ⑥成人保健、高齢者保健、歯科保健について理解し健康増進を実践する力を養成する。 ⑦精神保健、国際保健おける保健活動について理解し実践する力を養成する。 ⑧職場と健康や健康危機管理を理解し、保健医療の専門職としての公衆衛生活動を実践できる。		
授業計画 Course Content	第１回　公衆衛生とは，公衆衛生学の活動対象：1 章，2 章 第２回　公衆衛生学のしくみ，疫学・保健統計：3，4 章 第３回　環境と健康：5 章 第４回　感染症とその予防対策，国際保健：6 章　7 章 第５回　地域における公衆衛生の実践　母子保健，学校と健康：8 章 B，9 章 第６回　地域における公衆衛生の実践　成人保健，高齢者保健，歯科保健：8 章 C，8 章 D，8 章 F 第７回　地域における公衆衛生の実践　精神保健，障碍者保健・難病：8 章 E，8 章 G 第８回　職場と健康，　健康危機管理，まとめ：10 章，11 章		
成績評価等	**【成績評価の方法・基準・評価　Grading Policies　Evaluation Criteria 】** 筆記試験		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生」医学書院		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「公衆衛生学」に相当する。		

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	岡田　明	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適なものにしていくことが、今強く求められている。特に高齢社会においては、年齢や障害の有無を問わず、誰でも豊かで健康的な生活を送るために必要不可欠なことである。 たとえば、椅子やベッドなどの家具を身体サイズに合わせたり、照明・空調・トイレなどの住宅設備を負担の少ない快適なものにしたり、パソコンや洗濯機などの家電製品を操作しやすい安全なものにすることなどがそれに当たる。人間工学はこうしたモノや空間を様々な人々が使えるように考えていく学問である。リハビリや要介護者のケア、生活環境の改善等に関わる理学療法士・作業療法士にも当然必要な素養である。 講義では、介護やリハビリを行う上で考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、それに合ったモノや環境づくり、そしてその使い方のガイドラインを紹介していく。		
授業計画 Course Content	毎回１つのテーマを取り上げていく。全体は２部構成となっており、第１部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第２部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。 〔第１部：人の心身機能とその特性〕 １　イントロダクション　－人間工学とは何か，どう役立つのか ２　人間工学に基づくイスの設計　－バイオメカニクスの視点 ３　モノづくりは人の寸法を知ることから始まる　－人体寸法とデザイン ４　悪い姿勢が体を壊す　－運動機能と身体負担 ５　感覚は五感だけではない　－感覚の種類と視覚機能 ６　人はどのように見ているのか　－視覚の生理学 ７　人は見たモノをどのように感じているのか　－視覚の心理学 ８　ストレスは悪者ではない　－疲労・ストレスと快適性デザイン 加齢に伴う機能変化　－超高齢社会への配慮 〔第２部：介護・リハビリのための応用人間工学〕 ９　エイジングと高齢者の居住環境　－高齢社会に対応したモノづくり １０　誰もが目的を達成できるモノのデザイン　－ユニバーサルデザインと人間工学 １１　姿勢と動作，介護現場の事例 １２　ボディメカニクス，福祉機器の設計 １３　リハビリの安全と生理 １４　演習：病院のユニバーサルデザイン １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況と試験成績．試験は授業内容を問う基本的なもの。		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備 考 Other Comments	毎回プリントを配布し、必要に応じて副読本を紹介する。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「人間工学」に相当する。		

《専門基礎分野》　＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	**専門基礎概論**	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	杉村　孝彰	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士養成校では、解剖学、生理学、運動学を基礎として作業療法士としての医学的知識、技術を向上させていく必要がある、。その解剖学、運動学、生理学を十分に理解するためには、高校までに学習した化学、物理学、数学、生物学の知識は欠かせない。この科目では、高校までで学んでおくべきそれらの知識を復習も兼ねて学習し、作業療法学の基盤になる知識の理解と定着、応用ができるようになることを目標とする。		
授業計画 Course Content	１．　化学①　元素、分子、イオンの名称について、中和反応、加水分解について学ぶ ２．　化学②　３大栄養素の糖、たんぱく、脂質を化学的な視点で学ぶ。 ３．　化学③　酵素の反応やＤＮＡの構造・塩基配列の意味を学ぶ。 ４．　物理①　波や光、熱について学び、視覚や聴覚、体性感覚の理解につなげる。 ５．　物理②　速度、加速度、距離、運動の三大法則などを学び、人体の力学で学ぶべき内容の基礎を知る。 ６．　数学①　物理で知ったベクトルの計算の仕方や合成、分解の方法を学ぶ。 ７．　数学②　単位の変換や表記、割合や比率など、基本的な数の扱いについて学ぶ。 ８．　生物①　細胞の構造、各機関の役割を知り、体内反応との関連性を知る。 ９．　生物②　細胞分裂、発生を学び、人の体の成り立ちの基礎を知る。 １０．生物③　遺伝の仕方、ＤＮＡとの関連性、劣性遺伝や優性遺伝、伴性遺伝 １１．生物④ 細胞内で行われている反応について学ぶ。解答系、ＴＣＡサイクル、電子伝達系を理解する。 １２．生物⑤ 細胞膜の構造、膜にあるタンパク質の理解、活動電位、静止電位について理解する。 １３．生物⑥ 神経における活動電位の伝番、跳躍電動を理解する。シナプス間の信号伝達について学ぶ。 １４．生物⑦　筋肉の構造、筋収縮の仕組みを理解する。白筋、赤筋の違いを理解する。 １５．生物⑧　ＤＮＡの構造、塩基配列について理解し、遺伝情報がどう伝わるかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800: 教科書／南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森　康晴	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	解剖学は医療を志す者にとっては基本の学問である。特に作業療法士など直接患者の体に接触する者にとっては、そのヒトの体の構造を理解することは必須である。解剖学Ⅰにおいては、まず、ヒトの体の骨格である骨とそれを繋げている関節、さらには筋肉（前半）についてわかりやすく講義する。 骨学総論として、骨の形や構造、骨の神経や性差、さらには発生やリモデリングについて講義する。その後、各論として頭蓋骨～足の骨までを順々に講義する。 関節としては、広義の関節、狭義の関節（滑膜性連結）や関節面などの形による分類（球関節など）も講義する。その後、各論として頭蓋骨の連結～～足の連結までを順々にくわしく講義する。 筋肉としては、総論として筋肉の構造や微細構造を、また、各論としては頭部の筋肉から順々に講義していく。		
授業計画 Course Content	１　解剖学総論 ２　骨の分類と構造 ３　頭部の骨 ４　脊柱の骨 ５　胸部の骨 ６　軸骨格（体幹）総まとめ ７　上肢の骨（肩甲骨・上腕骨） ８　上肢の骨（前腕骨・手の骨） ９　上肢の骨　総まとめ １０　下肢の骨（寛骨・骨盤） １１　下肢の骨（大腿骨・下腿骨） １２　下肢の骨（足の骨） １３　下肢の骨　総まとめ １４　骨と骨との連結 １５　滑膜性関節の構造と分類 １６　頭蓋の骨と連結 １７　脊柱の関節と靭帯 １８　上肢の関節と靭帯 １９　胸部の関節と靭帯 ２０　手指の関節と靭帯 ２１　下肢の関節と靭帯 ２２　関節と靭帯　総まとめ ２３　定期試験		
成績評価	【成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies　Evaluation Criteria】 定期試験： 80%　＋　小テスト： 20%　で成績評価をする予定です。		
教科書 Textbooks	「PT・OT・ST のための解剖学」廣川書店		
備 考 Other Comments	明るく、楽しくわかりやすい授業を心がけます。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅰ」に相当する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森　康晴	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法士として必要且つ重要な筋系及び神経系の基本構造を学び、それらの働きや相互作用・相互関係を理解する。 筋系の基本的な構造と働きを述べ、主要な筋の起始・走行・停止と作用、さらには支配神経について詳しく 講述する。神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造と働きを述べ特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。		
授業計画 Course Content	１　骨格筋の構造と作用 ２　体幹の筋　①頭部の筋 ３　体幹の筋　②頸部の筋 ４　体幹の筋　③背部の筋 ５　体幹の筋　④胸部・腹部の筋 ６　上肢の筋　①上肢帯の筋 ７　上肢の筋　②上腕・前腕の筋 ８　上肢の筋　③手の筋 ９　下肢の筋　①下肢帯の筋 １０　下肢の筋　②大腿の筋 １１　下肢の筋　③下肢の筋 １２　筋肉理解度確認テスト（中間テスト） １３　神経の構造と機能 １４　中枢神経　①脊髄 １５　中枢神経　②大脳 １６　中枢神経　③間脳　④脳幹 １７　中枢神経　⑤小脳 １８　末梢神経　①脊髄神経 １９　末梢神経　②脳神経 ２０　末梢神経　③自律神経 ２１　神経の伝導路 ２２　神経　総まとめ ２３　定期試験		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験：　80％　＋　小テスト：　20％　で成績評価をする予定です。		
教科書 Textbooks	「ＰＴ・ＯＴ・ＳＴのための解剖学」廣川書店		
備 考 Other Comments	明るく、楽しくわかりやすい授業を心がけます。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅱ」に相当する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。 以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	１　DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する ２　細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 ３　細胞分裂、組織：上肢組織 ４　組織：支持組織、筋組織、神経組織 ５　血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 ６　刺激伝導系、体循環系動脈（総頚動脈、外頚動脈） ７　動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 ８　静脈：脳、上肢、奇静脈系 ９　静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 １０　リンパ系：リンパ本幹、リンパ節　胸腺、脾臓 １１　消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 １２　消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 １３　消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 １４　消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 １５　腹膜、間膜		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂 20 版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅲ」に相当する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ｖでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系、生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	１　呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 ２　呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 ３　泌尿器系：腎小体、尿細管 ４　泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 ５　男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 ６　男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 ７　女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 ８　女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 ９　女性生殖器：胎児の成長、胎盤 １０　内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 １１　内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン １２　皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 １３　眼：眼球の構造 １４　眼：眼の付属器官　耳：外耳、鼓膜 １５　耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第６版」南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂 20 版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「解剖学Ⅳ」に相当する。		

科目名 Course title	生理学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本　知子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体機能発現の基礎となる。細胞レベルでのメカニズムを学ぶ。細胞における生命諸反応をミクロ視点で探り、その後、細胞群が組織、審査を形成し、コミュニケーションをとりながら複雑な機能発現を成すしくみを理解する。		
授業計画 Course Content	１　一般生理　（生理学） ２　一般生理　（生命現象・ホメオスタシス・フィードバック） ３　一般生理　（人体構成物質・細胞構造） ４　細胞機能　（細胞小器官） ５　細胞機能　（細胞膜の物質移動） ６　細胞機能　（調節メカニズム） ７　細胞機能　（シグナル伝達・受容体） ８　興奮発生と伝達　（興奮性細胞・神経系の基本・活動電位と局所電位・静止電位） ９　興奮発生と伝達　（細胞膜イオン透過性の変化） １０　興奮発生と伝達　（イオンチャネル・パッチクランプ） １１　興奮発生と伝達　（活動電位の伝導と特性・λとτ・跳躍伝導） １２　興奮発生と伝達　（単・二・三相性活動電位・複合活動電位・軸索輸送） １３　シナプス伝達　（興奮性・抑制性・シナプス小胞） １４　シナプス伝達　（神経伝達物質・神経伝達物質受容体・神経回路網） １５　シナプス伝達　（ニューロン結合の基本型・可塑性・神経の変性・再生・成長）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験、小テスト、実習、レポート		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第８版」文光堂		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「生理学Ⅰ」に相当する。		

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	１　循環系の機能①　心臓の構造と心筋の働き ２　循環系の機能②　心電図　心臓ポンプ機能 ３　循環系の機能③　血管の構造と働き　リンパ管系 ４　循環系の機能④　血圧とその調整 ５　循環系の機能⑤　局所の循環 ６　呼吸の生理学①　呼吸器系の構造　換気の仕組み ７　呼吸の生理学②　肺機能　ガス交換とガス分圧 ８　呼吸の生理学③　呼吸の調整　呼吸の異常 ９　自律神経系と内臓機能①　交感神経系と副交感神経系 １０　自律神経系と内臓機能②　自律機能の中枢　内臓反射 １１　消化と吸収①　消化管の基本的構造　口腔内と胃内の消化 １２　消化と吸収②　小腸内の消化と吸収 １３　大腸の働きと排便　肝臓の機能 １４　栄養と代謝①　基礎代謝と栄養所要量 １５　栄養と代謝②　三大栄養素の中間代謝		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、１００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第７版」南江堂		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「生理学Ⅲ」に相当する。		

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。		
授業計画 Course Content	１　体液とその調整①　体液の区分と組成　酸塩基平衡の調整 ２　血液の生理①　血液の組成　細胞組成 ３　血液の生理②　血液凝固　血液型　免疫機構 ４　体温とその調節①　体温の区分と生理的変動　熱産生 ５　体温とその調節②　熱放散　発熱とうつ熱 ６　尿の生成と排泄①　肝臓の機能的構造　糸球体濾過 ７　尿の生成と排泄②　尿細管における再吸収と分泌 ８　尿の生成と排泄③　尿の成分　畜尿と排尿 ９　内分泌系の機能①　ホルモンの一般的性質と分泌調節 １０　内分泌系の機能②　視床下部　下垂体ホルモン １１　内分泌系の機能③　甲状腺のホルモンと骨代謝　膵臓のホルモン １２　内分泌系の機能④　副腎のホルモン １３　内分泌系の機能⑤　精巣、卵巣のホルモンと生殖 １４　感覚系の構造と機能①　感覚の一般的性質　体性感覚 １５　感覚系の構造と機能②　嗅覚と味覚		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、１００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第７版」南江堂		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「生理学Ⅱ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）、及び、身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす　② 残存機能を応用させたＡＤＬ（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。この講座では、主に上肢帯について学ぶ。 到達目標 人間の正常な機能構造を理解する 機能構造から起こる運動の特性について理解する		
授業計画 Course Content	１　運動学とは ２　上肢帯と肩関節の運動の概要 ３　上肢帯の機能構造 ４　鎖骨の運動 ５　鎖骨と肩甲骨の連結について ６　肩甲骨の運動 ７　肩関節の運動（肩関節の機能構造） ８　肩関節の運動（肩関節と上腕骨の関係性） ９　肩関節の運動（形状に伴う運動の特性） １０　肩甲骨の運動（運動方向） １１　肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム） １２　肩関節周囲の筋肉（頚部から肩甲帯） １３　肩関節周囲の筋肉（肩甲骨周囲および胸郭） １４　肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲） １５　肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲および上肢）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第６版　補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学Ⅰ　上肢　原著第７版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学Ⅰ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体運動の仕組み（身体の機能・構造）および身体運動の特性について学ぶ。 これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす　② 残存機能を応用させたＡＤＬ（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。 この講座では、上肢から手指、把持することついて、学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　上腕から前腕の構造について（概要） ２　肘関節の関節構造について ３　肘関節の関節構造について（関節包・靭帯） ４　肘関節の構造と運動（関節形状に伴う特性） ５　肘関節の運動 ６　前腕の構造 ７　前腕の運動 ８　手根骨の機能解剖 ９　手関節の機能構造 １０　手関節の運動（形状に伴う特性） １１　手の役割、手の多機能性 １２　手関節と手指の運動 １３　手指の運動（関節構造と靭帯） １４　上腕の筋群 １５　前腕および手内在筋群		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第６版　補訂」医歯薬出版 「カパンジー機能解剖学Ⅰ　上肢　原著第７版」医歯薬出版 「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学Ⅱ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹) Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	１　運動学とは何か ２　力学の基礎①（てこの原理、作用・反作用・力のつりあい） ３　力学の基礎②（ベクトル、滑車、仕事） ４　関節の分類、関節運動の表現法 ５　股関節の運動学①（関節の特徴、靭帯） ６　股関節の運動学②（関節の動き、筋肉） ７　股関節の運動学③（屈曲、伸展） ８　股関節の運動学④（外転、pauwels の理論） ９　股関節の運動学⑤（内転、内・外旋） １０　膝関節の運動学①（関節の特徴、半月板） １１　膝関節の運動学②（側副靱帯、十字靱帯） １２　膝関節の運動学③（屈曲、伸展、膝蓋骨の役割） １３　膝関節の運動学④（Screw-home movement、筋肉、伸展機構） １４　膝関節の運動学⑤（半月板の形態と働き、膝関節の安定性） １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第６版　補訂」医歯薬出版 「図解　関節・運動器の機能解剖　下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学Ⅲ」に相当する。		

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹) Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。		
授業計画 Course Content	１　足関節の運動学①（関節の特徴、足を構成する骨の特徴） ２　足関節の運動学②（距腿関節、距骨下関節） ３　足関節の運動学③（ショパール関節、リスフラン関節） ４　足関節の運動学④（中足間関節、中足指節関節、趾節間関節） ５　足関節の運動学⑤（足底弓蓋） ６　脊柱の運動学①（脊柱の特徴、motion segment、） ７　脊柱の運動学②（椎間関節、関節包内運動、頚椎の運動） ８　脊柱の運動学③（椎間円盤、胸椎の運動） ９　脊柱の運動学④（胸椎の運動、胸郭の運動） １０　脊柱の運動学⑤（腰椎の運動、仙腸関節） １１　歩行と走行①（歩行周期、走行との違い） １２　歩行と走行②（歩行周期と重心移動、関節角度の変化） １３　歩行と走行③（歩行時の筋滑動、異常歩行） １４　歩行と走行④（床反力、 Floor-foot clearance、double knee action） １５　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席状況　②レポート（開講後提示予定）　③終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第６版　補訂」医歯薬出版 「図解　関節・運動器の機能解剖　下肢編」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学Ⅳ」に相当する。		

科目名 Course title	人間発達学Ⅰ（運動）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（運動発達） ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション ２　新生児 ３　頭部のコントロール ４　抗重力活動 ５　立ち直り運動 ６　坐位・立位・歩行技能 ７　視覚技能 ８　上肢技能		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	横山 みき	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	（発達心理） 　子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content	１　発達とは―発達心理学の基礎 ２　乳幼児期の発達 ３　言葉の発達① ４　言葉の発達② ５　心の理論 ６　児童期のこころ ７　青年心理学 ８　老年心理学―認知症の理解		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発達心理　　テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森本　純司	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	１　病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構 ２　細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 ３　循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 ４　炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 ５　免疫機構の異常：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 ６　遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 ７　腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 ８　代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 ９　循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 １０　呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、循環障害、炎症、腫瘍など １１　消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 １２　内分泌系：脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、髄質、膵臓ランゲルハンス島の病気 １３　造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 １４　泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、繊毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 １５　運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 脳神経系：脳の循環障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、腫瘍など		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて評価する。		
教科書 Textbooks	「シンプル病理学　改訂第７版」南江堂		
備 考 Other Comments	理解度を高めるためにプリントも配布する。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「病理学」に相当する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下　真次	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	神経内科学の総論について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	１．主要神経症候 １　運動麻痺 ２　運動失調 ３　錐体外路症候 ４　姿勢反射障害と姿勢異常 ５　痙攣とミオクローヌス ６　筋萎縮 ７　歩行障害 ８　感覚障害 ９　疼痛 １０　脳神経障害 １１　構音障害、嚥下障害、球麻痺症候 １２　意識障害 １３　高次脳機能傷害 １４　自律神経症候 ２．臨床検査 １５　画像検査・電気生理学的検査		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	授業の終了時（学期末）にテストをする。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布 2019 年度以前入学者対象教育課程における「神経内科学Ⅰ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験３３年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	上川　比呂勝	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	１．現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 ２．精神と脳の関係を考える。 ３．疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content	１　講師の自己紹介　この授業全体の概要　精神医学について　認知症症例 ２　アルツハイマー型認知症　症例および解説 ニューロンとシナプス　心とは何か ３　脳血管性認知症　症例および解説 ４　さまざまな認知症　クロイツフェルトヤコブ病、ハンチントン病など ５　統合失調症　破瓜型　症例および解説　統合失調症概説 ６　統合失調症　緊張型　症例および解説 統合失調症の発病　精神科病棟について ７　統合失調症　妄想型　症例および解説　統合失調症の経過　慢性期 ８　統合失調症の治療およびリハビリテーションを考える ９　気分障害　症例と解説　気分障害概説 １０　気分障害　バーンアウト　症例と解説　気分障害経過 １１　気分障害　躁病　症例と解説　気分障害治療 １２　気分障害　生活上の注意点　ストレスへの対処を考える １３　薬物依存　症例アルコール依存症１　薬物依存概説 １４　薬物依存　症例アルコール依存症２　アルコール依存症者の生活史 １５　薬物依存　タバコおよびその他の薬物 依存とは　アルコール依存症の治療		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待　改訂３版」南山堂		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します 2019 年度以前入学者対象教育課程における「精神医学Ⅰ」に相当する。		
実務経験内容	医師として臨床経験１７年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content	（１５回で行う） １　臨床心理学について ２　パーソナリティ ３　アセスメント ４　発達と心理的問題 ５　心理的介入 ６　臨床心理学の応用 ７　国家試験対策		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など。		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版 2019 年度以前入学者対象教育課程における「臨床心理学」に相当する。		
備 考 Other Comments	なし		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本 年也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	15 時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法について学んでいくにあたり、より広義であるリハビリテーションの概要を理解することである。 到達目標を達成するために、まず、リハビリテーションの定義・歴史について講義したうえで、生活・健康の概念についてみていき、疾病・障害・生活機能を分類する概念について解説していく。続いて、一般化されている患者・障害者の心理的な側面についてみるとともに、リハビリテーションが進められる流れ、リハビリテーションの形態について講義する。		
授業計画 Course Content	1　リハビリテーションの理念（前半） ‣①歴史・定義　②ハビリテーション　③ノーマライゼーション　④自立生活 2　リハビリテーションの理念（後半） ‣⑤健康に関連する概念（QOL）　⑥生活・ライフスタイルと健康 3　疾病・生活機能の概念と分類（前半） ‣①病気の定義と国際疾病分類（ICD）　②国際障害分類（IDIDH） 4　疾病・生活機能の概念と分類（後半） ‣③国際生活機能分類（ICF） 5　患者・障害者の心理・社会的側面 ‣①患者・障害者心理　②心理的適応の過程　③心理教育（患者教育、家族教室） ④社会参加を支える法制度 6　リハビリテーションの進め方 ‣①リハビリテーション関連職種　②チームアプローチ　③ケース会議(評価会議) ④リハビリテーションプログラム　⑤クリニカルパス 7　リハビリテーションの諸相 ‣①医学的リハビリテーション　②教育的リハビリテーション ③職業的リハビリテーション　④社会的リハビリテーション ⑤地域リハビリテーション　⑥予防と健康管理 8　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	・中村隆一・佐直信彦：入門リハビリテーション概論　第７版増補.医歯薬出版.2013 ・「ICF　国際生活機能分類」中央法規		
備 考 Other Comments	参考図書：上好昭孝，田島文博　編著：リハビリテーション概論　改訂第３版.永井書店.2014 2019 年度以前入学者対象教育課程における「リハビリテーション概論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１１年の経験を有する。		

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤　登美子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	１．現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは ２．福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 ３．わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 ４．低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について ５．自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 ６．児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について ７．高齢者の福祉 介護保険制度について ８．利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし 2019 年度以前入学者対象教育課程における「社会福祉学」に相当する。		

科目名 Course title	多職種連携学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	本講座の到達目標は、作業療法士とともにリハビリテーションを担う職種との連携を理解することである。 到達目標達成に向け、連携に関する概念を学んだうえで、看護師・理学療法士・言語聴覚士と特に連携することが多い職種の概論を講義する。その後、作業療法士単独ではなく、職種間で連携することで得られる効果について検討していく。		
授業計画 Course Content	１　リハビリテーション関連職種と連携 ２　チームアプローチ ３　【看護師（Ns)】看護とは ４　【看護師（Ns)】看護の提供者とその仕組み ５　【看護師（Ns)】看護過程について ６　【看護師（Ns)】チームアプローチを行ううえで療法士に期待すること ７　【理学療法士（PT)】理学療法の基礎概念 ８　【理学療法士（PT)】理学療法の実際（1） ９　【理学療法士（PT)】理学療法の実際（2） １０【理学療法士（PT)】チームアプローチを行ううえで OT に期待すること １１【言語聴覚士（ST)】言葉とコミュニケーション １２【言語聴覚士（ST)】言語障害の種類と接し方 １３【言語聴覚士（ST)】摂食嚥下障害 １４【言語聴覚士（ST)】チームアプローチを行ううえで OT に期待すること １５　チームアプローチを効果的に進めていくために		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法の基礎となる「作業」や「活動」とはなにか、「作業療法とは」「作業療法士とは」ということをその言葉の意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　作業とは？作業療法とは？ ２　作業療法の理論・理念・関連法規 ３　作業療法の歴史 ４　作業療法の倫理 ５　作業療法士に求められるもの ６　作業療法と ICIDH と ICF ７　EBM と作業療法 ８　他職種連携：チームアプローチ ９　作業療法の現場・対象・病期 １０　作業療法における思考過程：クリニカルリーズニングとは １１　作業療法の過程：評価、統合と解釈、計画立案 １２　領域別作業療法の実際 １３　領域別作業療法の実際 １４　作業療法にかかわる医療・福祉制度 １５　作業療法部門の管理・運営		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　作業療法学概論　第３版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし 2019 年度以前入学者対象教育課程における「運動学Ⅲ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業分析学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤善　将	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士がADLの向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点をもち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content	1　作業療法についての振り返り 2　作業療法の理解に向けたグループワーク 3　活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4　分析結果の発表・ディスカッション 5　巧緻動作とADLの関係性についてのグループワーク 6　分析結果の発表・ディスカッション 7　食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8　分析結果の発表・ディスカッション		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし 2019年度以前入学者対象教育課程における「作業分析学Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として教員６年及び臨床２２年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村　博也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習実習	実務経験 Experience	**作業療法士**
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法の治療媒体としての作業活動の中から代表的な革細工と陶芸を通して、材料と道具の使い方とその管理方法、作品制作の手順を理解する。 作品制作を通し作業分析的視点から、作業療法においての作業活動の意味を考える。		
授業計画 Course Content	１．コースオリエンテーション ２．陶　芸　荒練り、菊練りの実技 ３．　　手びねりでのぐい飲み ４．　　ひもづくりでの湯呑み ５．　　たたらづくりによる花瓶 ６．　　ひもづくりでの灯篭 ７．　　ひもづくりでの灯篭、素焼き ８．　　施釉、本焼き ９．革細工　小銭入れ 10.　　スタンピング 11.　　染色 12.　　かがり、ホックつけ 13.　　コースター 14.　　カービング 15.　　染色		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	作品提出、レポートの総合により成績を判定する。		
教科書 Textbooks	「基礎作業学実習ガイド」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	実習科目なので作品提出とレポートを重視する。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「基礎作業学実習Ⅰ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１７年及び教員１５年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	杉村　孝彰	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	**作業療法士**
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【一般目標】 作業療法としての木工作業とレクレーションを体験する。木工では、工程や必要な道具・材料について、包括的作業分析（活動分析）の手法を学ぶ。レクレーションでは、計画、実施、振り返りを行って、作業療法として実践的にレクレーションを行う手法を学ぶ。 【行動目標】 ① 製作する木工作品を自身で決定し、与えられた設定の中で作品を完成することができるようになる。 ② 木工作業の体験をする中で、作業療法に必要な要素を考えながら、作業分析の視点を養う。 ③ 体験した木工作業を、包括的作業分析（活動分析）してレポートにまとめることができる。 ④ 作業療法として行うレクレーションの必要性を理解する。 ⑤ レクレーションの計画、実施、振り返りを体験して、自身で計画、実施ができるようになる。 ⑥ レクレーションを実施される側の視点で、他者の実施を評価できるようになる。		
授業計画 Course Content	１　レクレーション①：レクレーション概論（座学） ２　レクレーション②：レクレーション体験 ３～５　レクレーション③：レクレーション実施（１回目） ６～８　レクレーション④：レクレーション実施（２回目） ９　レクレーション⑤：総括、　木工①：オリエンテーション １０　木工②：採寸、切断 １１～１２　木工②：切断、組み立て、加工 １３～１４　木工③：塗装、仕上げ １５　木工④：装飾		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①木工（50%）：作品（25%）とレポート（包括的作業分析）（25%） ②レクレーション（50%）：計画書と発表内容（２回分）（25%）とレポート（報告書）（25%） ※木工の作品及びレポートが期限内に提出がない場合は不可とし、再試験として再提出を求める。 レクレーションの計画書・発表はグループごとに評価する。報告書の期限内の未提出は減点（－12.5%）とする。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし 2019 年度以前入学者対象教育課程における「基礎作業学実習Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験８年及び専任教員３年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	作業療法評価法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法の治療、援助の計画を立案する為には、対象者の状況を正しく把握することが重要です。本稿では、正しい情報を得られるように評価の基本的な視点を学びます。また、評価は随時見直し、検討する必要があります。評価の流れについても習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content	1　評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 2　ONE　BEST　SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 3　責任者は自分自身、評価の目的 4　評価の過程、評価のプロセス 5　各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） 6　各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） 7　各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） 8　まとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験　　②出席状況		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　作業療法評価学　第３版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし 2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価法総論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２３年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法士として対象者を評価する上で、必要な評価技法を学ぶ。 主としてバイタル・身体計測・反射。 ＜到達目標＞ １：バイタル・身体計測・反射において各々の項目の検査意義や定義、注意点など各々にかかわる項目を理解し述べることができる ２：バイタル・身体計測・反射において測定手技を身につけ、誘導・説明から検査開始、終了まで滞りなく適切に行うことができる		
授業計画 Course Content	１　作業療法評価技法総論：評価とは？評価技法とは？評価技法の位置づけなど ２　作業療法評価技法総論：評価結果の統合と解釈など捉え方 ３　バイタルサインとは：古典的および現代的バイタルサインとは。それらを測定する技術と意味。血液検査等の略語と標準数値について ４　バイタルサインとは：測定実技 ５　バイタルサイン測定の実技テスト（実技・口頭試問） ４　体表解剖：検査・測定を行う上で必要なランドマークを学び触察 ５　形態測定とは：概論（測定機器の取り扱い、注意点等） ６　形態測定とは：測定実技 ７　携帯測定実技テスト（実技・口頭試問） ８　反射とは：反射検査の意義・反射の種類 ９　反射と姿勢筋緊張 １０　反射の経路など生理学的基礎について １１　深部反射（伸張反射）：深部反射の持ちうる意味と測定技法 １２　病的反射：病的反射の種類と意味、原始反射や上位中枢からの抑制について １３　病的反射：測定技法 １４　表在反射：表在反射の種類と意味、測定技法 １５　反射の実技テスト（実技・口頭試問）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験。この授業は医療現場での実践を想定しており、受講態度、実習に不適切な風貌は減点対象とする。授業では計測、血圧測定、反射テストの３つについて実技試験を行うので、授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　作業療法評価学　第３版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた　改訂 18 版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技習得のため練習をしっかり行うこと。わからない場合は積極的に教員に質問して解決の糸口を見つけられるようにすること。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法Ⅰ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習実習	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	作業療法評価技法Ⅰに続き、作業療法士として評価する上で、必要な評価技法（検査測定の方法）を学ぶ。主には、関節可動域（ROM）測定と感覚検査。 到達目標： ① ROM 測定および感覚検査の定義・種類・適応・測定方法・測定における留意点を述べることができるようになる ② ROM 測定および感覚検査実施にあたり、被検者を誘導し、検査のオリエンテーションを行い、適切な測定を実施できる		
授業計画 Course Content	１　講座のオリエンテーション、ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識 ２　最終域感（生理的・病的）・姿勢の名称・ROM 測定のための道具 ３　ROM 測定の手順・測定の注意事項・測定の正確性に影響する因子 ４　ROM 測定実技練習 （肩関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、水平屈曲－伸展、） ５　ROM 測定実技練習 （肘関節：屈曲－伸展、手指：屈曲－伸展、外転－内転、前腕：回内-回外） ６　ROM 測定実技練習 （母指：掌側外転－橈側外転、手指：屈曲－伸展、外転－内転） ７　ROM 測定実技練習 （股関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、膝：屈曲－伸展） ８　ROM 測定実技練習 （足関節：底屈－背屈、外転－内転、内がえし－外がえし、肩甲骨：挙上－下制、屈曲－伸展） ９　ROM 実技練習 （体幹と頸部：屈曲－伸展、側屈、回旋） １０　ROM 実技テスト １１　感覚・知覚：定義、意義、表在感覚と深部感覚の違い、伝導路の違い １２　深部感覚の伝導路、防御知覚の伝導路、感覚テストの方法、オリエンテーションの仕方、痛覚・触覚のテストについて １３　感覚検査の実技練習 １４　感覚検査の実技練習 １５　感覚テスト		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、終講試験(100%)で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象。 ROM 測定、感覚テストの２つについて実技試験を行ので授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　作業療法評価学　第３版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた　改訂１８版」南山堂		
備 考 Other Comments	実技はしっかり練習すること。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。 2019 年度以前入学者対象教育課程における「作業療法評価技法Ⅱ」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験７年及び専任教員２年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	身体障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宮本　年也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	身体障害領域疾患別作業療法を理解するための基礎を学ぶ。 到達目標： ①身体障がい作業療法対象者の主な症状を理解し介入方法を理解する ②症状別の治療原理を中心に専門基礎科目、基礎科目とのつながりを理解する。		
授業計画 Course Content	１　身体障害領域作業療法の概要 、作業遂行モデル ２　治療の連続性、治療方法（ Bottom-up approach と Top-down approach） ３　〔作業遂行を行う運動のメカニズム〕物理学的な基礎知識と身体運動の基礎知識 ４　〔筋緊張の異常とその治療〕関連用語、基礎知識、筋緊張異常を起こす疾患 ５　筋緊張異常の発生機序　筋緊張の評価、痙性筋に対する治療手技と作業療法による介入 ６　〔不随意運動とその治療〕定義・分類　振戦症状の検討　不随意運動と障害部位との関係　評価、作業療法　　〔協調運動障害とその治療〕定義・評価のための基礎知識 ７　〔協調運動障害とその治療〕失調症の主な臨床症状、失調症の発生機序と原因別分類 ８　〔協調運動障害とその治療〕評価（運動検査・机上検査・機器による検査） ９　〔協調運動障害とその治療〕治療手技、治療の原則、視覚を利用した方法、固有感覚を利用した方法、巧緻性訓練 １０　〔筋力と筋持久力の維持・増強〕筋力・筋持久力低下の要因と原理、基礎知識 １１　〔筋力と筋持久力の維持・増強〕評価、治療手技、筋力・筋持久力訓練を実施する前に、筋力・筋持久力訓練の種類、特殊疾患の注意点、筋力訓練指導上の注意点 １２　〔筋力と筋持久力の維持・増強〕作業療法との関連 １３　〔関節可動域の拡大〕用語、関節可動域制限の原因と機序 １４　〔関節可動域の拡大〕評価・治療のための基礎知識、筋緊張と最終域感、関節包内運動、ROMex に使用される４つの運動、評価、治療手技、作業療法 １５　〔知覚再教育〕用語、評価・治療のための基礎知識、知覚再教育プログラムの前段階、手の知覚再教育プログラム、中枢神経障害と末梢神経障害の違いを中心に		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学 第３版」医学書院 その他、必要に応じて指示する		
備 考 Other Comments	2019 年度以前入学者対象教育課程における「身体障害作業療法総論」に相当する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１１年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋　舟	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近しい存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1. 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 ２．馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 ３．馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 ４．人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ ５．馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 ６．馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人のとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 ７．馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 ８．馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	８０時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	本実習の主目標は、作業療法の対象領域を広く見聞することである。医療機関での作業療法士の活躍は周知されつつあるが、一方で近年、住民のニーズによって拡大されてきた地域での作業療法士の取り組みについてはまだまだ知られていない。そうした領域で活躍する作業療法士の様々な仕事を見て学ぶことで、自身の作業療法士としての将来像を構築する一助にしてもらいたい。 本目標を達成するために、地域の作業療法関連の施設を複数かつ数日間、見学することを想定している。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験９年の経験及び専任教員２３年の経験を有する。 宮本教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員１１年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験１２年の経験及び専任教員５年の経験を有する。 杉村教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員３年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員２年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年の経験を有する。		

学　　則

第 一 章　総　　則

（目的）

第１条　　本校は、豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る医療関係の専門技術者を養成するとともに、外国の若者に対する日本語教育を通じ、日本の伝統や文化に対する理解を深め、相互の国際交流に寄与することを目的とする。

（自己点検、自己評価）

第１条　２　　本学は、その教育の一層の充実を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動等の状況について自ら点検・及び評価を行うものとする。

３　　前項の点検及び評価の実施に関し、必要な事項は別に定める。

（名称）

第２条　　本校は、阪奈中央リハビリテーション専門学校と称する。

（位置）

第３条　　本校は、大阪府四條畷市田原台６丁目２番１号および大阪府四條畷市田原台６丁目 ４番 43 号に設置する。

第 二 章　課程・学科・修業年限・定員並びに休業日

（課程・学科・修業年限等）

第４条　　本校の課程・学科・修業年限および定員は次のとおりとする。

<table>
<tr><th colspan="2">課　　程</th><th colspan="4">学　　科</th><th>修業年限</th><th>入学定員</th><th>総定員</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">医療専門課程</td><td colspan="4">理学療法学科</td><td>３年</td><td>40 名</td><td>120 名</td><td rowspan="2">全日制</td></tr>
<tr><td colspan="4">作業療法学科</td><td>３年</td><td>40 名</td><td>120 名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">文化教養課程</td><td rowspan="4">日本語科</td><td>進学２年コース</td><td>第一部</td><td>２クラス</td><td>２年</td><td>15 名</td><td rowspan="4">100 名</td><td>４月生</td></tr>
<tr><td>進学１年６か月コース</td><td>第一部</td><td>２クラス</td><td>１年６か月</td><td>20 名</td><td>10 月生</td></tr>
<tr><td>進学１年コース</td><td>第二部</td><td>１クラス</td><td>１年</td><td>15 名</td><td>４月生</td></tr>
<tr><td>一般１年コース</td><td>第二部</td><td>１クラス</td><td>１年</td><td>15 名</td><td>10 月生</td></tr>
</table>

（在学年限）

第５条　　学生は、前条の規定に定められた修業年限の２倍に相当する年数を超えて在学することはできない。但し、文化教養課程の在学年限は修業年限とする。

（学年・学期）

第６条　　本校の医療専門課程は４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。文化教養課程進学２年コースは４月１日に始まり、翌翌年３月 31 日に終わる。進学１年６か月コースは 10 月１日に始まり、翌翌年３月 31 日に終わる。進学１年コースは４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。一般１年コースは 10 月１日に始まり、翌年９月 30 日に終わる。

2　①医療専門課程

学年を分けて、前期・後期の二期とする。

前期　4月1日から9月30日まで

後期　10月1日から翌年3月31日まで

②文化教養課程

コースを分けて、第1学期から第4学期とする。

	4月生	10月生
第1学期	4月中旬から6月中旬まで	10月上旬から12月下旬まで
第2学期	6月下旬から9月中旬まで	1月上旬から3月中旬まで
第3学期	10月上旬から12月下旬まで	4月中旬から6月中旬まで
第4学期	1月上旬から3月中旬まで	6月下旬から9月中旬まで

（休業日）

第7条　本校の休業日は、次のとおりとする。

①土曜日・日曜日

②国民の祝日に関する法律に規定する休日

③学園記念日（創立記念日）

④季節休業日

医療専門課程

夏季休業日　5週間

冬季休業日　2週間

春季休業日　2週間

文化教養課程

夏季休業日　2週間

秋季休業日　3週間

冬季休業日　2週間

春季休業日　3週間

2　学校長は、必要により前項の休業日を変更することができる。

3　第1項に定めるもののほか臨時に休業を必要とする場合は、学校長がその都度定める。

第三章　入学・転入学・休学・復学・退学・除籍及び賞罰

（入学資格）

第8条　医療専門課程における入学資格について、本校医療専門課程に入学できるものは、次のとおりとする。

学校教育法第90条第1項の規定により大学に入学できる者

2　文化教養課程における入学資格について、原則として、在留資格留学により本校文化教養課程に入学できるものは、次のとおりとする。

①12年以上の学校教育もしくはそれに準ずる課程を修了している者又は修了する見込みのある者。

②年齢が18才以上の者。

③正当な手続によって日本国への入国を許可された者、又は許可される見込みのある者。

④信頼のおける財政保証兼身元保証人を有する者。
⑤日本語を150時間以上履修済もしくは申請 期間中に履修完了の予定があり、日本語能力試験N5程度以上の日本語能力がある者。

3　在留資格に問題がない者の本校への入学資格は、入国管理局で定められた前記の条件に限らず、入国管理局より在留資格に問題がないと認められた者は、校長は入学を許可することができる。

（入学の時期）

第9条　本校医療専門課程の入学時期は毎年4月とする。

2　本校文化教養課程の入学は年2回とし、その時期は、4月及び10月とする。

（転入学・転科）

第10条　医療専門課程において、他の理学療法士もしくは作業療法士養成施設等を1年以上履修した者で、本校に転入学を志望する者があるときは、学校長は、欠員のある場合に限り選考の上、相当年次に転入学を許可することができる。

2　前項の規定により転入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学校長が決定する。

3　転科は認めない。

4　文化教養課程において、本校に転入学を志望する者がある時には、学校長は欠員のある場合に限り選考の上、相当年次に転入学を許可することができる。

（入学の出願）

第11条　医療専門課程における入学の出願は次のとおりとする。
本校に入学又は転入学を志願する者は、本校の定める入学願書に必要事項を記載して、別に定める入学検定料及び書類を添えて指定の期日までに願い出なければならない。

2　文化教養課程における入学の出願は次のとおりとする。
①直接来校による出願（予約をしてから提出書類と旅券を持参すること）
②代理人来校による出願（予約をしてから代理人の方が、提出書類を持参すること。代理人として認められるのは原則、経費支弁者である。もし、その他の方が申請される場合は、志願者本人もしくは経費支弁者の委任状を添付のこと。）
③郵送による出願（提携事務所のない国で、日本に代理人がいない場合は、郵送による出願に応じる。この場合、Email＜info@hanna-reha.ac.jp＞で本校に連絡し、書類の事前審査を受けた後、書類を本校に送付すること。事前審査に合格した方の出願のみ受け付けることとする。）
④本校提携事務所での出願（現地に提携事務所がある場合は、現地での試験日・提携事務所を案内する。Email＜info@hanna-reha.ac.jp＞または電話で相談があれば、本校提携事務所で、面接をインターネットで行う場合がある。審査に合格した方の出願のみ受け付けることとする。）

（入学者の選考）

第12条　医療専門課程における入学者の選考は、推薦入学及び一般入学とする。
文化教養課程における入学者の選考は、一般入学とする。

2　推薦入学者の選考は、学科試験・面接試験及び出身学校長等の推薦状、調査書により、学校長の許可を経て入学者を決定する。

3　医療専門課程における一般入学者の選考は、学科試験・面接試験及び出身学

校長等の調査書により、学校長の許可を経て入学者を決定する。

4　文化教養課程における一般入学者の選考は、次のとおりとする。

①選考は出願書類の審査と本国での本人及び経費支弁者との面接試験によって行う。

②面接試験は、本校の海外提携事務所またはインターネットにて行う。

③本校が適当と認めた時には、出願書類の審査で選考する場合がある。

（入学手続き及び入学許可）

第 13 条　第 10 条及び 12 条の選考により合格した者は、所定の書類に医療専門課程においては「別表 3」、文化教養課程においては「別表 4」に定める入学金等を添えて指定期日までに手続きをしなければならない。

2　学校長は、前項の手続きを完了した者に対して入学又は転入学を許可する。

（休学・復学）

第 14　条　医療専門課程における休学・復学については次のとおりとする。

①病気その他やむを得ない理由で 3 ヶ月以上休学しようとする者は、保証人が連署した休学願いに、診断書等必要な書類を添えて学校長に提出し、その許可を得てその学期又は、学年に限り休学することができる。

②学校長は、病気その他の理由により就学することが不適当と認められる者に対し、休学を命ずることができる。

③休学期間は、引き続き 1 年を超えることはできない。ただし、学校長が特別の理由があると認めるときは、さらに1年以内の期間に限って休学を許可することがある。

④休学期間は、在学期間に算入しない。

⑤休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学の許可を願い出ることができる。

⑥復学しようとする者は、保証人連署のうえ復学願を提出し、学校長の承認を受けなければならない。

2　文化教養課程における休学・復学については次のとおりとする。

①病気その他やむを得ない理由で継続して 14 日以上休学しようとする者は、経費支弁者が連署した休学願いに、診断書等必要な書類を添えて学校長に提出し、その許可を得てその学期又は、学年に限り休学することができる。

②学校長は、病気その他の理由により就学することが不適当と認められる者に対し、休学を命ずることができる。

③休学期間は、引き続き 6 カ月を超えることはできない。ただし、学校長が特別の理由があると認めるときはこの限りでない。

④継続して 3 ヶ月以上休学しようとする者は、休学期間中は、日本国内に滞在してはならない。但し、学校長が特に認めた場合はこの限りでない。

⑤休学期間は、在学期間に算入しない。

⑥休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学の許可を願い出ることができる。

⑦復学しようとする者は、経費支弁者連署のうえ復学願を提出し、学校長の承認を受けなければならない。

（退学）

第 15 条　医療専門課程における退学については次のとおりとする。

退学しようとする者は、理由を記し、保証人連署のうえ退学願いを学校長に提出し 許可を受けなければならない。

2　文化教養課程における退学については次のとおりとする。

退学しようとする者は、理由を記し、経費支弁者連署のうえ退学願いを学校長に提出し 許可を受けなければならない。

（転学・編入学）

第 16 条　医療専門課程における転学・編入学については、本校学生が、他の理学療法士養成施設及び作業療法士養成施設等に転学・編入学を希望するときは、理由を記した書類を添えて学校長に願い出て許可を受けなければならない。

（除籍）

第 17 条　学校長は、次の各号のいずれかに該当する者を運営会議の議を経て除籍することができる。

①死亡の届け出のあった者

②行方不明の届け出のあった者

③授業料を納期までに納入せず、かつ督促しても納入しない者

④日本の在留資格を失った者

（表彰）

第 18 条　学校長は、運営会議の議を経て、表彰に値する行為を行った者を表彰することがある。

（懲戒）

第 19 条　学校長は、本校の規則又は学生の本分に反する行為があった者に対して運営会議の議を経て懲戒することがある。

2　懲戒の種類は、戒告、停学及び退学とする。

3　停学が引き続き 3 ヶ月以上にわたるときは、その期間は在学期間に算入しない。

4　退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

①正当な理由がなく欠席が長期にわたる者

②成業の見込みがないと認められる者

③学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 四 章　教 育 課 程

（授業科目及び単位数）

第 20 条　医療専門課程における授業科目は、基礎分野、専門基礎分野及び専門分野に分け全科目履修しなければならない。

2　医療専門課程における授業科目の単位数および時間数は次のとおりとする。

理学療法学科 ： 別表 1 のとおり

作業療法学科 ： 別表 2 のとおり

3　文化教養課程における履修科目及び授業時間数は次のとおりとする。

日本語科：別表 5 のとおり

（単位の計算方法）

第 21 条　医療専門課程における授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成し、次の基準により計算するものとする。

2　講義、演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で定める授業をもって 1 単位とする。

3　実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で定める授業をもって 1 単位とする。

4　臨床実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

（既修得単位の認定）

第 22 条　医療専門課程における大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。

（授業科目の評価及び単位の認定）

第 23 条　医療専門課程における授業科目の評価及び単位の認定は次のとおりとする。

①授業科目の評価は、試験・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。

②授業科目については、随時試験を行い履修の認定を行う。

③病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者又は不合格の者については、追試験又は再試験及び再実習を行うことができる。

④出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない者は、科目についての評価を受ける資格を失う。ただし、臨床実習については、規定時間の履修を原則とする。

⑤臨床実習の評価は、実習内容・実習記録等によって行う。

⑥臨床実習の履修の認定は、実習終了時に行う。

⑦評価は100点を満点とし60点以上を合格とする。合格した者には単位の認定を行う。

2　文化教養課程における授業科目の評価及び単位の認定は次のとおりとする。

学習の評価は、各学期末に行われる期末試験の成績、学期毎の出席状況、授業態度を総合的に判断して評価され、各学期末の個人の成績表に記録され手渡される。進級の可否は学期開始日に発表される。

（始業時間及び終業時間）

第 24 条　本校の医療専門課程における始業時間及び終業時間は、次のとおりとする。

①医療専門課程　始業時間：9 時 00 分／終業時間：16 時 10 分

②臨床実習については、別に定める。

2　文化教養課程における始業時間及び終業時間は、次のとおりとする。

	始業時間～終業時間		始業時間～終業時間
第一部	09：00～09：45	第二部	13：15～14：00
	09：55～10：40		14：10～14：55
	10：50～11：35		15：05～15：50
	11：45～12：30		16：00～16：45

第 五 章　卒　業　等

（卒業の認定）

第 25 条　医療専門課程における卒業の認定は次のとおりとする。

①学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。

②卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士（医療専門課程）の称号を付与する。

③学科長は、卒業を認定したものに対し本校所定の卒業証書を授与する。

④本校を卒業した者には、次の国家試験受験資格が与えられる。

理学療法学科：理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科：作業療法士国家試験受験資格

2　文化教養課程における卒業の認定は次のとおりとする。

①学校長は、第６条で定められた各学期について第２３条に定める学習の評価を行い、総合して一定の評価を受けた者に対して当該コースの修了を認定する。
②学校長は、所定の課程を修了した者に対して、卒業証書を授与し、本コースが定める一定の履修を終えた者に対して、受講証を発行する。

第 六 章　健 康 管 理

（健康管理）

第 26 条　学校長は、学生に対して 1 年に 1 回以上の健康診断を実施する。

第 七 章　入学金及び授業料等

（納付金）

第 27 条　医療専門課程における入学金及び授業料等については、「別表 3」のとおりとする。

2　文化教養課程における入学金及び授業料等については、「別表 4」のとおりとする。

（納入の時期）

第 28 条　入学試験に合格した者は、第 13 条の手続きにあたって、入学金・授業料・施設設備維持費・実験実習費を納入しなければならない。

2　医療専門課程における納入の時期は「別表 3」のとおりとする。
授業料・施設設備維持費・実験実習費については、これを前期分、後期分に分け、次の期日までの年 2 回に分納することができる。
前期分 ： 毎年 3 月 31 日まで
後期分 ： 毎年 9 月 30 日まで
いったん納入した入学金及び授業料等は、原則として返還しない。

3　文化教養課程における納入の時期は「別表 4」のとおりとする。
授業料については、これを前期分、後期分に分け、次の期日までの年２回に分納することができる。
いったん納入した入学金及び授業料等は、原則として返還しない。
ただし、次の各号に該当する場合はこの限りではない。

(1) 入学する年度以前（4 月入学の場合は 3 月 31 日、10 月入学の場合は 9 月 30 日）に入学を辞退した場合において、既に納入している授業料、その他納付金
(2) 損害賠償額の予定または違約金の定めの性質を有する授業料等の平均的な損害を超えた部分
(3) 前項の手続きをする場合には、次の必要書類のうち、必要とされるものを本学に提出または提示するものとする。
① 納付金の領収書
② 事情説明会
③ 未使用の「在留資格認定証明書」
④ パスポート
⑤ その他、本学が必要と判断し、提出又は提示を求めたもの
注：必要書類がそろっていない場合や事情説明書の内容が十分でない場合には、納付金を返還できないこともある。

第 八 章　学生寮の管理運営

（入寮及び退寮）

第 29 条　学校長は、学生寮に入寮を希望する女子学生について選考のうえ許可する。

2　前項の規定により学生寮に入寮を許可された学生（以下「寮生」という。）は、

学生の身分を失ったときは、速やかに退寮しなければならない。

3　学校長は、寮生に学生寮の共同生活を著しく乱す行為があり、又は存寮が不適当であると認める場合は、当該寄宿生に退寮を命ずることができる。

（学生寮の管理運営）

第 30 条　前条に定めるもののほか、学生寮の管理運営に関する規則は、学校長が定める。

第 九 章　教 職 員 組 織

（教職員）

第 31 条　本校に次の教職員をおく。

学校長	1 名
医療専門課程	
学科長	2 名
専任教員	10 名以上
講師	20 名以上
事務職員	2 名以上
校医	1 名
文化教養課程	
主任教員	1 名
専任教員	2 名以上
講師	2 名以上
事務職員	2 名以上

2　教職員の職務は、別に定める組織及び業務基準による。

第 十 章　学 校 運 営

（学校運営）

第 32 条　本校の運営のため運営会議の他、各種会議を設ける。

2　運営会議の他、各種会議の規定は別に定める。

第 十一 章　雑　　則

（細則）

第 33 条　本学則施行に際し必要な細則は、別に定める。

（学則の改廃）

第 34 条　本学則の改廃は、学校長が発議し、評議員会の議決を得て理事会が行う。

付　　則

1　本学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

2　本改正学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

3　本改正学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

4　本改正学則は、平成 16 年 3 月 1 日から施行する。

5　本改正学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

6　本改正学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

7　本改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

8　本改正学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

9　本改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

10　　本改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
11　　本改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
12　　本改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
13　　本改正学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
14　　本改正学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
15　　本改正学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
16　　本改正学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
17　　本改正学則は、令和　2 年 4 月 1 日から施行する。

［別表１－１］

理学療法学科　教育課程　　（２０１９年度以前入学者対象）

科目			実施時間		単位		1年次				2年次				3年次				卒業必要単位数
			講義	演習実習	講義	演習実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期		
							時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 (14 単位)	教育学	15		1		15	1											14 単位
		心理学	30		2		30	2											
		物理学	15		1		15	1											
		情報処理学	15		1		15	1											
		統計学	15		1		15	1											
		人間工学	30		2		30	2											
		医学英語	30		2		30	2											
		保健体育		30		1	30	1											
		公衆衛生学	15		1		15	1											
		コミュニケーション学	30		2		30	2											
	小　計		195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 (12 単位)	解剖学Ⅰ	45		1		45	1											28 単位
		解剖学Ⅱ	45		1				45	1									
		解剖学Ⅲ	30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ	30		1				30	1									
		生理学Ⅰ	30		1		30	1											
		生理学Ⅱ	30		1		30	1											
		生理学Ⅲ	30		1				30	1									
		生理学Ⅳ	30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ	45		1		45	1											
		基礎運動学Ⅱ	60		2				60	2									
		人間発達学	30		1						30	1							
	小　計		405	0	12	0	180	5	195	6	30	1	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 (12 単位)	病理学	30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	30		1						30	1							
		神経内科学Ⅱ	30		1								30	1					
		外科学	15		1								15	1					
		脳神経外科学	15		1								15	1					
		整形外科学Ⅰ	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	30		1								30	1					
		精神医学	30		1						30	1							
		小児科学	15		1						15	1							
		臨床心理学	15		1						15	1							
	小　計		300	0	12	0	0	0	30	1	150	6	120	5	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 (4 単位)	リハビリテーションⅠ	30		1		30	1											
		リハビリテーションⅡ	15		1				15	1									
		リハビリテーションⅢ	15		1						15	1							
		社会福祉概論	15		1				15	1									
	小　計		75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎理学療法学 (10 単位)	理学療法概論	30		1		30	1											61 単位
		臨床運動学Ⅰ		30		1					30	1							
		臨床運動学Ⅱ		30		1					30	1							
		動作分析学		30		1							30	1					
		理学療法障害学	30		1				30	1									
		理学療法研究概論	15		1										15	1			
		実習演習		60		2									30	1	30	1	
		基礎理学療法学		90		2									45	1	45	1	
	小　計		75	240	3	7	30	1	30	1	60	2	30	1	90	3	75	2	
	理学療法評価学 (9 単位)	理学療法評価学Ⅰ	30	45	1	1	75	2											
		理学療法評価学Ⅱ	30	45	1	1			75	2									
		理学療法評価学Ⅲ	30	45	1	1					75	2							
		理学療法評価演習Ⅰ		30		1			30	1									
		理学療法評価演習ⅡA		45		1					45	1							
		理学療法評価演習ⅡB		45		1							45	1					
	小　計		90	255	3	6	75	2	105	3	120	3	45	1	0	0	0	0	
	理学療法治療学 (20 単位)	運動療法学	15	30	1	1			45	2									
		物理療法学Ⅰ	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	30	30	1	1			60	2									
		義肢装具学Ⅰ	45		2						45	2							
		義肢装具学Ⅱ	15		1								15	1					
		日常生活動作学Ⅰ	30		1				30	1									
		日常生活動作学Ⅱ	30		1								30	1					
		理学療法治療各論ⅠA	30		1						30	1							
		理学療法治療各論ⅠB		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅱ	15	30	1	1							45	2					
		理学療法治療各論Ⅲ		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅳ		30		1							30	1					
		理学療法治療各論Ⅴ		30		1					30	1							
		理学療法治療各論ⅥA		30		1							30	1					
		理学療法治療各論ⅥB	30		1								30	1					
		理学療法治療各論Ⅶ	15		1								15	1					
	小　計		285	240	12	8	30	1	135	5	105	4	255	10	0	0	0	0	
	地域理学療法学 (4 単位)	生活環境論	15		1								15	1					
		リハビリテーション機器	15		1										15	1			
		地域理学療法学	15		1										15	1			
		地域サービス技術論	15		1										15	1			
	小　計		60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	15	1	45	3	0	0	
	臨床実習 (18 単位)	観察実習		45		1			45	1									
		検査測定実習		45		1					45	1							
		評価実習		180		4							180	4					
		治療実習Ⅰ		300		6									300	6			
		治療実習Ⅱ		300		6											300	6	
	小　計		0	870	0	18	0	0	45	1	45	1	180	4	300	6	300	6	
合　計			1485	1635	63	40	570	24	570	19	525	18	645	22	435	12	375	8	103 単位

［別表１－２］

理学療法学科　教育課程　　（２０２０年度以降入学者対象）

科目			実施時間 講義	実施時間 演習実習	単位 講義	単位 演習実習	1年次 前期 時間	1年次 前期 単位	1年次 後期 時間	1年次 後期 単位	2年次 前期 時間	2年次 前期 単位	2年次 後期 時間	2年次 後期 単位	3年次 前期 時間	3年次 前期 単位	3年次 後期 時間	3年次 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解 （14単位）	教育学	15		1		15	1											14単位
		心理学	30		2		30	2											
		物理学	15		1		15	1											
		情報処理学	15		1		15	1											
		統計学	15		1				15	1									
		人間工学	30		2		30	2											
		外国語Ⅰ(医学英語)※選択必修	30		2		30	2											
		外国語Ⅱ(医学日本語)※選択必修	30		2		30	2											
		保健体育		30		1	30	1											
		公衆衛生学	15		1		15	1											
		コミュニケーション学	30		2		30	2											
	小　計		195	30	13	1	210	13	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 （15単位）	解剖学Ⅰ	45		2		45	2											33単位
		解剖学Ⅱ	45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ	30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ	30		1				30	1									
		生理学Ⅰ	30		1		30	1											
		生理学Ⅱ	30		1		30	1											
		生理学Ⅲ	30		1				30	1									
		生理学Ⅳ	30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅰ	15		1		15	1											
		基礎運動学Ⅱ	30		1		30	1											
		基礎運動学Ⅲ	30		1				30	1									
		基礎運動学Ⅳ	30		1				30	1									
		人間発達学	30		1						30	1							
	小　計		405	0	15	0	180	7	195	7	30	1	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 （14単位）	病理学	30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	30		1								30	1					
		臨床神経学Ⅰ	30		1						30	1							
		臨床神経学Ⅱ	30		1								30	1					
		整形外科学Ⅰ	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	30		1								30	1					
		外科・救急医学	15		1								15	1					
		精神医学	15		1										15	1			
		小児科学	15		1						15	1							
		臨床薬学	15		1										15	1			
		臨床栄養学	15		1												15	1	
		画像診断学	15		1										15	1			
		臨床心理学	15		1										15	1			
	小　計		315	0	14	0	0	0	30	1	105	4	105	4	60	4	15	1	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 （4単位）	リハビリテーションⅠ	30		1		30	1											
		リハビリテーションⅡ	30		1				30	1									
		リハビリテーションⅢ	15		1						15	1							
		社会福祉概論	15		1				15	1									
	小　計		90	0	4	0	30	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎理学療法学 （9単位）	理学療法概論Ⅰ	15		1		15	1											72単位
		理学療法概論Ⅱ	15		1				15	1									
		臨床運動学Ⅰ	30		1						30	1							
		臨床運動学Ⅱ	30		1						30	1							
		動作分析学	30		1								30	1					
		理学療法障害学	30		1				30	1									
		理学療法研究概論	15		1										15	1			
		基礎理学療法学Ⅰ	30		1										30	1			
		基礎理学療法学Ⅱ	30		1												30	1	
	小　計		225	0	9	0	15	1	45	2	60	2	30	1	45	2	30	1	
	理学療法評価学 （12単位）	理学療法評価学Ⅰ	30	45	1	1	75	2											
		理学療法評価学Ⅱ	30	45	1	1			75	2									
		理学療法評価学Ⅲ	30	45	1	1					75	2							
		理学療法評価演習Ⅰ		45		2			45	2									
		理学療法評価演習ⅡA		45		2					45	2							
		理学療法評価演習ⅡB		45		2							45	2					
	小　計		90	270	3	9	75	2	120	4	120	4	45	2	0	0	0	0	
	理学療法管理学 （2単位）	理学療法管理学　Ⅰ	15		1										15	1			
		理学療法管理学　Ⅱ	15		1												15	1	
	小　計		30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	
	理学療法治療学 （24単位）	運動療法学	15	30	1	1			45	2									
		物理療法学Ⅰ	30		1		30	1											
		物理療法学Ⅱ	30		1				30	1									
		義肢装具学Ⅰ	30		1						30	1							
		義肢装具学Ⅱ	15		1								15	1					
		日常生活動作学Ⅰ		30		1	30	1											
		日常生活動作学Ⅱ		30		1							30	1					
		神経理学療法学	15	30	1	1					45	2							
		小児理学療法学		30		1							30	1					
		脊髄損傷理学療法学		30		1							30	1					
		運動器理学療法学	15	30	1	1							45	2					
		神経筋難病理学療法学		30		1					30	1							
		呼吸理学療法		30		1					30	1							
		心血管理学療法学	15		1								15	1					
		糖尿病理学療法学	15		1								15	1					
		スポーツ理学療法学		30		1							30	1					
		がんリハビリテーション	15		1										15	1			
		理学療法治療演習Ⅰ		30		1									30	1			
		理学療法治療演習Ⅱ		30		1											30	1	
		動物介在療法学Ⅰ※選択	⑮		①				⑮	①									
		動物介在療法学Ⅱ※選択必修	15		1								15	1					
		パーソナルトレーニング論※選択必修	15		1								15	1					
		総合理学療法学	30		1												30	1	
	小　計（選択科目除く）		240	360	12	12	60	2	75	3	135	5	225	10	45	2	60	2	
	地域理学療法学 （3単位）	生活環境論	15		1								15	1					
		予防理学療法	15		1												15	1	
		地域理学療法学	15		1										15	1			
	小　計		45	0	3	0	0	0	0	0	0	0	15	1	15	1	15	1	
	臨床実習 （22単位）	観察実習(医療)		40		1			40	1									
		観察実習(訪問・通所)		40		1			40	1									
		検査測定実習		80		2					80	2							
		評価実習		160		4							160	4					
		治療実習Ⅰ		280		7									280	7			
		治療実習Ⅱ		280		7											280	7	
	小　計		0	880	0	22	0	0	80	2	80	2	160	4	280	7	280	7	
合　計			1635	1540	75	44	570	26	605	22	545	19	580	22	460	17	415	13	119単位

「別表２－１」

作業療法学科　教育課程　　（２０１９年度以前入学者対象）

授業科目			授業時間数		単位数		1年				2年				3年				卒業必要単位数
			講義	演習実習	講義	演習実習	前期		後期		前期		後期		前期		後期		
							時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 (14 単位)	物理学	15		1		15	1											14 単位
		統計学	15		1		15	1											
		情報処理学	15		1		15	1											
		保健体育		30		1	30	1											
		英語	30		2		30	2											
		教育学	15		1		15	1											
		心理学	30		2		30	2											
		文学	30		2		30	2											
		公衆衛生学	15		1		15	1											
		人間工学	30		2		30	2											
	小　計		195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能と心身の発達 (17 単位)	解剖学Ⅰ	45		2		45	2											33 単位
		解剖学Ⅱ	45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ	30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ	30		1				30	1									
		生理学Ⅰ	30		1		30	1											
		生理学Ⅱ	30		1				30	1									
		生理学Ⅲ	30		1		30	1											
		生理学Ⅳ	30		1				30	1									
		運動学Ⅰ（上肢）	30		1		30	1											
		運動学Ⅱ（上肢）	30		1				30	1									
		運動学Ⅲ（体幹・下肢）	30		1		30	1											
		運動学Ⅳ（体幹・下肢）	30		1				30	1									
		運動学実習		60		2					60	2							
		人間発達学	30		1				30	1									
	小　計		420	60	15	2	195	7	225	8	60	2	0	0	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 (12 単位)	病理学	30		1				30	1									
		内科学Ⅰ	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	30		1				30	1									
		神経内科学Ⅱ	30		1						30	1							
		精神医学Ⅰ	30		1				30	1									
		精神医学Ⅱ	30		1						30	1							
		臨床心理学	30		1				30	1									
		リハビリテーション医学	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅰ	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	30		1								30	1					
		小児科学	15		1						15	1							
	小　計		345	0	12	0	0	0	120	4	165	6	60	2	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 (4 単位)	リハビリテーション概論	30		1		30	1											
		社会福祉学	15		1				15	1									
		理学療法概論	15		1				15	1									
		言語聴覚療法概論	15		1						15	1							
	小　計		75	0	4	0	30	1	30	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎作業療法学 (7 単位)	作業療法概論	30		1		30	1											61 単位
		作業療法管理運営	15		1										15	1			
		作業分析学Ⅰ	15		1				15	1									
		作業分析学Ⅱ	15		1						15	1							
		基礎作業実習Ⅰ		30		1	30	1											
		基礎作業実習Ⅱ		30		1			30	1									
		作業療法研究法	15		1										15	1			
	小　計		90	60	5	2	60	2	45	2	15	1	0	0	30	2	0	0	
	作業療法評価学 (7 単位)	作業療法評価法総論	15		1		15	1											
		作業療法評価法総論演習		30		1							30	1					
		作業療法評価技法Ⅰ		30		1	30	1											
		作業療法評価技法Ⅱ		30		1			30	1									
		作業療法評価技法Ⅲ		60		2					60	2							
		作業療法評価技法Ⅳ		30		1							30	1					
	小　計		15	180	1	6	45	2	30	1	60	2	60	2	0	0	0	0	
	作業治療学 (20 単位)	身体障害作業療法総論	30		1				30	1									
		精神障害作業療法総論	30		1						30	1							
		老年障害作業療法総論	30		1						30	1							
		発達障害作業療法総論	30		1						30	1							
		日常生活活動学	30		1						30	1							
		義肢学		30		1					30	1							
		装具学		45		1							45	1					
		福祉用具支援論Ⅰ	30		1						30	1							
		福祉用具支援論Ⅱ	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	45		2						45	2							
		疾患別作業療法Ⅵ（整形疾患）	45		2								45	2					
		疾患別作業療法Ⅶ（難病）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅸ（脊椎損傷）	30		1								30	1					
	小　計		465	75	18	2	0	0	30	1	255	9	255	10	0	0	0	0	
	地域作業療法学 (4 単位)	地域作業療法学Ⅰ	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅱ	15		1										15	1			
		居住環境整備論	15		1										15	1			
		社会生活適応論	15		1										15	1			
	小　計		60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	
	臨床実習 (23 単位)	臨床実習Ⅰ		45		1					45	1							
		臨床実習Ⅱ		45		1					45	1							
		臨床実習Ⅲ		135		3							135	3					
		総合臨床実習Ⅰ		405		9									405	9			
		総合臨床実習Ⅱ		405		9											405	9	
	小　計		0	1035	0	23	0	0	0	0	90	2	135	3	405	9	405	9	
合　計			1665	1440	72	36	555	26	480	18	660	23	510	17	495	15	405	9	108 単位

［別表２－２］

作業療法学科　教育課程　　（２０２０年度以降入学者対象）

授業科目			授業時間数 講義	授業時間数 演習実習	単位数 講義	単位数 演習実習	1年 前期 時間	1年 前期 単位	1年 後期 時間	1年 後期 単位	2年 前期 時間	2年 前期 単位	2年 後期 時間	2年 後期 単位	3年 前期 時間	3年 前期 単位	3年 後期 時間	3年 後期 単位	卒業必要単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解 （14 単位）	物理学	15		1		15	1											14 単位
		統計学	15		1		15	1											
		情報処理学	15		1		15	1											
		保健体育		30		1	30	1											
		外国語Ⅰ（医学英語）※選択必須	30		2		30	2											
		外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必須	30		2		30	2											
		教育学	15		1		15	1											
		コミュニケーション学	30		2		30	2											
		心理学	30		2		30	2											
		公衆衛生学	15		1		15	1											
		人間工学	30		2		30	2											
		小　計	195	30	13	1	225	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能と心身の発達 （18 単位）	専門基礎概論	30		1		30	1											36 単位
		解剖学Ⅰ	45		2		45	2											
		解剖学Ⅱ	45		2				45	2									
		解剖学Ⅲ	30		1		30	1											
		解剖学Ⅳ	30		1				30	1									
		生理学Ⅰ	30		1		30	1											
		生理学Ⅱ	30		1				30	1									
		生理学Ⅲ	30		1		30	1											
		運動学Ⅰ（上肢）	30		1		30	1											
		運動学Ⅱ（上肢）	30		1				30	1									
		運動学Ⅲ（下肢・体幹）	30		1		30	1											
		運動学Ⅳ（下肢・体幹）	30		1				30	1									
		運動学実習		60		2							60	2					
		人間発達学Ⅰ（運動）	15		1				15	1									
		人間発達学Ⅱ（心理）	15		1				15	1									
		小　計	420	60	16	2	225	8	195	8	0	0	60	2	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 （14 単位）	病理学	30		1				30	1									
		栄養・薬理学	15		1						15	1							
		臨床検査学	15		1								15	1					
		救急医療概論（喀痰吸引を含む）	15		1								15	1					
		内科学Ⅰ	30		1						30	1							
		内科学Ⅱ	30		1								30	1					
		神経内科学Ⅰ	30		1				30	1									
		神経内科学Ⅱ	30		1						30	1							
		精神医学Ⅰ	30		1				30	1									
		精神医学Ⅱ	30		1						30	1							
		臨床心理学	30		1				30	1									
		整形外科学Ⅰ	30		1						30	1							
		整形外科学Ⅱ	30		1								30	1					
		小児科学	15		1						15	1							
		小　計	360	0	14	0	0	0	120	4	150	6	90	4	0	0	0	0	
	保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理念 （4 単位）	リハビリテーション概論	15		1		15	1											
		社会福祉学	15		1				15	1									
		多職種連携学	30		1				30	1									
		リハビリテーション制度論	15		1						15	1							
		小　計	75	0	4	0	15	1	45	2	15	1	0	0	0	0	0	0	
専門分野	基礎作業療法学 （5 単位）	作業療法概論	30		1		30	1											70 単位
		作業療法研究法	15		1										15	1			
		作業分析学	15		1				15	1									
		基礎作業実習Ⅰ		30		1	30	1											
		基礎作業実習Ⅱ		30		1			30	1									
		小　計	60	60	3	2	60	2	45	2	0	0	0	0	15	1	0	0	
	作業療法管理学 （2 単位）	作業療法管理学Ⅰ	15		1										15	1			
		作業療法管理学Ⅱ	15		1										15	1			
		小　計	30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	0	0	
	作業療法評価学 （9 単位）	作業療法評価法総論	15		1		15	1											
		生活行為向上マネージメント		15	1								15	1					
		作業療法評価法演習		45	2								45	2					
		作業療法評価技法Ⅰ		30		1	30	1											
		作業療法評価技法Ⅱ		30		1			30	1									
		作業療法評価技法Ⅲ		60		2					60	2							
		作業療法評価技法Ⅳ		30		1							30	1					
		小　計	15	210	4	5	45	2	30	1	60	2	90	4	0	0	0	0	
	作業療法治療学 （23 単位）	身体障害作業療法総論	30		1				30	1									
		精神障害作業療法総論	30		1						30	1							
		老年期障害作業療法総論	30		1						30	1							
		発達障害作業療法総論	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅰ（発達疾患Ⅰ）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅱ（発達疾患Ⅱ）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅲ（精神疾患）	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅳ（老年期疾患）	30		1								30	1					
		疾患別作業療法Ⅴ（脳血管疾患）	45		2						45	2							
		疾患別作業療法Ⅵ（整形疾患）	45		2								45	2					
		疾患別作業療法Ⅶ（難病）	15		1								15	1					
		疾患別作業療法Ⅷ（高次脳機能障害）	30		1						30	1							
		疾患別作業療法Ⅸ（脊髄損傷）	30		1								30	1					
		動物介在療法Ⅰ	15		1				15	1									
		動物介在療法Ⅱ	15		1								15	1					
		日常生活活動学	30		1						30	1							
		義肢学	15		1								15	1					
		装具学		45		1					45	1							
		福祉用具支援技術論	45		2						45	2							
		福祉用具支援技術論演習		15		1					15	1							
		小　計	495	60	21	2	0	0	45	2	300	11	210	10	0	0	0	0	
	地域作業療法学 （4 単位）	地域作業療法学Ⅰ	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅱ	15		1										15	1			
		地域作業療法学Ⅲ	15		1										15	1			
		居住環境整備論	15		1										15	1			
		小　計	60	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	4	0	0	
	臨床実習 （25 単位）	臨床見学実習Ⅰ		40		1					40	1							
		臨床見学実習Ⅱ		40		1					40	1							
		地域臨床見学実習		80		2			80	2									
		臨床評価実習		120		3							120	3					
		総合臨床実習Ⅰ		360		9									360	9			
		総合臨床実習Ⅱ		360		9											360	9	
		小　計	0	1000	0	25	0	0	80	2	80	2	120	3	360	9	360	9	
	総合実習 （2 単位）	作業療法総合学習Ⅰ	15		1												15	1	
		作業療法総合学習Ⅱ	15		1												15	1	
		小　計	30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	
合　計			1740	1420	83	37	570	27	560	21	605	22	570	23	465	16	390	11	120 単位

［別表３］

入学金及び授業料等

（医療専門課程）

区　　分	金　　額	納　　期
入　学　金	300,000 円	入学手続き時に納入
授　業　料 （年　額）	760,000 円 ＊Ⅰ期 380,000 円	前期分：毎年 3 月 31 日までに納入 後期分：毎年 9 月 30 日までに納入
施設設備維持費 （年　額）	1 年次～3 年次 240,000 円 ＊Ⅰ期 120,000 円	前期分：毎年 3 月 31 日までに納入 後期分：毎年 9 月 30 日までに納入
実験実習費 （年　額）	300,000 円 ＊Ⅰ期 150,000 円	前期分：毎年 3 月 31 日までに納入 後期分：毎年 9 月 30 日までに納入

注　　ただし、入学時に関しての授業料・施設設備維持費・実験実習費の前期分は、 入学手続き時の指定期日に納入のこと。

［別表４］

入学金及び授業料等

（文化教養専門課程）

	項目	金額	支払時期
4 月入学 (進学 2 年コース)	入学金 1 年時授業料（半期分） 諸費用（1 年分）	40,000 円 325,000 円 98,000 円	3 月下旬 ※査証発給後
	1 年時授業料（半期分）	325,000 円	7 月中旬
	2 年時授業料（半期分） 諸費用（1 年分）	325,000 円 98,000 円	2 月初旬
	2 年時授業料（半期分）	325,000 円	7 月中旬
10 月入学 (進学 1 年 6 か月コース)	項目	金額	支払時期
	入学金 １年時授業料（半期分） 諸費用（１年分）	40,000 円 325,000 円 88,000 円	9 月下旬 ※査証発給後
	２年時授業料（半期分） 諸費用（１年分）	325,000 円 98,000 円	2 月初旬
	２年時授業料（半期分）	325,000 円	7 月中旬
4 月入学 (進学 1 年コース)	項目	金額	支払時期
	入学金 1 年時授業料（半期分） 諸費用（1 年分）	40,000 円 325,000 円 98,000 円	3 月下旬 ※査証発給後
	1 年時授業料（半期分）	325,000 円	7 月中旬
10 月入学 (一般 1 年コース)	項目	金額	支払時期
	入学金 １年時授業料（半期分） 諸費用（１年分）	40,000 円 325,000 円 98,000 円	9 月下旬 ※査証発給後
	1 年時授業料（半期分）	325,000 円	2 月中旬

［別表５］

日本語科　履修科目及び授業時間数

履修科目					授業週数	1週当たり授業時間数	授業時間数合計	授業内容（概要）
	進学2年コース	進学1年6か月コース	進学1年コース	一般1年コース				
初級Ⅰ	入学年度4月～	入学年度10月～			10週	20時間（5日）	200時間	N5 レベルの初級の基礎的な文法などの習得。ひらがな、カタカナの読み書き、基礎的な漢字の習得。数、時間、単語の正確な書き取り。身の回りの単純な基本的会話ができる。
初級Ⅱ	入学年度7月～	入学年度1月～			10週	20時間（5日）	200時間	N4 レベルの初級の基礎的な文法などの習得。日常会話であれば支障なくでき、加えて意見や推論を述べることができる。また自身のことを伝える文章が書ける。
初中級Ⅰ	入学年度10月～	入学翌年度4月～		入学年度10月～	10週	20時間（5日）	200時間	N3 レベルの文法などの習得。日常的な場面での会話ができ、まとまりのある文章を理解し、日本人とうまくコミュニケーションをとることができる。
初中級Ⅱ	入学年度1月～	入学翌年度7月～		入学年度1月～	10週	20時間（5日）	200時間	N3 レベルの文法、文章などの習得。日常的な場面や身近な社会問題について、会話ができる。
中級Ⅰ	入学翌年度4月～	入学翌年度10月～	入学年度4月～	入学翌年度4月～	10週	20時間（5日）	200時間	N2 レベルの文法などの習得。関心のある話題について長文の内容把握と正確な情報の読み取り。論理的な文章が書ける。ナチュラルスピードで会話ができる。
中級Ⅱ	入学翌年度7月～	入学翌年度1月～	入学年度7月～	入学翌年度7月～	10週	20時間（5日）	200時間	N2 レベルの文法などの習得。長文の内容把握と正確な情報の読み取り。論理的な文章が書ける。一般的な話題について、ナチュラルスピードでやや複雑な会話ができる。
上級Ⅰ	入学翌年度10月～		入学年度10月～		10週	20時間（5日）	200時間	N1 レベルの文法などの習得。新聞・小説・論文・抽象度の高い長文が読める。幅広い場面において自然なスピードのまとまりのある会話やニュースなどを聞き、論理構成などを理解できる。複雑な話や交渉などができる。また、まとまりのあるスピーチや司会ができる。
上級Ⅱ	入学翌年度1月～		入学年度1月～		10週	20時間（5日）	200時間	

細　　則

（総則）

第１条　　この細則は、阪奈中央リハビリテーション専門学校学則第 33 条に基づき、学則の施行について必要な事項を定める。

2　この細則に定めない事項については別に学校長が定める。

（入学者の選考）

第２条　　学則第 12 条に基づく入学者の選考については、別に定める入学試験実施規定による。

（試験に関する規定）

第３条　　臨床実習を除く履修科目の評価には、筆記試験、口述試験、実技試験及び論文等がある。

2　試験の評価は、優・良・可を合格、不可を不合格とし、評点は次の基準に従う。

秀	90 点～100 点
優	80 点以上 90 点未満
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

3　追試験・再試験

(1) 追試験 ： 定期試験をやむを得ない事由により欠席した者が、公的な証明書を添付した欠席届を提出し、審議によりその理由が正当であると認められた者について行う試験である。

(2) 再試験 ： 定期試験が不合格であった者に対して行う試験である。年度内に当該科目１回に限り受験することができる。

(3) 追試験の評価は細則第３条第２項に従う。再試験の評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。合格した場合、得点に関わらず評価は「可（60 点）」とする。

(4) 再試験・追試験の受験を希望する者は所定の手続き（当該試験実施日の１営業日前までの取扱時間内）を完了しなければならない。

(5) 受験料 ： 追試験・再試験の受験料は次のとおりとする。ただしインフルエンザその他の出席停止により試験を受けられなかった場合は受験料を免除することがある。

① 定期試験、実技試験、特別試験、レポート等	１科目	3,000 円
② 卒業試験	１科目	5,000 円
③ 再実習	１週間当たり	5,000 円

（出欠に関する規定）

第４条　　学則第 23 条の規定による出席状況における評価とは次のとおりとする。

(1) 出席とは、その日の授業の始業時間から就業時間までの間、在籍し続けることをいう。欠席とは、その日の授業の始業時間から終業時間までの間、病気またはその他やむを得ない理由により出席できないことをいう。

(2) 各授業科目、授業時間の３分の２を超える出席がなければならない。

(3) 臨床実習については、本条第２項の規定に関わらず欠席を認めない。
ただし、やむを得ない事情により出席することができない場合は、本校及び実習施設に申し出て承認を得なければならない。

(4) 欠課・遅刻・早退における評価は次のとおりとする。

① 欠課は、当該授業時間に 60 分以上出席しない場合をいい、欠席として扱う。

② 遅刻は、授業開始時間後 30 分の間に出席する場合をいう。

③ 早退は、授業終了時間前 30 分の間に退席した場合をいう。

④ 遅刻・早退は、3 回につき 1 回の授業欠課とする。

(5) 次の項目に該当する場合は、公欠となり欠席および欠課の取扱をしない。

① 忌引きの範囲と日数は、細則第 6 条 2 項の規定による。

② 非常災害、交通機関の途絶その他不可抗力により出席できないと学校長が特に認めたとき。

③ 学校保健法第 22 条第 1 項の規定により準用される同法第 12 条の規定により、出席停止をさせるとき。

④ 学校長の許可を受けて国家試験、入学試験または就職試験を受けるとき。

⑤ 官公署への出頭、公民権の行使等のため、学校長が必要と認めたとき。

⑥ その他、学校長が特別の事情があると認めたとき。

第 5 条　欠席に関する手続きは次のとおりとする。

(1) 欠席する場合は、必ず欠席届を提出しなければならない。
（届け出は口頭及び電話でも受け付けるが、後日必ず欠席届を提出すること。）

(2) 5 日以上続けて欠席する場合は、予め理由書添付のうえ、長期欠席届を提出しなければならない。（病欠の場合は診断書を添付のこと。）

(3) 届け出なく継続して 1 ヶ月以上欠席した者は退学させることができる。

第 6 条　忌引きについては次のとおり取り扱う。

(1) 忌引きによる欠席は、会葬葉書等証明書を添付のうえ、忌引き欠席届を提出した場合に限り、出席扱いにする。（届け出は、緊急の場合、口頭及び電話でも受け付けるが、後日、書面にて届け出のない者、証明書の添付のない者は忌引きとして扱わない。）

(2) 忌引きの範囲及び日数は次のとおりとする。ただし、葬儀が遠隔地の場合、学校長は①～④に限り、往復に要する日数を 2 日以内で加算することがある。

① 配偶者・子	7 日以内
② 父母(本人が喪主の場合)	7 日以内
③ 父母	7 日以内
④ 兄弟姉妹・祖父母・義父母	2 日以内
⑤ 叔父母・伯父母	1 日
⑥ 配偶者の兄弟姉妹	1 日
⑦ 従兄弟姉妹	1 日

(授業料等の納入に関する規定)

第7条　入学検定料・入学金及び授業料・施設設備充実費・実験実習費等の納入期限は、学則「別表3」「別表4」のとおりとする。

2　学校長は、正当な理由の届け出をしないで、授業料・施設設備維持費・実験実習費を指定期日までに納入しない者には、除籍のほか、注意・勧告・停学・退学を命ずることができる。

3　一度納入した入学検定料・入学金・授業料・施設設備維持費・実験実習費等は如何なる理由があっても返還しない。但し、入学年の3月末までに入学辞退の申し出があった場合のみ、入学金を除く納付金については返還する。

4　停学中の場合でも、授業料・施設設備維持費・実験実習費は指定期日までに納入しなければならない。

5　学年の途中に退学又は除籍された者は、退学又は除籍の日の属する期までの授業料・施設設備維持費・実験実習費を納付しなければならない。

6　授業料等は、原則入学後3年間は別表3の金額を納付すること。

但し、4年目以降は、所属する当該学年の学費に準ずるものとする。

7　万一留年した場合、別途記載する特別学費支援制度規定によって年間納付金の半額（後期納付金）を免除する。但し、規定に反する場合は適応されない。

（授業科目及び授業時間）

第 8 条　学則第 20 条に定める授業科目はすべて履修することとし、学生は所定の時間割によって受講するものとする。

2　授業時間は次のとおりとする。

(1) 授業時間は、原則 9 時 00 分～16 時 10 分とする。

(2) 授業時間は別に定めるところとする。

(3) 1 日の授業時間は、原則 8 時間(90 分×4 回)とする。

(4) 1 週間の授業時間は、原則 40 時間とする。

(5) 休憩時間は授業の間の 10 分とする。

(6) 昼の休憩時間は 50 分とする。

3　臨床実習については別に定める。

4　所定の授業科目のほか臨時に必要と認める授業科目については、学校長がそのつど定める。

5　学校長が必要と認めたときは、始業時間及び終業時間を変更することができる。

（評価及び履修の認定）

第 9 条　授業科目の評価及び履修認定に関し、別に規定を定める。

（雑則）

第 10 条　教室、施設、教材及びその他の機械器具等の使用については、許可願いを提出し、学校長の許可を得るものとする。ただし、学外への持ち出しは一切禁止する。

2　学生本人、保証人又は学費負担者に氏名、住所等に変更があった場合は速やかに文書によって学校長に届けなければならない。

3　学校内においてパンフレット、印刷物等の配布並びに貼付および物品の販売について禁止する。

4　校内において許可なく録音・撮影することを禁止する。

（臨時休校等）

第 11 条　臨時休校等については別に定める。

（自動車通学に関する規定）

第 12 条　自動車通学は、原則として禁止する。

付　　則

1　この細則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

2　この細則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

3　この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

4　この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

5　この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

6　この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

7　この細則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

8　この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

9　この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

10　この細則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

医療専門課程

1. 教育課程の履修、評価および卒業の要件

（趣旨）

第1条　この規定は、阪奈中央リハビリテーション専門学校学則に定めるもののほかに、教育課程の履修、評価および卒業の要件などに関して必要事項を定めるものである。

（教育課程）

第2条　理学療法学科、作業療法学科の教育課程は、それぞれ別表1･2のとおりとする。

（授業科目と全科目履修生）

第3条　基礎分野、専門基礎分野および専門分野の科目を履修し、第13条に示す所定の単位を修得しなければならない。

2　前項の授業科目のほか、臨時に必要と認める授業科目については、そのつど学校長が定める。

（単位の計算方法）

第4条　授業科目の単位数は、学則第21条の規定により計算するものとする。

（既修得単位の認定）

第5条　医療系専門学校、短期大学、大学および大学院を卒業･終了または中途退学したもので1年次に入学あるいは2年次に転入学した者は、既修得単位が当該科目の認定要件を満たしていれば認定を受けることができる。

（履修申請）

第6条　各年次毎に定められた授業科目の履修申請書を各学期の所定の期日までに提出しなければならない。

（再履修申請）

第7条　各年次の履修科目の試験に不合格の科目があれば、必要に応じて再履修申請書を各学期の所定の期日までに提出しなければならない。

（聴講申請）

第8条　入学あるいは転入学をして専門基礎分野および専門分野の科目の単位認定を受けた者は、担当教員に相談の上、当該科目の聴講申請書を各学期の所定の期日までに提出しなければならない。

2　別紙（聴講制度に関する内規）より、2年次学年末以降において再履修申請書を提出しなければならない者は、専門基礎分野および専門分野の既修得単位の科目の聴講申請書を、担当教員に相談の上、各学期の所定の期日までに提出しなければならない。

（再履修科目の受講免除と受験資格）

受験資格

第9条　(1) 理学療法学科については次の通り定める。

各学年に配当されている科目のうち再履修科目（再試験不合格）数が5科目以内であれば、原則当該科目の補講を受講した後、特別試験を受験することができる。但し、2年次は評価実習の単位、3年次は治療実習Ⅱ期、Ⅳ期の単位が未修得である場合は上記科目数に関わらず特別試験を受験することができない。

(2) 作業療法学科については次の通り定める。

1年次または3年次においては在籍学年にて履修しなければならない科目で再履修科目（再試験不合格）数が5科目以内であれば、原則当該科目の補講を受講した後、特別試験を受験することができる。

2 年次においては在籍学年にて履修しなければならない科目で再履修科目（再試験不合格）数が 5 科目以内であれば、原則当該科目の補講を受講した後、特別試験を受験することができる。但し、臨床実習Ⅲの単位が未修得である場合は上記科目数に関わらず特別試験を受験することができない。

2　すべての特別試験に合格することで上級学年に進級できるものとする。

3　臨床実習科目は原則特別試験を実施しない。

（一般［臨床実習を除く］履修科目の評価）

第 10 条　評価を受ける資格は、学則第 23 条 1 項④による。

2　履修科目の評価は、試験(本試験「学期末」、臨時試験など)・出席状況・学習状況・学習報告等によって行う。

3　試験には、筆記、口述、実技、レポート、論文などがある。

4　試験の評価は、細則第 3 条 2 項による。

（追試験と再試験）

第 11 条　追試験および再試験は、各 1 回限りとする。

2　その他に関する規定は、細則第 3 条の規定による。

（臨床実習科目の評価）

第 12 条　臨床実習を履修する資格は次の通りである。

(1) 理学療法学科については、次の通り定める。

① 2 年次の検査測定実習の履修は、「観察実習」に合格しなければならない。

② 2 年次の評価実習の履修は、1 年次の全科目、2 年次の実習前評価および「検査測定実習」に合格しなければならない。

③ 3 年次の治療実習の履修は、1 年次の全科目および 2 年次後期までに配当されている専門基礎科目、専門科目全ての単位および評価実習の単位を修得していること。ならびに 3 年次前後期の各実習前評価で合格基準を満たしていること。

(3) 作業療法学科については、次のとおり定める。

1. 臨床実習Ⅰ・Ⅱの履修については、1年次に配当されている全科目の単位を履修していること。

2. 臨床実習Ⅲの履修については、以下(1)～(3)のすべての条件を満たす場合に許可する。

(1) 1 年次に配当されている全科目の単位を修得していること。

(2) 作業療法評価総論演習、作業療法評価技法Ⅰ～Ⅳの単位を修得していること。

(3) 臨床実習Ⅰ・Ⅱの単位を全て修得していること。

3. 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの履修については、1 年次、2 年次に配当されている全科目の単位を修得していること。

4. 臨床実習においては特別試験を実施しない。

2　臨床実習の評価は、次の通りである。

(1) 理学療法学科については、次の通り定める。

2 年次の評価実習および 3 年次の治療実習はそれぞれの実習前後の評価によって判定する。

(2) 作業療法学科については、次の通り定める。

① 2 年次の臨床実習Ⅲで不合格の場合は、翌年度再履修するものとする。

② 3 年次の臨床総合実習はⅠとⅡの 2 科目に分類し、それぞれの実習に合格しなければならない。

3　臨床実習概要および評価基準は別に定める。

（卒業の要件）

第 13 条　　次の卒業に必要な単位を修得すれば卒業を認める。

1)理学療法学科

	単位
基礎分野	14
専門基礎分野	33
専門分野	72
合　　計	119

2)作業療法学科

	単位
基礎分野	14
専門基礎分野	36
専門分野	70
合　　計	120

2. 履修制度

【理学療法学科】

Ⅰ. 試験の評価について

1. 当該科目において試験が複数回実施される場合は、原則的に時間数の配分により評定を算定する。各試験のうち 1 つでも不合格となった場合については算定せず、評定は「不可」とする。
2. 3年次には卒業試験を実施する。卒業試験は基礎理学療法学に含む。

Ⅱ. 聴講制度について

1. 聴講科目の範囲は、聴講制度に関する内規「第3条の3項」に従わなければならないが、当該試験の成績評定が「良」、「可」であれば、必ず当該科目を聴講しなければならない。
2. 聴講時間数は、聴講制度に関する内規「第3条の2項」に従わなければならないが、前、後期ともに規定時間数以上を聴講しなければならない。
3. 聴講の場合においても、試験を受けなければならない。
4. 試験の成績評定が不可になれば、聴講制度に関する内規「第4条の2項」聴講科目の課題に従わなければならない。
5. 実習は聴講しなければならない。ただし、3 年次の臨床実習Ⅰ、Ⅱの単位を修得しているものは聴講を免除する

Ⅲ. 臨床実習の履修について

1. 実習単位は特別試験に該当しない。そのため、実習単位を修得できなければ進級することができない。
2. 治療実習はⅠとⅡの2科目に分類し、治療実習Ⅰが不合格により単位未修得の場合は、治療実習Ⅱを履修することができない。
3. 評価実習および治療実習が中止となった場合は、その年度の実習を履修することができない。
4. 原則的に実習の延長は認めないものとし、延長の必要性があることを、実習指導者および学校が判断した場合においてのみ執り行う。
5. 評価および治療実習の欠席日数により実習判定は以下のとおりとなる。
   (1) 全出席すべき日数の 1/10 以上の欠席の場合、判定は保留とする。
   (2) 全出席すべき日数の 1/5 以上の欠席の場合、実習を中止とする。
6. 全出席すべき日数の 1/10 以上の欠席の場合、理由により補填実習を課することがある。
   なお、補填実習に関して、実習期間の最終日に補填実習の必要性があることを、実習指導者および学校が判断した場合においてのみ執り行う。
7. 延長または補填実習は、再試験、追試験と同様に受験料を支払わなければならない。

【作業療法学科】

Ⅰ. 休学・復学について

（休学）

休学中、月に一回、生活・学習状況報告書を提出し、必要に応じて教員の面談を受けなければならない。

（復学）

1. 復学をしようとするものは、その意思を当該学期開始の2ヶ月前に連絡することとする。
2. 復学にあたり「復学学力テスト」の受験または「実践トレーニングレポート」の提出と教員との面談を受けなければならない。
3. 原則的に、前項2の結果により、復学を認めるものとする。また、復学後の学習を円滑に進める為に、復学後の学習計画を教員と相談の上、決定するものとする。

3. 新入学生の既修得単位の認定要件及び認定手続き

（趣旨）

第１条　この内規は「教育課程の履修、評価および卒業の要件などに関わる規定」の第5条に基づき、当該既修得単位の認定要件および認定手続きなどを定めるものである。

（単位認定の範囲）

第２条　単位認定は本校の教育上有益と認めたときに限り行い、認定した単位は当該科目の履修により修得したものとみなす。

2　基礎分野、専門基礎分野および専門分野の順に単位認定を行い、その認定範囲は合計15 単位を超えないものとする。

3　単位認定は、当該科目の単位数および時間数が本校の規定に等しい場合か、それ以上の場合に限って行う。ただし、本校規定の単位数を超える認定はできない。

（認定申請手続）

第３条　既修得単位の認定を申請するものは、認定申請書、講義概要書および成績証明書を各年次の所定の期日までに提出しなければならない。なお、必要に応じて当該科目の教科書ならびにノートの提出を求めることがある。

（単位認定の審査・決定）

第４条　単位認定の審査・決定は、各学科の教務会議、ならびに必要に応じて当該科目の担当教員が加わって審査をし、学校長が決定する。

（単位認定科目の評価）

第５条　単位認定科目の評価は、「認定」とする。

4. 聴講制度

（趣旨）

第1条　この内規は「教育課程の履修、評価および卒業の要件などに関わる規定」の第８条に基づき、聴講の概要を定めるものである。

（聴講科目の範囲）

第２条　聴講科目の範囲は、聴講時間数をもって決める。

2　聴講時間数は、該当する年次の全既修得単位に相当する時間数の５割以上でなければならない。

3　聴講科目の範囲は、成績評定が「良」「可」であれば、必ず「良」「可」の科目を優先して聴講しなければならない。

4　聴講科目及び時間数は、学生と教員との相談の上で決定するものとする。

（聴講科目の課題）

第３条　聴講科目の出席時間数は、当該科目の全授業時間数の３分の２以上あること。

2　聴講終了後、終了試験もしくは課題レポートを提出し、「可」以上の判定を受けなければならない。

3　課題レポートは、再提出させることがある。

4　第 4 条の第 1 項、第 2 項および第 3 項が遂行されないときは、「教育課程の履修、評価および卒業の要件などに関わる規定」の第 12 条の第 1 項に関わらず、臨床実習を履修する資格を失うことがある。

5. 特別学費支援制度

（目的）

第1条　学校法人栗岡学園阪奈中央リハビリテーション専門学校は、留年した学生の経済的な支援を行うことにより、その学生が休学することなく登校し、学習を継続できるようにすることがこの制度の目的である。

（名称）

第 2 条　この制度は、特別学費支援制度と称する。

（概要）

第 3 条　この制度は、3 年で卒業できなかった者に対して、入学後 4 年目に限り、年間納付金の半額（後期納付金相当分）を免除するものである。但し、第 4 条に該当する者に限り適用される。

（資格）

第 4 条　この制度の適用を受ける者は、以下の条件すべてに該当しなければならない。

1. この制度の適用年度の前期まで休学または長期欠席することなく登校し、聴講規定を満たした者。
2. この制度の適用を申請する前期まで、履修しなければならない科目かつ聴講制度に関する内規により申請した聴講科目における各科目の出席状況（臨床実習においては実習時間数）が、学則細則の第 4 条(1)・(2)を満たしていること。
3. やむを得ない事情があり、本条第 2 項の条件を満たすことができない場合、事前に申し出があり、その内容を学校長が認めた場合に限り、他の方法で満たすことができる。
4. この制度の適用年度の前年度まで、3 年間の納付金をすべて納めた者。

（時期）

第 5 条　制度適格者は、適用年度の後期納付金全額を免除する。従って、前期納付金は通常通り、指定の期日に納めなければならない。

（延納処置）

第6条　前期納付金を指定の期日までに支払うことができない場合は、通常の延納手続をとることができる。

（誓約書の提出）

第 7 条　制度適格者は、適用年度の前期開講までに指定の誓約書（別紙 1）を所属校の学校長に提出しなければならない。

（資格の喪失）

第 8 条　第 4 条 3 項を遵守できなかった場合は、後期納付金相当分を学園指定の期日までに納めなければならない。

2. 適用年度の後期開講後、休学もしくは欠席などによって聴講規定に反した場合は、後期納付金相当分を納めなければならない。

6. 図書室利用

阪奈中央リハビリテーション専門学校の教職員ならびに学生が利用できる図書室を設置する。図書室を静粛かつ有効に利用するため、以下の利用規程を定める。

1. 利用用途 ： 文献の検索・複写、ならびに文献を引用した学習。
2. 図書室の利用時間は、以下のとおりとする。

曜　日	利 用 時 間	備　考
月～金	12:00 ～ 13:00	
	16:00 ～ 17:00 （※ 申し出による）	※ 利用希望の申し出があった場合に開室する
土・日・祝	閉 室	

但し、利用時間については学校行事等により変更する場合がある。また、利用時間外の利用については、事前に教職員に申し出ること。

3. 図書室の利用にあたっては教職員の指示に従い、静粛に努めること。
4. 図書室内での私語は厳禁とする。
5. 図書室内では、いかなる飲食も認めない。
6. 図書室内に音響機器を持ち込むことはできない。
7. 図書室内に、許可を受けていない書籍（教科書含む）等・ファイル・袋・カバン等を持ち込むことはできない。貴重品以外の手荷物はロッカー等を利用すること。
   ○持ち込み可能なもの：パソコン（ケースは不可）・筆記用具・貴重品のみ
8. 図書の貸出は、一度に 3 冊までとし、期間は 1 週間以内とする。
   ※但し、返却期間内での申し出により、一冊につき一回のみ1週間の延長ができる。
   （予約が入っていない場合のみとする）
9. 貸出・延長を希望するときは、学生証貼付の図書室用貸出コードと、希望する図書をカウンターへ持参し、教職員の指示に従うこと。
10. コピーの為の一時持ち出しを希望する場合は、学生証の提示が必要である。その際は教職員の指示に従い、所定の手続きをとること。
11. 貸出中の図書に限り、予約を受け付ける。希望する場合は教職員に申し出ること。
12. 雑誌類、また「禁帯出」表示の図書は、貸出できない。
13. 図書室閉室中に図書を返却する際、返却日票のある場合は事務室に返却できる。
14. 貸出した図書は、指定の期日までに返却しなければならない。返却期日に遅れた場合、以降の図書の貸出を停止する。停止日数は次の通り定める。

遅滞日数	7日以内	8～14 日以内	15～30 日以内	31 日以上
停止期間	2週間	1ヶ月	2ヶ月	別途定める

15. 図書の又貸しをしてはならない。（学生証の又貸しも同行為とする。）
16. 利用中の図書を汚損・破損、亡失した場合は、新たな図書にて弁済すること。該当の図書が市中にない場合は最新刊で充当する。それが不可能な場合は、適当な処置(代替図書もしくは古書)によるものとする。

7. 学生ホールの使用

1. 学生ホールは、自習室・談話室・昼食場所等として利用できる多目的ホールである。
2. お互いの利用目的を尊重し、気持ちよく利用できるように配慮すること。
3. 空き缶・ごみなどは、所定の場所に分別して捨てること。飲み残しのジュースやカップラーメン等を机の上に放置しないこと。
4. 開館時間 ： 学生ホール大　(月)～(金)／8:30～19:00　(土)8:30～17:00
   学生ホール小　(月)～(金)／8:30～19:00　(土)8:30～17:00
5. 閉館期間 ： 春期・夏期・冬期等の休暇中は、閉館する場合がある。
   ※閉館期間については、その都度連絡する。

8. 学生の心得

1. クラス担任制について
   各学科の各クラスにそれぞれ担当教員を設ける。学生の身上に関すること、学習面に関すること等を相談し、指導・助言を受けること。
2. クラス運営について
   学生生活全般にわたって自治的で相互理解の校風を育成するために、各クラスに次の役員をおく。ただし、下記の委員および人数は変更することがある。

委員	人数
委員長	1 名
副委員長	2 名
会計	2 名

委員	人数
備品	2 名
美化	2 名
体育	2 名

3. 各種届け出・願い出について
   1) 欠席(欠課・遅刻・早退)の届け出
      (1) 欠席（欠課・遅刻・早退)する場合は、細則第 5 条1項および 2 項の規定による。
      (2) 緊急の場合は、口頭や電話でも受け付けるが、後日必ず欠席（欠課・遅刻・早退）届を提出すること。
   2) 忌引きの届け出
      忌引きによる欠席は、細則第 6 条 1 項の規定による。
   3) その他の公欠
      事前に担当教員に申し出ること。
   4) 変更の届け出
      現住所・勤務先・姓名・保証人等に変更があれば、所定の用紙に必要事項を記入して直ちに届けること。
   5) 遺失物・拾得物の届け出
      物品を遺失・拾得した場合は速やかに事務へ申し出ること。拾得物の落とし主が現れない場合は、一定期間(3 ヶ月)経過後処分する。
   6) 休学願・復学願・退学願
      休学・復学または退学しようとする者は、学則第 14・15 条の規定に従うこと。この願書には、担任教員の意見書及び病気による場合は医師の診断書を添付すること。
   7) 補習願
      (1) 当該授業科目の全出席時間数が病気・忌引きあるいはやむを得ない理由により指定規則の定める時間数に満たない場合は、補習を受けて時間数を満たすことができる。

(2) 補習を受ける場合は、学校長に補習願を提出すること。

8) 追試験・再試験

追試験・再試験を希望する者は、細則第3条3項の規定に従い、追試験願・再試験願を提出すること。

4. 学籍について

1) 学籍番号(学生証番号)

(1) 入学と同時に次のような学籍番号を与える。この番号は学生ごとに異なり、在学中はもとより卒業後も変わらない。

大分類番号(1ケタ)	中分類番号(2ケタ)	小分類番号(2ケタ)
〔科別〕	〔入学期別〕	〔個人別〕

(2) 学籍番号は、学生証・試験・諸届・図書の利用その他に利用される。

(3) 卒業後、この学籍番号は諸記録の検索番号として利用するので、問い合わせや諸証明の請求には必ず学籍番号を併記すること。

2) 学生証

(1) 学生証は、本校の学生であることを証明するものであり、常に携行すること。

(2) 学生証の有効期間は、入学年の4月1日から卒業年の3月31日までとする。

5. 学生旅客運賃割引書(学割証)

1) 学割証を必要とするときは、所定の用紙に該当事項を記入し申し込むこと。
ただし、使用目的、行き先等が明確でないものは発行しないことがある。

2) 学割証の交付は、申込日の翌日になる。ただし、長期休業日前後は翌日に交付しないことがある。

3) 交付を受けるときは、学生証を提示すること。その際、発行日および発行枚数を確認すること。

4) 学割証の有効期間は、発行日から3ヶ月である。なお発行日は変更できない。

5) 不正使用してはならない。万一不正使用した場合は、本人の処分はもちろんのこと、学校に対しても指定取り消し等の処分があり、学校全体に迷惑の及ぶことがある。

6. 通学証明書(通学定期券)

1) 通学定期は、不正使用をしてはならない。万一不正使用した場合には、本人の処分はもちろんのこと、学校に対しても取り消しの処分があり、学校全体に迷惑の及ぶことがある。

2) 無断で証明書の記載事項に変更を加えないこと。変更がある場合は、証明書持参のうえ申し出ること。

3) その他、「各種事務手続き等について」を必ず確認すること。

7. 各種証明書の手数料・交付日等については、「各種事務手続き等について」で確認すること。

8. 学生の集会及び行事について

学生または学生団体が校内・外において集会あるいは行事(スポーツ行事、署名運動、世論調査、印刷物の刊行配布等)を行うときは、所定の用紙で願い出て学校長の許可を得なければならない。

9. 服装・上履きについて

1) 登校・下校時は、本校学生として品位を損なうことのないように注意する。

2) 校舎内は、通用出入り口にある下足箱で上履きに履き替えて入ること。

10. 更衣用ロッカー・個人ボックスの使用について

1) 更衣用ロッカーの鍵は貸し出す。鍵は常に保持し、紛失しないように心がけること。

2) 使用者は常に清潔を心がけ、取り扱いに注意すること。

3) 鍵を紛失した場合は、実費を負担しなければならない。

4) 保管は各自の責任において行い、貴重品、爆発物、その他衛生上不適切なものの保管は厳禁する。

5) 盗難などが発生しても本校はその責任を負わないので、十分注意すること。

6) 破損した場合は直ちに事務室に届け、修繕の実費を負担しなければならない。

11. 自動車・バイク・自転車通学について

学校周辺に駐車・駐輪すると地域住民に非常に迷惑をかけることになり、また交通事故などで長期欠席した場合は、進級・卒業できなくなることがあるので、原則的に禁止する。
但し、担任より許可を得た場合はその限りではない。
※1）自動車通学者は、更新時に「運転記録証明書（1 年間）」を提出しなければならない。
※2）本校誓約書記載事項違反および悪質な違反（免停以上）・事故が確認された場合は自動車・バイク・自転車通学の許可を取り消す。

12. 喫煙について
敷地内は禁煙とする。喫煙は、健康のため極力控えること。喫煙者については、学校周辺での喫煙、ポイ捨て、くわえタバコは厳に慎み、マナーを守ること。

13. 奨学金制度について
奨学金制度の利用を希望するものは、事務室において相談すること。

14. 各部屋の使用について
HR 教室以外は原則、専任教員の許可を得てから事務室に申し出ること。

15. 校舎内の清掃について
1） 清潔な環境の中で勉学できるように、お互いに気配りをすること。
2） 指定された場所は、分担を決めて定期的に清掃すること。

16. 身だしなみについて
本校が定める身だしなみの基準を遵守し、学内では医療人を目指す学生らしい身だしなみを心掛けること。

9. 学生の健康管理

学生の皆さんが、将来理学療法士または作業療法士として活躍するためには、まず、第一に皆さんが健康であることが肝要です。ところが、健康のありがたさは日頃なかなか自覚できず、病苦に悩んで初めて気がつくことが多いように思います。従って、常日頃から体力や気力の維持、食事バランスの配慮、規則正しい日常生活の実践等、暮らしの中で健康を守るための工夫と努力をする必要があります。

最近注目されている生活習慣病(脳血管障害、心筋梗塞、糖尿病等)のほとんどは、その成因に若いころからの運動不足、不規則な食事習慣、不摂生な生活様式等が大きく影響しているものと考えられます。従って、今から十分考慮しておいてください。

また、交通事故による外傷等は自らの不注意に由来していることが多いのではないでしょうか。この一瞬の出来事が皆さんの人生を台無しにする重大な失態になります。学生生活をより充実させるためにも、心身ともにゆとりをもって行動してください。

さて、本校では、健康維持のための管理体制と救急対応のための管理体制を以下のように規定していますので、承知しておいてください。

1） 健康管理について
全学生に対して、毎年 4 月～6 月に学校保健法に基づく定期健康診断を実施します。
その結果、異常所見者は精密検査を義務付けます。 また、必要に応じて臨時の健康診断を行うことがあります。

2） 健康相談について
健康に対する不安や身体の不調については、本校の教員(理学療法士・作業療法士)が、できる範囲の相談に応じます。その結果、必要に応じて併設の阪奈中央病院にて検診を実施します。

3) 救急体制について

校内で救急患者が発生すれば、まず教職員に連絡してください。教職員は、その救急の程度によって次の三段階の対応をします。

第一段階　保健室で安静対応する段階

第二段階　必要に応じて校医や救急隊(119 番)に通報して対応を伺う段階。

第三段階　救急蘇生法で対応する段階

これは、一時救命処置である気道確保、人口呼吸および胸骨圧迫心臓マッサージ等の心肺蘇生法、および直接圧迫法と間接圧迫法(止血帯法)等の止血法を行い、同時に救急隊(119 番)に通報して対応する段階

「注意」　第二・第三段階については、併設の阪奈中央病院(電話:0743－74－8660)に通報して搬送・受診します。なお、本校の学生が阪奈中央病院で外来受診した場合に限り、所定の手続きを経て保険診療内の治療費の半額を補助します。(別途記載する診療費補助制度による)

10. 臨時休校等

本学は、この内規により、通学時および校時中の学生の安全を確保するため、下記の状況が発生した場合、臨時に休講、休校等の措置をとります。よって学生の皆さんは、内容を十分に把握しておいてください。特別な事情が発生した場合はグループウェア・電子メール等を用い、これを補います。

状況 1.　次のアまたはイの交通機関が運行を休止した場合

ア　奈良交通バス 79・86・96 番線(近鉄生駒駅南口－田原台 1 丁目)

イ　近鉄奈良線、けいはんな線、生駒線、JR学研都市線のいずれか

状況 2.　「東部大阪」または「奈良県北西部」に、気象庁が暴風警報を発令した場合

状況 1.または状況 2.が発生した場合は、次の措置をとります。なお、措置については、各自公共の報道機関などの情報に基づき、判断行動してください。

措置　(1) 午前 6 時の時点で、状況 1. または状況 2. または計画運休が発表されている場合
午前中を休校とし、(2)の時点まで自宅待機する。

(2) 午前 10 時の時点までに、状況 1. または状況 2. が解消された場合
解消した時点より、個々の安全を確保しつつ登校するものとし、午後からの講義を行う。

(3) 午前 10 時の時点で、状況 1. または状況 2. である場合
午後以降も休校とする。

(4) 帰宅時間帯に状況 1. または状況 2.が予想される場合

(5) 臨床実習期間中については、実習要項または手引きによる。

授業中や実習施設での実習中においては、教職員またはスーパーバイザーの指示に従って行動をとるようにしてください。

11. 各種事務手続き等

Ⅰ. 各種証明書の申し込み方法

1. 申込用紙は事務室にあるので、必要事項を記入して申し込む。
2. 交付時期は次の通りとする。
   ① 8:30～13:00 申込の場合・・・翌日の昼休み以降に交付
   ② 13:00～17:00 申込の場合・・・翌日の 13:00 以降に交付
   ※但し、金曜日もしくは祝前日に申し込みをした場合は、日祝日翌日の平日に交付。
3. 休暇中や実習期間中など、予め登校しない日が明確な場合は、事前に申し込むこと。(自宅または実習地から電話で申し込む者がいるが、原則として認めない)
4. 【取扱時間】 平日 8:30～17:00 **※土・日・祝日は取扱不可。**

Ⅱ. 各種証明書発行にあたっての注意

1. 通学証明書
   *通学区間は学校と自宅の最短ルートとする。
   *転居の場合以外は通学方法、経路の変更は原則として認められない。
   *通学定期乗車券を購入するときは、駅窓口にて定期乗車券購入申込書に必要事項を記入の上、「学生証」とともに提出すること。
   *実習用定期については、普段の通学定期購入の時とは違って、前もって申請しないと購入することができない。 (※申請から許可まで約 1 ヵ月を要する。)
   一度申請した内容については追加・訂正が出来ないので、記入漏れなどがないよう十分に注意して申請手続きを行うこと。
2. 学割証
   【ＪＲ】区間内において、100kmを超えて旅行する場合に、(学割証)を提出した場合、大人普通旅客運賃の 2 割引が適用される。(※年間 6 枚まで発行可)
   【近鉄】区間内において、101km以上の場合に、普通旅客運賃の 2 割引が適用される。
   *手続き:「学生運賃割引証交付願」に必要事項を記入し、事務室に提出すること。
   発行の割引証と学生証を提示すれば割引が受けられる。
3. 学生証再発行 [再発行手数料 : ¥500]
   *学生証を紛失したときは新しい学生証を受け取り、所定事項を記入する。写真を提出した後、「発行願」を事務室に提出し校長印および契印を受けること。
4. 在学証明書・卒業(見込)証明書・成績証明書 [発行手数料:¥500／その他証明書:¥500]
   *「証明書発行願」に必要事項を記入の上、直接事務室窓口へ提出する。
   (※電話での申し込みや、家族からの申し込みなどは原則として認めない。)
5. 住所・姓名・通学経路等の変更
   *変更のあった場合は、直ちに担任と事務室に申し出て手続きを取ること。
   *提出書類・・・・・ ①変更届 ②学生証 (該当箇所の訂正)

Ⅲ. その他の届出・諸費用について

1. 再試験・追試験
   事務室にて「試験願」を受け取り、必要事項を記入して、所定の試験料を添えて手続きすること。
   ※手続き期限は、試験前日の 17:00 までとする。事前に承認を得ている場合はこの限りではない。
2. 欠席・欠課・遅刻・早退届
   事務室で「欠席・欠課・遅刻・早退届」を受け取り、必要事項を記入して担任に提出すること。
3. 休学
   諸事情により、やむを得ず休学する場合は、半期につき在籍料 100,000 円を納めること。
   ※休学中、講義を受講することはできないが、その他については変わりなく利用できる。

4. ロッカーの鍵を紛失した場合 （※再発行手数料：¥1,530）
事務室書類ボックスから「証明書発行願」を取り出し、必要事項を記入して事務室に提出すること。

Ⅳ．諸 注 意

1. ゴミの処理について
必ずゴミ箱に捨てること（※分別回収：一般のゴミ・缶・ペットボトル・ビン）。
各教室のゴミ袋は、所定の場所に廃棄すること。
①空缶は、必ず中身を空の状態にした上で廃棄すること。
②インスタントラーメン等の食べ残したものを、決してトイレ・洗面所に流さないこと。
2. 学校の来客用スリッパは、使用しないこと。万一、上履きを忘れた場合は、必ず事務室に許可を得てからスリッパを使用すること。
3. 食品の販売について（平成 30 年 4 月 1 日現在） ※土・日・祝・長期休暇中等は除く
○お弁当の注文販売 【さくら亭】
①（月）～（金）の午前 9 時までに、所定の申込書にお金を添えて1階事務室に提出。
②昼休みに、1 階事務室にて半券と引き換えに弁当を受け取る。
○パン等の販売 【ぐーちょきぱんじゃ・ヤクルト】
（月）（木）の週 2 回、12:00～12:40 の間、校舎内 1 階フロアで販売する。
4. 各種代金の支払い等について
1 階事務室での支払いは、すべて釣銭のないようにすること。原則、両替はしない。
5. 教室の使用について
①各教室の鍵は、1 階事務室受付で台帳に氏名等を記入し受け取ること。
使用後、施錠者は直ちに返還すること。返還の際も必ず台帳記入を忘れないこと。
②HR教室ならびに学生ホール以外への飲食物の持込みは、厳に禁止する。
③教室を最後に退出する者は、戸締り・消灯をよく確認した上で施錠すること。
6. 授業料等の納付について
①1 年生後期納付金より口座引落しとする。別紙案内に従い手続きすること。
②口座を変更したい場合は、1 階事務室に申し出ること。（※変更手数料：¥50）
7. 診療費補助制度について
阪奈中央病院で外来診療を受けた場合、実費額の半額を補助する制度である。
①外来診療で保険適用内の費用が対象※となる。申請用紙は、1 階事務室で受け取ること。
※入院費や保険適用外診療、診断書手数料等は含まれない。
②申請用紙には、領収書原紙を貼付すること。（コピーや再発行は受付不可）
③提出期限：診療日より 1 ヶ月以内に提出のこと。期限を過ぎると適用除外となる。
8. スクールバスの使用について
近鉄生駒駅、JR 忍ケ丘駅、京阪寝屋川市駅から本校まで利用が可能である。
運行時間・利用方法をよく確認の上、全員が気持ちよく利用できるよう心掛けること。
9. 学生寮の利用について
利用者は規則を順守すること。

令和１年度　自己評価報告書

評価対象期間　　自：平成 31 年 4 月　1 日

至：令和 2 年 3 月 31 日

評価基準日　　令和 2 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

評価項目の達成および取組状況

1　教育

2　施設・設備

3　学生サービス

4　教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：作業療法学科 学科長　理学療法学科 学科長　事務主任

教育分野（以下に点検・評価する教育分野の番号を〇で囲んでください。）

①リハビリ　　２ 看護

１ 教　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
１. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	・令和２年度入学生から、動物介在療法、スポーツに関連する科目を開講し、本学の特色を打ち出すとともに多様化する理学、作業療法士へのニーズに対応したカリキュラムに改定した。	５十分 ← [4] ３ふつう → ２ １不十分	協会が提示するコアカリキュラムを基盤に教育内容の見直しを図り、学習の効率化、効果的な教育手法を取り入る必要がある。 卒業要件を見直し、国家試験合格率向上を目指す。
２. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、生活行為向上マネジメント、予防リハ、がんリハなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 さらに職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	５十分 ← [4] ３ふつう → ２ １不十分	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。
３. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新カリキュラムでは、学年ごとの学修時間の差が最小限となるよう再編した。	専門性をより高めるため、専門科目にやや比重を置いた設定とした。	５十分 ← [4] ３ふつう → ２ １不十分	新カリキュラム開始後に問題点が生じた時は早急に改善するように努める。
４. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの学修計画および成績評価の方法と基準が明確となるよう、フォーマットの見直しを行った。	フォーマットを見直すことで内容のばらつきが減少した。	５十分 ← [4] ３ふつう → ２ １不十分	担当講師がインターネット等で原稿を直接入力できるシステムなどの構築を検討する。
５. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	理学療法、作業療法教育ガイドライン、臨床実習ガイドラインなど最新の動向も捉え、定期的に各学科で協議している。	各種教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	５十分 ← [4] ３ふつう → ２ １不十分	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。

6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	最新の教科書の中から、学生の状況や国家試験の出題範囲を考慮し、原則、科目担当講師が厳選している。	学生の現状とレベルが合致しない場合は、適宜テキストの変更を提案していく。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	コアカリキュラムに則った知識が得られるような教科書や教材を精査すると共に、学生の現状を講師に伝え、担当講師に、より適切なテキストの提案をしていく。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	到達目標の設定は各講師に一任してきたが、科目判定会議、進級判定会議を定期的に実施し、厳正な評価に努めている。 理学、作業療法養成課程のコアカリキュラムが明示されたため、これに対応する必要がある。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	コアカリキュラムで示されている学修目標を取り入れた目標に加筆、修正する。新たに求められる能力要素があった場合は、それも含めて成績評価ができるように修正する。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では中間評価を実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っていく。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	１年次よりグループ学習や学力アップ講座を積極的に取り入れ、専任教員が個々の学生への対応を行っている。	現在課題となっている専門基礎科目の学力不足を補うべく、作業療法学科では「専門基礎演習」科目を新設した。理学療法学科では空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員が適宜指導している。 臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。	1年次から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	5十分 ← [4] 3ふつう → 2 1不十分	本校の教育方針の意図を学生、保護者に正しく理解いただけるよう綿密なコミュニケーションをとってゆくとともに、今後も教職員が手本を示し、職業人としてのマナーやルールについて教育していく。

11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかける時間を確保する。 スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	5 十分 ← [4] 3 ふつう 2 → 1 不十分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	5 十分 ← 4 [3] ふつう 2 → 1 不十分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。

2 施設･設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。 視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。	5 十分 ← [4] 3 ふつう 2 → 1 不十分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR 教室でも試験を実施できる対策を検討する。
2．図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	蔵書数は基準を満たしている。四条畷看護校から本校講義棟 3 階に移設した。 メディカルオンラインの導入により、実習中の文献検索が容易になった。	アクセス面が改善されたため、利便性が向上した。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。
3．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。 一部の検査機器、研究機器については動作不良を認めるものがある。	新規購入及び更新が必要な備品に関しては年間購入計画を作成し補充・更新していく。	5 十分 ← 4 [3] ふつう 2 → 1 不十分	新規購入の必要な機材、修理が必要な機器の管理を徹底し、学修に影響が出ないように努める。

4.最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	各教室のプロジェクターやマイクについては利用しやすい環境である。 学内ほぼ全域を Wi-Fi 接続可能にしている。	教育環境としては充実している。 パソコン教室のネット環境は未整備である。	5 十分 ← [4] 3 ふつう 2 → 1 不十分	パソコン教室も Wi-Fi 接続できるようにし、文献検索などが学内でできるように整備していきたい。
5.ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	男子寮、女子寮を保有している。 女子寮はキャンパス敷地内にある。	女子寮には住込みの管理者を配置している。 男子寮･女子寮ともにオートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	女子寮入口が鍵からカードキーになり、利便性が向上した。
6.体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館、運動場ともに保有している。 保健体育や卒業式などの式典で利用しているほか､和幸会グループのクラブ活動などにも活用している。	地域にも開放している｡関連病院と連携し､競技復帰前のスポーツ選手も活用している。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討する。

3 学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
1.クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている｡問題のあった学生については､毎朝のミーティングや会議にて担任だけでなく､全教員で対応を検討している。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができている｡さらに随時面談を実施し､学科全体で学生の情報を共有している。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続していきたい。
2.学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し､担任だけでは対応しかねる問題のある学生については､臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 十分 ← [4] 3 ふつう 2 → 1 不十分	現状では十分な環境が整っていると思われる。

３. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを２部屋、各所にソファーが設置されており、休憩時間には学生が有効利用している。	講義棟の開設により学生用スペースはかなり充実している。	[5] 十分 4 ← 3 ふつう 2 → 1 不十分	特に問題はない。
４. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。 学内に売店はないが、弁当の注文販売を毎日、パン・飲料等の出張販売を週に２回行っている。	弁当の販売、パンの販売、自動販売機などで購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。	[5] 十分 4 ← 3 ふつう 2 → 1 不十分	食事場所のスペースは十分である。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。 学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストア（イートイン）もあり、利便性は更に向上している。
５. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	日本学生支援機構の奨学金を中心に案内している。 独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から奨学金の案内をいただいている。	5 十分 [4] ← 3 ふつう 2 → 1 不十分	・日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となった。
６. その他 国家試験について	現役生の国家試験合格率には課題があるが、既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し、高い合格率を維持している。	既卒者の受験者に対しては、専属で教員を配置し、綿密な計画のもとアクティブラーニング等も取り入れ、個々の学生の弱点克服に取り組んだ。	5 十分 [4] ← 3 ふつう 2 → 1 不十分	長年にわたり国家試験対策を担当した教員の教育力、分析力が高まっており、これまでの経験を次年度の国家試験対策に活用する。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動
①奈良県の脳卒中患者会２団体の会員の方々に複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら現場と同等の環境で学習する機会を作得ることができた。
②在宅でのリハビリテーションを勉強する患者会の会合に年間を通じ学生がボランティアで参加し、活動を支援するとともに医療者としての素地を養う機会となった。
◇ホースセラピーへの取り組み
①11 月に、講師として東京農業大学の川嶋准教授、NPO 法人ピスカリ様にお越しいただきホースセラピー特別講義を開催した。
②今後も特別講義を開催する予定である。
◇スポーツリハへの取り組み
①高等学校の体育系クラブ部員を対象としたメディカルサポート事業を実施した。
②奈良県立登美ヶ丘高等学校など近隣の高等学校の生徒が来校し、本校の理学療法学科教員と学生が共同で高校生のメディカルサポートを実施した。
◇出前講座の実施
①四條畷市立田原中学校のキャリア教育講座（２年生）に講師派遣し、作業療法士の職業紹介及び体験指導を実施した。

以上

令和１年度　自己評価報告書

評価対象期間	自：	平成 31 年 4 月 1 日
	至：	令和 2 年 3 月 31 日
評価基準日		令和 2 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

評価項目の達成および取組状況

1　教育
2　施設・設備
3　学生サービス
4　教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：日本語科主任教員

１リハビリ　　２ 看護　　③ 日本語科

１ 教　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
１.カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	教育理念に基づき段階的にステップアップを図れている。また日本での生活や資格外活動に差支えないよう、コミュニケーション能力の涵養を主眼とした教育を心掛けている。	概ね教育目標通りの授業が展開できていると考える。 学生の国籍に偏りがあり授業内で母語に頼る学生が存在する。そのことが学生の日本語運用能力の伸長に際して障壁となっている部分がある。	５十分　[4]　←　３ふつう　２　→　１不十分	カリキュラムおよびシラバスは現状から問題はないと考えるが、今後、学生数が増加することに伴う新たな課題への対応が必要である。
２.カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	卒業後直接就職する学生は少ないが、四年制大学を卒業した学生が就職へと進路を変更し退学した。また、本校理学療法学科への進学、介護関連の専門学校へ進学した学生も存在する。	留学生の多様な進路ニーズおよび日本語運用能力に対応する進路指導の体制が構築できていると考える。 日本語運用能力の観点で必ずしも十分でない学生への進路変更指導のためにも、より多くの進路の可能性を模索する必要がある。	５十分　[4]　←　３ふつう　２　→　１不十分	多様な進学先の情報を収集するとともに、医療人材となることの意義を学生に日々伝えることが必要である。
３.授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	入学時のクラス編成から学生の学習進捗度に応じて柔軟にクラス編成と講師配置を行っている。現状では言語学習に必要な少人数クラスの状況が確保できている。	春学期入学２年制の学生については余裕を持ったカリキュラム編成が可能である。 秋学期の入学者については進路の決定までの時間が短く、十分な日本語能力の養成には課題が多い。学習時間と内容の確保には新たな取り組みが必要であると考える。	５十分　[4]　←　３ふつう　２　→　１不十分	秋学期については、入学時点で相当の日本語運用能力を保持していなければその後の進路指導に支障があることが明確になってきた。学生募集時から学習修了時の計画を明確にし、実現可能な指導が行える体制が必要である。
４．シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	学科設置時にレベルに応じたシラバスが設定されている。当該シラバスは、各レベルを担当する教員により実際のカリキュラムに反映される。	内容等については問題点は無いと考える。学生のニーズの変化や教育に関する技術革新に応じて常に検討を重ねる必要がある。	５十分　[4]　←　３ふつう　２　→　１不十分	各教員間でシラバスの内容につき理解を深め、各専任教員が運用に際し内容にばらつきが出ないよう努める。同時に、改善点については常に検討していく。

5.カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	日々蓄積され全専任教員に公開される授業報告をもとに、学科運営会議等で随時進度・教材・クラス編成等につき見直しを行っている。	教育実績等から考え、今年度のカリキュラムは教育目標の達成に大きく寄与した。 語学教育では入学前のレディネスによりクラス運営が大きく変化するため、広報等との情報共有が必要である。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	学生募集や提携海外教育施設との折衝等に教職員が積極的にかかわり、事前に得られる情報を教室活動およびゴール設定に反映させる。
6.テキストや教材をどのような基準で採用していますか	進学や就職を目指す場合、日本語能力試験N2レベルへの到達が求められる。学生のレベルと弱点、ゴールの設定等を考慮しテキスト等を採用している。	学生個々人のレベルに応じ細分化された教材の提供ができた。 今後学生数の増加に伴ってはシステマティックな教材提供が求められ、それゆえに個々人にフィットしているか否かを熟考できるかどうかが課題である。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	教育方法等も日々新しくなり、効果的に学習が進められる教材も日々新しいものが生まれる。常に教材研究に費やせる時間を確保し、新たな取り組みを目指す必要がある。
7.目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	言語運用能力の四技能（読解、記述、発話、聴解）に加え、論述力や待遇表現等の「実際の日本語使用に関する能力」についても作文や面接等を通じて評価している。	作文等については複数名の専任教員による評価を行い、成績が主観的・恣意的に評価されることを防いでいる。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	現在は日々の提出物や小テスト等の結果も成績評価に反映させており、評価作業が煩雑になっている。学生数の増加に伴った合理化につき検討する必要がある。
8.学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	法務省に定められた定員を下回る少人数クラスを複数設定することにより学生の能力に応じた授業活動を展開している。	現在の授業運営は学生の能力に応じて細分化された設定が可能となっている。今後学生数が増加することに伴い現状から後退する部分をどう補うかを検討する必要がある。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	学生数の増加に伴い、語学学習環境（クラスサイズ）のあり方を検討する必要がある。
9.学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	毎日設定している教員が在籍する自習時間に加え、学力不足が認められる学生については授業時間外に補講等を行いクラスでの学習に追いつく補助としている。	補講等を少人数で行うことで在籍クラスでの学習に自信を取り戻した学生の姿が見られた。 それだけきめ細やかな授業内外でのフォロー体制を機能的に設定するかが検討課題である。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	教員間での学生情報の共有すること、学習に困難を抱える学生に対する迅速な対応がその後の学習活層に大いに影響を与えるという意識の共有が肝要である。

10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員と通訳を含めた事務職員が協力し、特に出身国とは異なる意識（特に時間の厳守、衛生、マナー等）についての指導を行っている。	入学時、また必要に応じて、マナー等についての理解を深める教育を行っている。 全ての事象につき短時間で伝えることは難しいため、思いも寄らない問題が生じる場合がある。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	生活習慣や文化の違いから生じる問題もあるなか、今後も個々の学生に対して対話と指導を行っていく。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	研究会や学会等への参加を奨励し、学んだ内容について学科内で共有している。	教員間で情報を共有したり授業を相互に見学したりしやすい環境が整えられている。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	理論と実践のバランスが取れた教育活動の展開を目指すとともに、その成果について広く社会に伝えらえるよう研究発表等を視野に入れる。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	面談等を行い、学習内容や授業、学校生活への評価を母語を用いて聞きとっている。	授業全体については学生からの聞き取りにより評価を聞き取ることができている。 各教員の評価は行われていない。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	留学生は授業に関する不満があっても表出しないことが多い。聞き取る項目や方法を検討し、思いが反映される授業を展開したい。

2 施設･設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
１. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室の数は十分であるが、聴解や保温等について課題がある。	教室の数と広さは十分である。ただ教室前のロビー環境の整備が期待される。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	授業活動に必要な教具や機材、授業研究に必要な機材を充実させる必要がある。
２. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室および書棚を設置し、多読教材等が閲覧できるようにしている。	まだ書籍の点数が少ないため、熱心な学生はレベルに応じた書籍をすぐに読破してしまう。	5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	教材費の充実、不要となった書籍の寄付を募る等の方法により、学生が満足できる内容の蔵書を整えていきたい。

3．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習等は行わない。		5十分 4 ← 3ふつう 2 → 1不十分	
4．最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	プロジェクター等は利用しやすい環境にある。 学生の調べ学習のためにWi－Fiが設置されている。	聴解のためのスピーカーや書画カメラ等、今後追加したい機材もある。 Wi－Fiの利用の為に学生はFacebookへのログインが求められ、個人情報保護の観点から利用しない学生もいる。	[5]十分 4 ← 3ふつう 2 → 1不十分	学習時間の短さを補うため、LMS（Learning Management System）等の利用による教室外学習と反転授業の可能性について検討したい。
5．ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	留学生全員に学生寮を安価な価格で提供している。 女子寮は講義棟に併設しており、男子寮も徒歩で 5 分程度の場所にある。	施設備品等について不具合の生じたものは、適宜、改善及び改修を行っている。	[5]十分 4 ← 3ふつう 2 → 1不十分	今後も、学生生活の一環として学生寮での生活を、学びの場として捉えていきたい。
6．体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館があり、入学式・卒業式等に使用しているだけでなく、関連の阪奈中央病院の患者でスポーツ選手も利用している。 広い芝生広場も備えるなど、留学生の学生生活には最適な環境がある。	体育館や芝生広場は、学生や当法人の関係者をはじめ、近隣住民の方々にも開放し活用されている。	[5]十分 4 ← 3ふつう 2 → 1不十分	今後もこの状況を維持、継続していきたい。

3 学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策
1．クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	各レベルのカリキュラム作成担当教員が成績等の管理を行うとともに担任業務も行っている。また、各教員が相互に副担任として他のレベルの担任業務をサポートする体制が整えられている	現状は全教員が全学生の状況を把握している。 学生数、クラス数の増加に伴い、授業を担当しないクラスについては該当クラスの学生の把握は難しくなると思われる。	5十分 [4] ← 3ふつう 2 → 1不十分	学習面は主としてカリキュラム担当者が、生活面は担任、副担任が連携して把握に努める。また、一部の授業担当クラスを隔週で変更するなどして、多くの学生と接点を持てるよう配慮する。

2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	母語を用いた面談を随時（入学時、進路指導時、その他必要に応じて）行い、状況の把握を行っている。 また関連の医療施設にカウンセラーがおり、必要に応じて個々に相談できる体制が整っている。	これまでのところ大きな問題は起きていない。 人数の増加に応じて、現在の運営が難しくなる部分があると考える。 語学力の問題でカウンセラーに本人が直接相談できる状況にはない。	5 十分 ← [4] 3 ふつう 2 → 1 不十分	生活指導担当の体制を充実させる必要がある。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	教室前に広いロビーがあり、ソファやテーブルなど、十分な備品及びスペースが確保されている。	ロビー内には使用されていない空間も多く、何らかの改修を含めた利用が望ましい。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	未利用部分の整備を検討する。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	学生が食事をするのに十分なスペースが確保できている。売店はないものの、弁当の注文販売・パンと飲料の出張販売がある。また、自動販売機も十分設置されている。	二部制であるためあまり校内で食事をすることはないが、パンの販売はよく利用されている。	[5] 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	食事場所については十分である。 売店については近所にスーパーやコンビニがあり、学内では十分とは言えないが、出張販売があるので不自由ではない。
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	現段階では学校独自の奨学金や特待生制度は行っていない。 独自の支援制度としては、診療費補助制度がある。	学校独自の奨学金制度はないが、納付金自体を低く設定している。留学生が利用できる学費減免等はないものの寮費等を安価に設定していることが生活への支援となっている。	5 十分 ← 4 [3] ふつう 2 → 1 不十分	成績優秀者等への奨学金が設定できれば学習動機の向上につながると考る。
6. その他 特になし			5 十分 ← 4 3 ふつう 2 → 1 不十分	

4　教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

日本、日本文化等への理解を深める機会として、茶道体験、浴衣の着付け体験、お正月文化体験など、各種イベントを年間行事に盛り込んでいる。
自治体主催の外国人スピーチコンテストなどにも積極的に参加できるような環境を整え、手厚いサポートも行っている。

2019（令和１）年度　学校関係者評価報告書

評価対象期間　　自：2019（平成 31）年 4 月　1 日

至：2020（令和 2）年 3 月 31 日

評価基準日　　2020（令和 2）年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園

阪奈中央リハビリテーション専門学校

《 学校関係者評価　評価委員 》

（敬称略：五十音順）

委員長　　川口　正一郎
委　員　　大原　敏敬
委　員　　川原　勲
委　員　　酒井　真紀
委　員　　谷川　優香
委　員　　前原　園代
委　員　　宮野　博

《 評価項目の達成および取組状況 》

1　教育
2　施設・設備
3　学生サービス
4　教育面などでの特筆すべき取組

《 自己評価回答責任者》

作業療法学科　学科長
理学療法学科　学科長
事務局主任

教育分野（以下に点検・評価する教育分野の番号を〇で囲んでください。）

①リハビリ　　２ 看護

５段階の自己評価				
５	４	３	２	１
十		ふ		不
	←	つ	→	十
分		う		分

１ 教　育

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
１. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	令和２年度入学生から、動物介在療法、スポーツに関連する科目を開講し、本学の特色を打ち出すとともに多様化する理学、作業療法士へのニーズに対応したカリキュラムに改定した。	4	協会が提示するコアカリキュラムを基盤に教育内容の見直しを図り、学習の効率化、効果的な教育手法を取り入る必要がある。 卒業要件を見直し、国家試験合格率向上を目指す。	●特色ある科目を導入され、すばらしい取組だと感じる。卒業後の進路とつながりがでれば、さらによくなると思う。 ●他校では学べない動物介在療法・スポーツ関連科目など特色がみられ、魅力的である。 ●スポーツや動物介在療法は両者とも話題性のあるカリキュラムです。そういった特徴的なカリキュラムを取り込み、職場へのニーズをかなえるいい案であると思います。
２. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、生活行為向上マネジメント、予防リハ、がんリハなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。 さらに職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	4	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	●ＯＢ会の活用などにより、現在現場で必要とされている知識・技術・人材などリサーチするなど考慮すること。 ●実習等でも学生からは圧倒的に実技に自信がないという訴えが多いです。職場のニーズとしても即戦力が問われる時代ですので、もう少し実技の講義を増やすカリキュラムにすると良いかと思います。
３. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新カリキュラムでは、学年ごとの学修時間の差が最小限となるよう再編した。	専門性をより高めるため、専門科目にやや比重を置いた設定とした。	4	新カリキュラム開始後に問題点が生じた時は早急に改善するように努める。	●適切である。

４．シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの学修計画および成績評価の方法と基準が明確となるよう、フォーマットの見直しを行った。	フォーマットを見直すことで内容のばらつきが減少した。	4	担当講師がインターネット等で原稿を直接入力できるシステムなどの構築を検討する。	●以前より見やすくなっている。 ●直接入力はシステム上必要だと思いますので、是非実現して下さい。 ●インターネット等を利用することで後の保管も簡便になりますし、記入も行いやすくなると思います。
５．カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	理学療法、作業療法教育ガイドライン、臨床実習ガイドラインなど最新の動向も捉え、定期的に各学科で協議している。	各種教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	4	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。	●適切である。 ●非常に重要で、カリキュラム委員会の設置は必須。
６．テキストや教材をどのような基準で採用していますか	最新の教科書の中から、学生の状況や国家試験の出題範囲を考慮し、原則、科目担当講師が厳選している。	学生の現状とレベルが合致しない場合は、適宜テキストの変更を提案していく。	4	コアカリキュラムに則った知識が得られるような教科書や教材を精査すると共に、学生の現状を講師に伝え、担当講師に、より適切なテキストの提案をしていく。	●国家試験合格レベルであり、最新の知見も入れながら、採用していく必要がある。 ●学生の現状のレベルに加えて他校のテキストや教材選択を参考にすることもいいかと思います。
７．目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	・到達目標の設定は各講師に一任してきたが、科目判定会議、進級判定会議を定期的に実施し、厳正な評価に努めている。 ・理学、作業療法養成課程のコアカリキュラムが明示されたため、これに対応する必要がある。	4	コアカリキュラムで示されている学修目標を取り入れた目標に加筆、修正する。 新たに求められる能力要素があった場合は、それも含めて成績評価ができるように修正する。	●学生や保護者などに分かりやすい判定であること。また、到達目標は高すぎたり、低すぎたりしないこと。 ●担当講師の一任のみの判定では評価にバラつきがみられるため、学校責任者達（教員全員）でこまめに話し合いを行う必要があると思います。
８．学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では中間評価を実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	4	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っていく。	●適切である。 ●アンケートでは学生により回答のムラがあるため、小テストなどで客観的に講師が学生の理解度を認識する方がいいのではないでしょうか。

9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	１年次よりグループ学習や学力アップ講座を積極的に取り入れ、専任教員が個々の学生への対応を行っている。	現在課題となっている専門基礎科目の学力不足を補うべく、作業療法学科では「専門基礎演習」科目を新設した。理学療法学科では空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。	4	新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。	●学生の学力不足は、実習施設に多大な負担をかけることとなる。実習前に一定のレベルになるよう補習等を実施することが望ましい。 ●個々での学生対応に加えて、グループ学習を多く取り入れた方が、学生同士のモチベーション向上にもつながり、学力不足を補えるかもしれません。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員が適宜指導している。 臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。	1 年次から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。	4	本校の教育方針の意図を学生、保護者に正しく理解いただけるよう綿密なコミュニケーションをとってゆくとともに、 今後も教職員が手本を示し、職業人としてのマナーやルールについて教育していく。	●適切である。禁煙することが望ましい。 ●「行事予定」の中に、特定の日を設定して取り組む方法を考慮することも有り。 ●特に医療に携わると、マナーに厳しい施設もあります。学生のうちから細かく指導を行うことが望ましいです。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備	学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかける時間を確保する。 スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。	4	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。	●適切である。教員は学位を取得していることが望ましい。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。	3	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	●授業アンケート評価が低い非常勤講師は変更するなど、強い姿勢で臨むべきである。 ●自己評価3は、授業・教育改善の具体的な手段の検討が必要かも。 ●講師へのフィードバック法をしっかりと見直す必要があると思います。場合によっては、アンケート内容の開示も効果的になるかもしれません。

2 施設･設備

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
１．教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。 視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。	4	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR 教室でも試験を実施できる対策を検討する。	●適切である。
２．図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	・蔵書数は基準を満たしている。四条畷看護校から本校講義棟 3 階に移設した。 ・メディカルオンラインの導入により、実習中の文献検索が容易になった。	アクセス面が改善されたため、利便性が向上した。	5	配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	●適切である。 ●貸出のシステムも充実されているのでしょうね。 ●実習等で利用しやすいように文献検索の幅を増やすことができるといいと思います。
３．実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。一部の検査機器、研究機器については動作不良を認めるものがある。	新規購入及び更新が必要な備品に関しては年間購入計画を作成し補充・更新していく。	3	新規購入の必要な機材、修理が必要な機器の管理を徹底し、学修に影響が出ないように努める。	●備品の買いかえなどを積極的に進めており、問題ない。
４．最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	・各教室のプロジェクターやマイクについては利用しやすい環境である。 ・学内ほぼ全域を Wi-Fi 接続可能にしている。	・教育環境としては充実している。 ・パソコン教室のネット環境は未整備である。	4	パソコン教室も Wi-Fi 接続できるようにし、文献検索などが学内でできるように整備していきたい。	●適切である。 ●最優先課題だと思います。 ●文献検索はネットで行うことができると効率的ですので Wi-Fi 接続が可能な環境を整えることが学生のためにもいいと思います。
５．ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	・男子寮、女子寮を保有している。 ・女子寮はキャンパス敷地内にある。	・女子寮には住込みの管理者を配置している。 ・男子寮・女子寮ともにオートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。	5	女子寮入口が鍵からカードキーになり、利便性が向上した。	●適切である。

６. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	・体育館、運動場ともに保有している。 ・保健体育や卒業式などの式典で利用しているほか、和幸会グループのクラブ活動などにも活用している。	地域にも開放している。関連病院と連携し、競技復帰前のスポーツ選手も活用している。	5	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討する。	●適切である。 ●有効活用されていて良い。 ●地域への交流を深めるためにも、利用の解放を定期的に行っていくべきだと思います。

3 学生サービス

項　目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	５段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
１. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティングや会議にて担任だけでなく、全教員で対応を検討している。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができている。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続していきたい。	●学生に対して、教員全体で対応しており、継続していくこと。 ●定期的に学生との面談を行うことで、学生の問題点や改善点を見つけることができ、より勉強への向上心が生まれると思いますので、今のこまめな面談を継続するべきだと思います。
２. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しかねる問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	4	現状では十分な環境が整っていると思われる。	●適切である。
３. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2 部屋、各所にソファーが設置されており、休憩時間には学生が有効利用している。	講義棟の開設により学生用スペースはかなり充実している。	5	特に問題はない。	●適切である。
４. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。 学内に売店はないが、弁当の注文販売を毎日、パン・飲料等の出張販売を週に２回行っている。	弁当の販売、パンの販売、自動販売機などで購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。	5	食事場所のスペースは十分である。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストア（イートイン）もあり、利便性は更に向上している。	●学内に売店はないが、近隣にコンビニ等があり問題ない。

５.学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	・日本学生支援機構の奨学金を中心に案内している。 ・独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。	一般病院から奨学金の案内をいただいている。	4	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となった。	●適切である。
６.その他 国家試験について	現役生の国家試験合格率には課題があるが、既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し、高い合格率を維持している。	既卒者の受験者に対しては、専属で教員を配置し、綿密な計画のもとアクティブラーニング等も取り入れ、個々の学生の弱点克服に取り組んだ。	4	長年にわたり国家試験対策を担当した教員の教育力、分析力が高まっており、これまでの経験を次年度の国家試験対策に活用する。	●適切である。 ●自己評価５を目指して頑張って下さい。また、５にならない理由は？ ⇒ ５にならない理由として、現役生の国家試験合格率に課題があり、今後はその点を改善する必要があると考えております。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みについて

◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

①奈良県の脳卒中患者会２団体の会員の方々に複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら現場と同等の環境で学習する機会を作ることができた。

②在宅でのリハビリテーションを勉強する患者会の会合に年間を通じ学生がボランティアで参加し、活動を支援するとともに医療者としての素地を養う機会となった。

◇ホースセラピーへの取り組み

①11 月に、講師として東京農業大学の川嶋准教授、NPO 法人ピスカリ様にお越しいただきホースセラピー特別講義を開催した。

②今後も特別講義を開催する予定である。

◇スポーツリハへの取り組み

①高等学校の体育系クラブ部員を対象としたメディカルサポート事業を実施した。

②奈良県立登美ヶ丘高等学校など近隣の高等学校の生徒が来校し、本校の理学療法学科教員と学生が共同で高校生のメディカルサポートを実施した。

◇出前講座の実施

・四條畷市立田原中学校のキャリア教育講座（２年生）に講師派遣し、作業療法士の職業紹介及び体験指導を実施した。

その他･ご意見等（学校関係者）

●卒後、直ちに臨床で活躍できる人材の育成に努力されていることが伺えます。今後更に教育環境の充実と、講師陣の体制強化が望まれます。（川口委員長）
●学外の関係団体・高校・大学教授等との取組は、御校の教育について広める機会ともなり、今後ともすすめていくべきと思う。特に高校との連携は、学生募集にもつながるため、積極的に行うべきと思う。（大原委員）
●学校独自のカリキュラムとしてホースセラピーに取り組んでおり、全国的にも珍しい。治療効果が報告されており、魅力的である。ハード面・ソフト面とも充実しており、特に最新の機器を購入して講義に活用している。質の高い講義内容は、学生のモチベーション維持につながっている。（川原委員）
●全体的に自己評価も高く、大きな問題なく運営されているように感じた。又、新たな取り組みもされており、益々発展される事を期待します。（酒井委員）
●動物介在療法やスポーツリハビリ等、注目度の高いカリキュラムを組み込み、世間へアピールすることで、入学者の増員も見込めますし、在学生もそういった経験を行うことで、より卒後のビジョンを描くことができ、勉強への向上心も増すと思うので、良い取り組みだと思います。（谷川委員）
●すばらしい取り組みです。社会貢献活動、地域の学校との連携などを通して、社会から学校に対しての評価が上がってくると思われます。（前原委員）
●出前授業のターゲットを高校を主とすることが大切だと思われるし、校数も増大させたほうがよいと思う。又、メディカルサポートも、より一層の充実を期待したい。 ／ ＩＣＴの展開を組織的に重要視されているかどうか、読み取りにくい。 ／ 卒後に向けてグローバルな視点は必要なのか、また必要ならば対策は？ ／ 「学生サービス」は充実されていて、申し分がないと思います。（宮野委員）

以上